### 独立行政法人家畜改良センターの中期目標期間(平成 23 年度~平成 27 年度)に見込まれる業務の実績に関する評価の項目別評定調書

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1	第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措	置(以下「業務運営の効率化」。	と略記する。)					
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028					
度		評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035					
			行政事業レビューシート事業番号:0279					

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標 達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	1己評価	主務大臣による評価			
			業務実績自己評価		(見込評価)		(期間実績評価)	
業務運営の効率	業務運営の効率化	◎業務運営の効率化に関する	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
化に関する事項	に関する目標を達	目標を達成するため取るべき	◎業務運営の効率化に関する	В	<評定に至った理由>			
	成するためにとる	措置	目標を達成するためにとるべ		下記のとおり、下位の評価項	項目である中項目の		
	べき措置	指標=「中項目の項目数×2」	き措置		合計点がB評定の判定基準内	](満点×8/10≦		
<以下略>	<以下略>	(満点) に対する「各中項目の	○業務対象の重点化		合計点<12/10) であっ	たため。		
		点数の合計値」(合計点)の比	2/2点 (B)		満 点:6点(中項目3×	(2点)		
		率	○業務の運営の効率化及び組		合計点: 6点=2点×3			
		各中項目の評価点数の区分	織体制の合理化		6点/6点=1.0(10	/10)		
		は以下のとおりとする。	2/2点 (B)					
		S評価:4点、A評価:3点、	○経費の削減及び自己収入の		○業務対象の重点化	2点(B)		
		B評価:2点、C評価:1点、	拡大		○業務運営の効率化及び組織	体制の合理化		
		D評価: 0点	2/2点 (B)			2点(B)		
		A:満点×12/10≦合計点	合計 6/6点		○経費の縮減及び自己収入の	)拡大 2点(B)		
		B:満点×8/10≦合計点<満			合	計 点 6点		
		点×12/10						
		C:満点×5/10≦合計点<満						
		点×8/10						
		D:合計点、<満点×5/10						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第1-1	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化		
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035
			行政事業レビューシート事業番号:0279

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価		主務大臣による	5評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実	績評価)
業務対象の重点化	業務対象の重点化	○業務対象の重点化	<主要な業務実績>		評定 B		評定	
<以下略>	<以下略>	指標=「小項目の項目数×2」	○業務対象の重点化	В	<評定に至った理由>			
		(満点) に対する「各小項目の	◇家畜の改良増殖業務		下記のとおり、下位の評価項目	目である小項目		
		点数の合計値」(合計点)の比	の重点化		の合計点がB評定の判定基準内	(満点×8/1		
		率	2/2点 (B)		0 ≦合計点 < 8 / 1 0) であった	たため。		
		各小項目の評価点数の区分	◇飼料作物種苗の増殖					
		は以下のとおりとする。	業務		満 点:4点(小項目2×2点	点)		
		S評価:4点、A評価:3点、	2/2点 (B)		合計点: 4点=2点×2			
		B評価:2点、C評価:1点、			4点/4点=1.0(10/1	10)		
		D評価:0点	合計 4/4点					
					◇家畜の改良増殖業務の重点化	2点(B)		
		A:満点×12/10≦合計点			◇飼料作物種苗の増殖業務	2点(B)		
		B:満点×8/10≦合計点<			合 計 点			
		満点×12/10						
		C:満点×5/10≦合計点<						
		満点×8/10						
		D:合計点、<満点×5/10						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第1-1-(1)	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 (1	1) 家畜の改良増殖業務の重点化	
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業 行政事業レビューシート事業番号:0028	
度			

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標 達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	2評価		主務大臣による	評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)		
(1) 家畜の改良増殖業務	家畜の改良	◇家畜の改良増殖業務の	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターが担う家畜改良	増殖業務の	重点化	◇家畜の改良増殖業務の重点化	В	<評定に至った理由>			
増殖業務については、都道	重点化	指標=「細項目の項目数×	□種畜供給の重点化		下記のとおり、下位の評価項	目である細項目の		
府県・民間では取り組み難	<以下略>	2」(満点) に対する「各	2/2点 (B)		合計点がB評定の判定基準内(	満点×8/10≦		
い遺伝的に多様な育種資源		細項目の点数の合計値」	□高度技術等の活用による		合計点<満点×12/10)でる	あるため。		
を確保し、かかる多様な育		(合計点) の比率	家畜改良の実施					
種資源を最大限活用するこ		各細項目の評価点数の	2/2点 (B)		満 点:6点(細項目3×2点)			
とにより、全国的な家畜改		区分は以下のとおりとす	□多様な家畜改良等の推進		合計点:6点=2点×3			
良を推進することに重点化		る。	2/2点 (B)		6点/6点=1.0(10/1	0)		
する。また、民間や都道府		S評価:4点、A評価:	合 計 6/6点					
県との役割分担を明確に		3点、B評価:2点、C評			□種畜供給の重点化	2点(B)		
し、かつ、事業規模を厳し		価:1点、D評価:0点			□高度技術等の活用による家畜	<b></b>		
く見直してスリム化を図り						2点(B)		
つつ、都道府県・民間では		A:満点×12/10≦			□多様家畜改良等の推進	2点(B)		
取り組み難い新技術を活用		合計点			合 計 点	6 点		
することにより、効果的に		B:満点×8/10≦合計点						
家畜の改良速度を加速させ		<満点×12/10						
3.		C:満点×5/10≦合計点						
<以下略>		<満点×8/10						
		D:合計点、<満点×5						
		/10						

4. ての他参考情報	

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第1-1-(1)-ア	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化	(1) 家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビ	ューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法	人の業務実績・	自己評価		主務大臣による	評価	
			業	養務実績	自己評価	(見込評化	面)	(期間実績語	評価)
(1) 家畜の改良増	ア センターが担う	□種畜供給の重点化	<主要な業	養務実績>		評定	В	評定	
殖業務	家畜改良増殖業務に	指標=「微項目の項目数×2」	□種畜供給	の重点化	В	<評定に至った理由>			
センターが担う家畜	ついては、都道府	(満点) に対する「各微項目	△乳用牛	2/2点(B)		下記のとおり、下位の評	価項目である微項目		
改良増殖業務について	県・民間との役割分	の点数の合計値」(合計点)の	△肉用牛	2/2点(B)		の合計点がB評定の判定基	準内(満点×8/1		
は、都道府県・民間で	担を明確にしつつ、	比率	△豚	2/2点(B)		0 ≦合計点<満点×1 2/	(10) であるため。		
は取り組み難い遺伝的	これら関係者との連	各微項目の評価結果の区分	△鶏	2/2点(B)					
に多様な育種資源を確	携を強化するととも	は以下のとおりとする。	△馬、めん	半及び山羊		満 点:8点(微項目4×	2点)		
保し、かかる多様な育	に、事業規模を厳し	S評価:4点、A評価:3点、		2/2点 (B)		合計点: 8点=2点×4			
種資源を最大限活用す	く見直してスリム化	B評価:2点、C評価:1点、	合 計	10/10点		8点/8点=1.0(10	/10)		
ることにより、全国的	を図りつつ、都道府	D評価: O点							
な家畜改良を推進する	県・民間では取り組	A:満点×12/10≦				△乳用牛	2点(B)		
ことに重点化する。ま	み難い新たな育種改	合計点				△肉用牛	2点(B)		
た、民間や都道府県と	良技術とセンターが	B:満点×8/10≦合計点<				△鶏	2点(B)		
の役割分担を明確に	保有する多様な育種	満点×12/10				△馬、めん羊及び山羊	2点(B)		
し、かつ、事業規模を	資源を最大限活用し	C:満点×5/10≦合計点<				合 計 点	8点		
厳しく見直してスリム	て全国的な家畜改良	満点×8/10							
化を図りつつ、都道府	を推進するととも	D:合計点、<満点×5/10							
県・民間では取り組み	に、家畜改良の素材								
難い新技術を活用する	となる種畜の供給に								
ことにより、効果的に	ついて、以下のとお								
家畜の改良速度を加速	り重点化する。								
させる。									
<以下略>									

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報						
第1-1-(1)-ア-(ア)	第1 業務運営の効率化	1 業務対象の重点化	(1) 家畜の改力	良増殖業務の重点化 ア 科	種畜供給の重点化(ア)	乳用牛	
当該項目の重要度、難易				関連する政策評価・行政	₹ 行政事業レビュー	シート事業番号:0028	
度				レビュー	行政事業レビュー	シート事業番号:0035	

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標 達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評	価		主務大臣による	評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実	[績評価]
(1) 家畜の改良増殖	(ア) 乳用牛	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定B		評定	
業務	泌乳持続性を重	り、かつ顕著な成果	農林水産省、都道府県、関係団体、	В	<評定に至った理由>			
センターが担う家畜改	視した改良に取り	が得られた	生産者及び学識経験者の参画を得て、		これまでの実績から中期計	画どおり業務が		
良増殖業務については、	組むとともに、民	A:計画を上回る成果	全国的な乳用牛の改良推進に関する会		実施されると見込まれること	から「B」評定		
都道府県・民間では取り	間との役割分担を	が得られた	議を開催するとともに、ドナーの3産		とした。			
組み難い遺伝的に多様な	明確にするため、	B:計画どおり順調に	次までの集合検定の実施などにより、					
育種資源を確保し、かか	候補種雄牛の後代	実施された	泌乳持続性を重視した改良に取り組ん					
る多様な育種資源を最大	検定への参加につ	C:計画どおり実施さ	だ。また、民間との役割分担を明確に					
限活用することにより、	いては平成25年	れず、改善を要する	するため、センターで生産した候補種					
全国的な家畜改良を推進	度末までに民間事	D:計画どおり実施さ	雄牛の後代検定への参加については、					
することに重点化する。	業者に移行する。	れず、当該業務の廃	平成23年度に民間事業者に移行し、					
また、民間や都道府県と		止を含めた抜本的	計画どおり実施した。					
の役割分担を明確にし、		な改善を求める必						
かつ、事業規模を厳しく		要があると認めら						
見直してスリム化を図り		れる						
つつ、都道府県・民間で								
は取り組み難い新技術を								
活用することにより、効								
果的に家畜の改良速度を								
加速させる。								
<以下略>								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-1-(1)-ア-(イ)	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 (1) 家畜の改良	良増殖業務の重点化 ア 種畜供給	の重点化 (イ) 肉用牛
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己記	平価		主務大臣による評	严価
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
(1) 家畜の改良増殖業務	(イ) 肉用牛	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定
センターが担う家畜改良	近交係数上	り、かつ顕著な成果	農林水産省、都道府県、関係団体、	В	<評定に至った理由>		<評定に至った理由>
増殖業務については、都道	昇の抑制や脂	が得られた	生産者及び学識経験者の参画を得		これまでの実績から中期計画	どおり業務が実施	
府県・民間では取り組み難	肪交雑以外の	A:計画を上回る成果	て、全国的な肉用牛の改良推進に関		されると見込まれることから「I	3」評定とした。	
い遺伝的に多様な育種資源	形質も重視	が得られた	する会議を開催するとともに、近交				
を確保し、かかる多様な育	し、都道府	B:計画どおり順調に	係数上昇の抑制や早熟性、飼料利用				
種資源を最大限活用するこ	県・民間では	実施された	性及び繁殖性など脂肪交雑以外の				
とにより、全国的な家畜改	取り組み難い	C:計画どおり実施さ	形質も重視し、都道府県・民間では				
良を推進することに重点化	遺伝的に多様	れず、改善を要する	取り組み難い遺伝的に多様な種畜				
する。また、民間や都道府	な種畜の生	D:計画どおり実施さ	の生産・供給等に重点化し、計画ど				
県との役割分担を明確に	産・供給等に	れず、当該業務の廃	おり実施した。				
し、かつ、事業規模を厳し	重点化する。	止を含めた抜本的な					
く見直してスリム化を図り		改善を求める必要が					
つつ、都道府県・民間では		あると認められる					
取り組み難い新技術を活用							
することにより、効果的に							
家畜の改良速度を加速させ							
る。							
<以下略>							

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	- る基本情報		
第1-1-(1)-ア-(ウ)	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 (1) 家畜の改	良増殖業務の重点化 ア 種畜供	給の重点化 (ウ)豚
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

			評価に係る自己評価及び		<b>半仙</b>			
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		主務大臣による	評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績	責評価)
(1)家畜の改良増殖業務	(ウ)豚	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターが担う家畜改	都道府県・民間	かつ顕著な成果が得ら	農林水産省、都道府県、	В	<評定に至った理由>			
良増殖業務については、都	との役割分担を	れた	関係団体、生産者及び学識		種雄として直接肉豚生産農家	へ供給する業務を	•	
道府県・民間では取り組み	明確にするため、	A:計画を上回る成果が	経験者の参画を得て、全国		平成23年度末までに中止する。	とともに、都道府	F	
難い遺伝的に多様な育種	種雄として直接	得られた	的な豚の改良推進に関す		県・民間への育種改良素材の供給	給に重点化してお		
資源を確保し、かかる多様	肉豚生産農家へ	B:計画どおり順調に実	る会議を開催するととも		り、中期計画どおり業務の重点化	が実施されると見		
な育種資源を最大限活用	供給する業務を	施された	に、種雄として直接肉豚生		込まれることから「B」評定とし	た。		
することにより、全国的な	平成23年度末	C:計画どおり実施され	産農家へ供給する業務を					
家畜改良を推進すること	までに原則中止	ず、改善を要する	平成23年度末までに中					
に重点化する。また、民間	し、都道府県・民	D:計画どおり実施され	止した。また、都道府県・					
や都道府県との役割分担	間への育種改良	ず、当該業務の廃止を	民間への育種改良素材の					
を明確にし、かつ、事業規	素材の供給に重	含めた抜本的な改善を	供給に重点化して、都道府					
模を厳しく見直してスリ	点化する。	求める必要があると認	県・民間との役割分担の明					
ム化を図りつつ、都道府		められる	確化を図り、計画どおり実					
県・民間では取り組み難い			施した。					
新技術を活用することに								
より、効果的に家畜の改良								
速度を加速させる。								
<以下略>								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第1-1-(1)-ア-(エ)	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 (1) 家畜の改良	増殖業務の重点化 ア 種畜供給	合の重点化 (エ)鶏							
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035							

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価		主務大臣による	評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価	·)	(期間実績評価)	
(1)家畜の改良増殖業務	(工) 鶏	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターが担う家畜改	都道府県・民間	り、かつ顕著な成果	農林水産省、都道府県、関係団体、	В	<評定に至った理由>			
良増殖業務については、都	が行う地鶏等の	が得られた	生産者及び学識経験者の参画を得		これまでの実績から中期	計画どおり業務が		
道府県・民間では取り組み	特色ある鶏の作	A:計画を上回る成果	て、全国的な鶏の改良推進に関する		実施されると見込まれること	とから「B」評定と		
難い遺伝的に多様な育種	出を支援するた	が得られた	会議を開催するとともに、都道府		した。			
資源を確保し、かかる多様	めの種鶏の改良、	B:計画どおり順調に	県・民間が行う地鶏等の特色ある鶏					
な育種資源を最大限活用	生産及び供給に	実施された	の作出を支援するための種鶏の改					
することにより、全国的な	重点化する。	C:計画どおり実施さ	良、種鶏・種卵の生産・供給に重点					
家畜改良を推進すること		れず、改善を要する	化し、計画どおり実施した。					
に重点化する。また、民間		D:計画どおり実施さ						
や都道府県との役割分担		れず、当該業務の廃						
を明確にし、かつ、事業規		止を含めた抜本的な						
模を厳しく見直してスリ		改善を求める必要が						
ム化を図りつつ、都道府		あると認められる						
県・民間では取り組み難い								
新技術を活用することに								
より、効果的に家畜の改良								
速度を加速させる。								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-1-(1)-ア-(オ)	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化	(1)家畜の改良増殖業務の重点化 ア 種畜供給の重点化 (オ)馬、めん羊及び山羊	
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業 行政事業レビューシート事業番号:0028	
度		一	

2	2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		主務大臣によ	る評価	
			業務実績	自己評価	(見込評信	后)	(期間)	[績評価]
(1) 家畜の改良増殖業務	(オ) 馬、めん羊及び	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターが担う家畜改良増殖業	山羊	り、かつ顕著な成果	馬、めん羊及び山羊につ	В	<評定に至った理由>			
<b>客については、都道府県・民間で</b>	生産現場でのニー	が得られた	いて、意見・情報交換を通		これまでの実績から中	期計画どおり業務		
は取り組み難い遺伝的に多様な育	ズを踏まえ、改良推	A:計画を上回る成果	じて把握した、発育や繁殖		が実施されると見込まれ	ることから「B」		
重資源を確保し、かかる多様な育	進・技術指導について	が得られた	性の向上などの生産現場		評定とした。			
重資源を最大限活用することによ	取り組む。	B:計画どおり順調に	でのニーズを踏まえ、改良					
0、全国的な家畜改良を推進する		実施された	を推進するとともに、育種					
ことに重点化する。また、民間や		C:計画どおり実施さ	素材の提供や繁殖・飼養管					
都道府県との役割分担を明確に		れず、改善を要する	理技術に係る講習会を開					
し、かつ、事業規模を厳しく見直		D:計画どおり実施さ	催し、計画どおり実施し					
してスリム化を図りつつ、都道府		れず、当該業務の廃	た。					
県・民間では取り組み難い新技術		止を含めた抜本的な						
を活用することにより、効果的に		改善を求める必要が						
家畜の改良速度を加速させる。		あると認められる						
その際・・・<中略>・・・								
まか、馬、めん羊、山羊などの民								
間や都道府県による取組が限定的								
なものについても、生産現場での								
ニーズを踏まえ、改良推進・技術								
指導について積極的に取り組む。								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-1-(1)-イ	第1 業務運営の効率化 1 業	務対象の重点化 (1)家畜の	改良増殖業務の重点化 イ 高度技	支術等の活用による家畜改良の実施				
当該項目の重要度、難易			関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028				
度			レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035				

4	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己語	評価	主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	(見込評信	<b></b>	(期間実統	責評価)
(1) 家畜の改良増殖	イ 家畜の改良速	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
業務	度の加速化を図るた	かつ顕著な成果が得られ	乳用牛、肉用牛及び豚の改良速度の加	В	<評定に至った理由>			
センターが担う家畜改	め、家畜の遺伝的能	た	速化を図るため、SNP情報の活用		これまでの実績から「	中期計画どおり業		
良増殖業務については、	力評価技術、未経産	A:計画を上回る成果が得	(特定の形質と染色体を構成する一		務が実施されると見込	まれることから		
都道府県・民間では取り	採卵技術、ドナーの	られた	部の塩基対との関係に関する情報の		「B」評定とした。			
組み難い遺伝的に多様な	集合検定、体外受精	B:計画どおり順調に実施	活用)など家畜の遺伝的能力評価技術					
育種資源を確保し、かか	技術等の新技術等を	された	の改善に取り組むとともに、当該技術					
る多様な育種資源を最大	活用した家畜の改良	C:計画どおり実施されず、	と併せて未経産採卵技術、ドナーの集					
限活用することにより、	に積極的に取り組	改善を要する	合検定、体外受精技術等の民間では取					
全国的な家畜改良を推進	む。	D:計画どおり実施されず、	り組み難い新技術等を活用した家畜					
することに重点化する。		当該業務の廃止を含めた	の改良に積極的かつ重点的に取り組					
また、民間や都道府県と		抜本的な改善を求める必	むことにより、計画どおり実施した。					
の役割分担を明確にし、		要があると認められる						
かつ、事業規模を厳しく								
見直してスリム化を図り								
つつ、都道府県・民間で								
は取り組み難い新技術を								
活用することにより、効								
果的に家畜の改良速度を								
加速させる。								
<以下略>								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-1-(1)-ウ	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化 (1)	家畜の改良増殖業務の重点化 ウ 多様な	家畜改良等の推進
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	票 達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

. 中期目標期間の業務に係る	る目標、計画、業務実績、「	中期目標期間評価に係	る自己評価及び主務大臣による評価	<u> </u>					
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価			主務大臣	による評価	よる評価	
			業務実績	自己評価	(見)	込評価)	(期間	引実績評価)	
(1) 家畜の改良増殖業務	ウ 6次産業化をはじめ	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定		
センターが担う家畜改良増	とする特色ある家畜による	り、かつ顕著な成果	6 次産業化をはじめとする特色あ	В	<評定に至った現	里由>		·	
殖業務については、都道府	多様な畜産経営、消費者ニ	が得られた	る家畜による多様な畜産経営、消費者		これまでの実	績から中期計画ど			
県・民間では取り組み難い遺	ーズに応える畜産物につい	A:計画を上回る成果	ニーズに応える畜産物についての供		おり業務が実施	されると見込まれ			
伝的に多様な育種資源を確保	ての供給を支援するという	が得られた	給を支援するという観点から、肉用牛		ることから「B」	評定とした。			
し、かかる多様な育種資源を	観点から、肉用牛では日本	B:計画どおり順調に	では日本短角種及び褐毛和種、乳用牛						
最大限活用することにより、	短角種及び褐毛和種、乳用	実施された	ではブラウンスイス種及びジャージ						
全国的な家畜改良を推進する	牛ではブラウンスイス種及	C:計画どおり実施さ	ー種について、遺伝的能力評価を実施						
ことに重点化する。また、民	びジャージー種について、	れず、改善を要する	する等により改良を推進した。また、						
間や都道府県との役割分担を	遺伝的能力評価を実施する	D:計画どおり実施さ	馬、めん羊、山羊等の民間や都道府県						
明確にし、かつ、事業規模を	等により改良を推進する。	れず、当該業務の廃	による取組が限定的なものについて						
厳しく見直してスリム化を図	また、馬、めん羊、山羊等	止を含めた抜本的	も、意見・情報交換を通じて把握した、						
りつつ、都道府県・民間では	の民間や都道府県による取	な改善を求める必	発育や繁殖性の向上などの生産現場						
取り組み難い新技術を活用す	組が限定的なものについて	要があると認めら	でのニーズを踏まえ、育種素材の提供						
ることにより、効果的に家畜	も、生産現場でのニーズを	れる	などを通じて改良を推進するととも						
の改良速度を加速させる。	踏まえ、改良推進・技術指		に、繁殖・飼養管理技術に関する講習						
<以下略>	導について積極的に取り組		会を開催し、計画どおり実施した。						
	t.								

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-1-(2)	第1 業務運営の効率化	1 業務対象の重点化	(2) 飼料作物種苗の増殖業務					
当該項目の重要度、難易			関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028					
度	1		評価・行政事業レビュー					

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価		主務大臣によ	こる評価 こうしゅう
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 飼料作物種苗の増殖業	(2)飼料作物種苗の	指標=「細項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定 B	評定
務	増殖業務	(満点) に対する「各細項目の	◇飼料作物種苗の増殖業務	В	<評定に至った理由>	
センターが担う飼料作物種		点数の合計値」(合計点)の比率	□飼料作物種苗の増殖業務		下記のとおり、下位の評価項目であ	
苗の増殖業務については、飼		各細項目の評価点数の区分は	2/2点(B)		る細項目の合計点がB評定の判定基準	
料自給率の向上に向け、我が		以下のとおりとする。	□役割分担の明確化		内(満点×8/10≦合計点<12/	
国の風土に適した国内育成品		S評価:4点、A評価:3点、	2/2点(B)		10)であるため。	
種の定着を更に進める必要が		B評価:2点、C評価:1点、	合 計 4/4点			
あることから、飼料用原種子		D評価:0点			満 点:4点(細項目2×2点)	
の国内需要に的確に対応し、		A:満点×12/10≦合計点			合計点: 4点=2点×2	
高品質の種子を供給する。こ		B:満点×8/10≦合計点<			4点/4点=1.0(10/10)	
のため、品種改良を行う新品		満点×12/10				
種育成機関、二次増殖及び種		C:満点×5/10≦合計点<			□飼料作物種苗の増殖業務 2点(B)	
子の販売を行う民間種苗会社		満点×8/10			□役割分担の明確化 2点(B)	
等と連携協力するとともに、		D:合計点、<満点×5/10			合 計 点 4点	
役割分担を明確にする。この						
際、需給動向、新品種の育成						
状況やニーズを適切に把握						
し、効率的な生産を行う。						

4. その他参考情報			

1.当事務及び事業に関する基本情報									
第1-1-(2)-ア	第1 業務運営の効率化 1 業務対象の重点化	(2) 飼料作物種苗の増殖業務 ア 飼料作物種苗の増殖業務							
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028							
度									

2	2. 主要な経年データ										
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)		

3. 中期目標期間の業務に係る目標	、計画、業務実績、	中期目標期間評価に係る	る自己評価及び主務大臣によ	る評価		
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣に	よる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 飼料作物種苗の増殖業務	ア センターが担う	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターが担う飼料作物種苗の	飼料作物種苗の増殖	かつ顕著な成果が得ら	センターが担う飼料作物種	В	<評定に至った理由>	
増殖業務については、飼料自給率の	業務については、飼	れた	苗の増殖業務について、飼料		これまでの実績から中期計画どおり業	
向上に向け、我が国の風土に適した	料自給率の向上に向	A:計画を上回る成果が	用原種子の国内需要に的確に		務が実施されると見込まれることから	
国内育成品種の定着を更に進める	け、我が国の風土に	得られた	対応し、収量性、耐病性、耐		「B」評定とした。	
必要があることから、飼料用原種子	適した国内育成品種	B:計画どおり順調に実	倒伏性等が優れた国内育成品			
の国内需要に的確に対応し、高品質	の定着をさらに進め	施された	種の高品質の種子を供給し、			
の種子を供給する。このため、品種	る必要があることか	C:計画どおり実施され	計画どおり実施した。			
改良を行う新品種育成機関、二次増	ら、飼料用原種子の	ず、改善を要する				
殖及び種子の販売を行う民間種苗	国内需要に的確に対	D:計画どおり実施され				
会社等と連携協力するとともに、役	応し、高品質の種子	ず、当該業務の廃止を				
割分担を明確にする。この際、需給	を供給する。	含めた抜本的な改善を				
動向、新品種の育成状況やニーズを		求める必要があると認				
適切に把握し、効率的な生産を行		められる				
う。						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報						
第1-1-(2)-イ	第1 業務運営の効率化	1 業務対象の重点化	(2) 飼料作物	種苗の増殖業務	イ 役割分担	の明確化	
当該項目の重要度、難易				関連する研究開発	<b>ጅ評価、政策</b>	行政事業レビューシート事業番号:00	2 8
度				評価・行政事業レ	/ビュー		

2. 主要な経年データ										
評価対象となる指標	達成目標	基準値	平 成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	(参考情報)		
品種・系統の維持数	概ね100		9 8	9 8	9 7	9 7				

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣に	よる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 飼料作物種苗の	イ 品種改良を行う新	指標=品種・系統の維持数	<主要な業務実績>		評定 B	評定
増殖業務	品種育成機関、二次増	S:目標値に対する達成割	品種改良を行う新品種育成機	В	<評定に至った理由>	
センターが担う飼料作	殖及び種子の販売を行	合が110%以上であ	関、二次増殖及び種子の販売を行		民間種苗会社等との役割分担の下、中	<b>-</b>
物種苗の増殖業務につい	う民間種苗会社等と連	り、かつ特に優れた成果	う民間種苗会社等と連携協力の		期計画で示された数の品種・系統が維持	<b></b>
ては、飼料自給率の向上	携協力の下、役割分担	が認められた場合	下、役割分担を明確にするととも		されると見込まれることから、「B」評別	<u> </u>
に向け、我が国の風土に	を明確にする。	A:目標値に対する達成割	に、国を始めとする関係機関との		とした。	
適した国内育成品種の定	この際、国をはじめ	合が110%以上	連携を密にし、需給動向、新品種			
着を更に進める必要があ	とする関係機関との連	B:目標値に対する達成割	の育成状況やニーズを適切に把握			
ることから、飼料用原種	携を密にし、需給動向、	合が90%以上110%	し、効率的な生産を行った。これ			
子の国内需要に的確に対	新品種の育成状況やニ	未満	らにより、増殖対象を新品種・系			
応し、高品質の種子を供	ーズを適切に把握し、	C:目標値に対する達成割	統及び需要の高い品種・系統に重			
給する。このため、品種	効率的な生産を行う。	合が70%以上90%未	点化し、中期目標期間を通じて毎			
改良を行う新品種育成機	これらにより、増殖	満	年概ね100品種・系統を維持し、			
関、二次増殖及び種子の	対象を新品種・系統及	D:目標値に対する達成割	計画どおり実施した。			
販売を行う民間種苗会社	び需要の高い品種・系	合が70%未満、又は業				
等と連携協力するととも	統に重点化し、中期目	務運営の改善その他必要				
に、役割分担を明確にす	標期間を通じて毎年概	な措置を命ずる必要があ				
る。この際、需給動向、	ね100品種・系統を	ると認められる				
新品種の育成状況やニー	維持する。					
ズを適切に把握し、効率						
的な生産を行う。						

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第1-2	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の	合理化								
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035							
			行政事業レビューシート事業番号:0279							

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主	務大臣による評価	<b>E</b>
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
2 業務運営の効率	第1-2 業務運	指標=「小項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定B		評定
化及び組織体制の合	営の効率化及び組	(満点) に対する「各小項目	○業務運営の効率化及び組織体制の	В	<評定に至った理由>		
理化など	織体制の合理化等	の点数の合計値」(合計点)の	合理化		下記のとおり、下位の評価項目	である小項目の	
<以下略>	<以下略>	比率	◇業務運営の効率化		合計点がB評定の判定基準内(満	点×8/10≦	
		各小項目の評価点数の区	2/2点 (B)		合計点<満点×12/10)であ	あったため。	
		分は以下のとおりとする。	◇組織体制の合理化・強化		満 点:10点(小項目5×2	2点)	
		S評価: 4点、A評価: 3点、	2/2点 (B)		合計点:9点=1点+2点×4	1	
		B評価:2点、C評価:1点、	◇ガバナンスの強化・充実				
		D評価:0点	2/2点 (B)		◇業務運営の効率化	2点(B)	
			◇リスク関知の強化		◇組織体制の合理化・強化	2点(B)	
		A:満点×12/10≦合計点	2/2点 (B)		◇ガバナンスの強化・充実	2点(B)	
		B:満点×8/10≦合計点<	◇情報セキュリティ対策の強化		◇リスク管理の強化	2点(B)	
		満点×12/10	2/2点 (B)		◇情報セキュリティ対策の強化	2点(B)	
		C:満点×5/10≦合計点<	合計 10/10点		合 計 点	9点	
		満点×8/10					
		D:合計点、<満点×5/10					

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報										
第1-2-(1)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の	合理化 (1)業務運営の効率化									
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028								
度		評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035								
			行政事業レビューシート事業番号:0279								

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価		主務大臣による	評価	
			業務実績	自己評価	(見込評化	<b>価</b> )	(期間実	績評価)
(1)業務運営の効率化	(1) 業務運営の	指標=「細項目の項目数×	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターは、本中期目標	効率化	2」(満点) に対する「各	◇業務運営の効率化	В	<評定に至った理由>			
を効率的かつ確実に達成す	<以下略>	細項目の点数の合計値」	□家畜等の遺伝資源の活用		下記のとおり、下位の評価項	目である細項目の合計		
るため、引き続き保有する		(合計点) の比率	2/2点(B)		点がB評定の判定基準内(満	点×8/10≦合計点		
家畜などの遺伝資源及び人		各細項目の評価点数の	□人材の活用		<満点×12/10)であっ	たため。		
材、土地・建物などの資産		区分は以下のとおりとす	2/2点(B)					
を最大限活用するととも		る。	□土地・建物等の有効活用		満 点:10点(細項目5×	2点)		
に、事務の進捗状況に応じ		S評価: 4点、A評価:	2/2点(B)		合計点: 9点=1点+2点	$\times 4$		
た適切な対処が行えるよう		3点、B評価:2点、C評	□業務の進行管理		9点/10点=0.9(9/	10)		
進行管理を行い、業務運営		価:1点、D評価:0点	2/2点(B)					
の効率化を推進する。その		A:満点×12/10≦	□業務の重複の防止		□家畜等の遺伝資源の活用	2点(B)		
際、家畜伝染性疾病の発生		合計点	2/2点(B)		□人材の活用	2点(B)		
などの業務上のリスク管理		B:満点×8/10≦合計点			□土地・建物の有効活用	2点(B)		
に配慮する。		<満点×12/10	合計 10/10点		□業務の進行管理	2点(B)		
さらに、業務の重複を避		C:満点×5/10≦合計点			□業務の重複の防止	2点(B)		
けるため、試験研究機関や		<満点×8/10			合 計 点	10点		
都道府県等関係者との情報		D:合計点、<満点×5/						
交換や調整などを通じ、役		1 0						
割分担の明確化に努める。								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	ける基本情報			
第1-2-(1)-ア	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	理化 (1)業務運営の効率化	ア 家畜等の遺伝資源の活用
当該項目の重要度、難易			関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度			レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035
				行政事業レビューシート事業番号:0279

4	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	2評価		主務大臣による	5評価	
			業務実績	自己評価	()	見込評価)	(期間	実績評価)
(1)業務運営の効率化	ア 家畜等の遺伝資	指標=「微項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターは、本中期目標	源の活用	(満点)に対する「各微項目	□家畜等の遺伝資源の活用	В	<評定に至った理	皇由>		
を効率的かつ確実に達成す		の点数の合計値」(合計点)の	△家畜遺伝資源の活用		下記のとおり、	下位の評価項目である微		
るため、引き続き保有する		比率	2/2点(B)		項目の合計点がB	3評定の判定基準内(満点		
家畜などの遺伝資源及び人		各微項目の評価結果の区分	△飼料作物種苗遺伝資源の保存		×8/10≦合計点<	<満点×12/10) であるた		
材、土地・建物などの資産		は以下のとおりとする。	2/2点(B)		め。			
を最大限活用するととも		S評価:4点、A評価:3点、	合計 4/4点		満 点:4点(	微項目2×2点)		
に、事務の進捗状況に応じ		B評価:2点、C評価:1点、			合計点:2点×	2 = 4点		
た適切な対処が行えるよう		D評価:0点			4点/4点=1	0.0 = 1.0 / 1.0		
進行管理を行い、業務運営		A:満点×12/10≦合計点						
の効率化を推進する。その		B:満点×8/10≦合計点			△家畜遺伝資源の	活用		
際、家畜伝染性疾病の発生		<満点×12/10				2点(B)		
などの業務上のリスク管理		C:満点×5/10≦合計点			△飼料作物種苗遺	は伝資源の保存		
に配慮する。		<満点×8/10				2点(B)		
さらに、業務の重複を避		D:合計点、<満点×5/10			合	<b>計</b> 点 4点		
けるため、試験研究機関や								
都道府県等関係者との情報								
交換や調整などを通じ、役								
割分担の明確化に努める。								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(1)-ア-(ア)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合	理化 (1)業務運営の効率化	ア 家畜等の遺伝資源の活用 (ア)家畜遺伝資源の活用
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評	严価	主務大臣による評価	<b>E</b>
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(1)業務運営の効率化	(ア) 家畜改良増殖業	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標を	務においては、センタ	り、かつ顕著な成果	家畜改良増殖業務においては、セン	В	<判定に至った理由>	
効率的かつ確実に達成するた	ーが保有する多様な	が得られた	ターが保有する多様な育種資源を活用		PEDの発生により、外部から伝染性疾病	
り、引き続き保有する家畜な	育種資源を活用し、都	A:計画を上回る成果	し、都道府県・民間では取り組み難い		の要因が侵入しないよう徹底的な衛生措置が	
どの遺伝資源及び人材、土	道府県・民間では取り	が得られた	高度な育種改良技術を用い、家畜改良		達成されなかったものの、主目標である家畜	
也・建物などの資産を最大限	組み難い新たな育種	B:計画どおり順調に	の素材となる種畜の生産・供給を行っ		遺伝資源の活用には影響はなく、中期計画ど	
舌用するとともに、事務の進	改良技術を用い、家畜	実施された	た。(詳細は、中期計画「第2の1の(1)		おりの活用が見込まれることとから「B」評	
歩状況に応じた適切な対処が	改良の素材となる種	C:計画どおり実施さ	~(5)」該当部分において記載する。)		定とした。	
<b>亍えるよう進行管理を行い、</b>	畜の生産・供給を行	れず、改善を要する	防疫対策を徹底するため、毎年度の			
<b>養務運営の効率化を推進す</b>	う。(再掲)	D:計画どおり実施さ	衛生検査計画に沿って家畜伝染性疾病		<その他の事項>	
る。その際、家畜伝染性疾病	また、その際、防疫	れず、当該業務の廃	に関する定期的かつ継続的な検査を実		センターで「PED」が発生したことに関	
D発生などの業務上のリスク	対策を徹底するため、	止を含めた抜本的な	施した。防疫エリアについては、「牧場		して「遺伝資源の活用」と「防疫対策の徹底」	
管理に配慮する。	家畜伝染病に関する	改善を求める必要が	区域」「飼養管理区域」「畜舎区域」を		では、評価項目の主たる目標が異なることに	
さらに、業務の重複を避け	定期的な検査を実施	あると認められる	明確にし、外部から家畜伝染性疾病の		考慮し、メリハリを付けて評価すべき。	
るため、試験研究機関や都道	するとともに、防疫エ		要因が侵入しないよう衛生管理を行っ		(有識者会議委員意見)	
5月等関係者との情報交換や	リアを明確にし、外部		た。平成26年度にセンター本所にお			
<b>調整などを通じ、役割分担の</b>	から伝染性疾病の要		いて豚流行性下痢(PED)が発生し			
月確化に努める。	因が侵入しないよう、		たが、速やかな初動防疫により限定的			
	徹底的な衛生措置を		な発生に留めた。			
	行う。					

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報			I
第1-2-(1)-ア-(イ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合	理化 (1)業務運営の効率化	ア 家畜等の遺伝資源の活用 (イ) 飼料作物種苗遺伝資源の保存	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028	
度		評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0279	

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣によ	にる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(1)業務運営の効率化	(イ) 飼料作物種苗の	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標	増殖業務においては、	り、かつ顕著な成果が	飼料作物種苗の増殖業務におい	В	<評定に至った理由>	
を効率的かつ確実に達成す	国をはじめとする関係	得られた	て、国をはじめとする関係機関と		これまで実績から、中期計画どおり飼料	타
るため、引き続き保有する	機関との連携を密に	A:計画を上回る成果	の連携を密にし、需給動向、新品		作物遺伝資源の保存が行われると見込まれ	7
家畜などの遺伝資源及び人	し、需給動向、新品種	が得られた	種の育成状況やニーズを適切に把		ることから「B」評定とした。	
材、土地・建物などの資産	の育成状況やニーズを	B:計画どおり順調に	握し、効率的な生産を行った。ま			
を最大限活用するととも	適切に把握し、効率的	実施された	た、遺伝資源の保存に資するため、			
に、事務の進捗状況に応じ	な生産を行う。	C:計画どおり実施さ	多様な飼料作物の遺伝資源につい			
た適切な対処が行えるよう	また、遺伝資源の保	れず、改善を要する	て、国立研究開発法人農業生物資			
進行管理を行い、業務運営	存に資するため、多様	D:計画どおり実施さ	源研究所等の関係機関と連携を図			
の効率化を推進する。その	な飼料作物の遺伝資源	れず、当該業務の廃止	りながら、地域性を考慮し、関係			
際、家畜伝染性疾病の発生	について、独立行政法	を含めた抜本的な改善	牧場で分担して栄養体保存等を行			
などの業務上のリスク管理	人農業生物資源研究所	を求める必要があると	い、計画どおり実施した。			
に配慮する。	等の関係機関と連携を	認められる				
さらに、業務の重複を避	図りながら、地域性を					
けるため、試験研究機関や	考慮し、関係牧場で分					
都道府県等関係者との情報	担して栄養体保存等を					
交換や調整などを通じ、役	行う。					
割分担の明確化に努める。						

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-2-(1)-イ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	理化 (1)業務運営の効率化	イ 人材の活用					
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028					
度		評価・行政事業レビュー						

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の	)業務実績・自己	2評価	主務大臣による評価			
			業務等	<b></b>	自己評価	(見込	込評価)	(期間	引実績評価)
(1)業務運営の効率化	イ 人材の活用	指標=「微項目の項目数×2」	<主要な業務実績	>		評定	В	評定	
センターは、本中期目標	<以下略>	(満点) に対する「各微項目	□人材の活用		В	<評定に至った理由	>		
を効率的かつ確実に達成す		の点数の合計値」(合計点)の	△人事配置	2/2点(B)		下記のとおり、下位	立の評価項目である微		
るため、引き続き保有する		比率	△組織の合理化・			項目の合計点がB評	定の判定基準内(満点		
家畜などの遺伝資源及び人		各微項目の評価結果の区分	業務の効率化	2/2点(B)		×8/10≦合計点	<満点×12/10)		
材、土地・建物などの資産		は以下のとおりとする。	△人材の育成	2/2点(B)		であるため。			
を最大限活用するととも		S評価:4点、A評価:3点、	合 計	6/6点					
に、事務の進捗状況に応じ		B評価:2点、C評価:1点、				満 点:6点(微項	頁目 3 × 2 点)		
た適切な対処が行えるよう		D評価: 0点				合計点:6点=2	点×3		
進行管理を行い、業務運営		A:満点×12/10≦合計点				6点/6点=1.	0 (10/10)		
の効率化を推進する。その		B:満点×8/10≦合計点<							
際、家畜伝染性疾病の発生		満点×12/10				△人事配置	2点(B)		
などの業務上のリスク管理		C:満点×5/10≦合計点<				△組織の合理化・業	務遂行		
に配慮する。		満点×8/10				の効率化	2点(B)		
さらに、業務の重複を避		D:合計点、<満点×5/10				△人材の育成	2点(B)		
けるため、試験研究機関や						合	計 点 6点		
都道府県等関係者との情報									
交換や調整などを通じ、役									
割分担の明確化に努める。									

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関す	ける基本情報			
第1-2-(1)-イ-(ア)	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	理化 (1)業務運営の効率化	イ 人材の活用 (ア)人事配置
当該項目の重要度、難易			関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度			評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035
				行政事業レビューシート事業番号:0279

2. 主要	長な経年データ								
評価対	対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3	中期目標期間の業務に係る目標	票、計画、業務実績、	中期目標期間評価に係る	る自己評価及び主務大臣による	5評価				
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価			主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	(見込詞	平価)	(期間	引実績評価)
	(1)業務運営の効率化	(ア) 職員の適材適所	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
	センターは、本中期目標を効率	を推進するため、人事	かつ顕著な成果が得ら	職員の適材適所を推進する	В	これまでの実績から	ら中期計画どおり人		
	的かつ確実に達成するため、引き	配置に当たっては、過	れた	ため、人事配置に当たっては、		事配置に係る取組が多	<b>実施されると見込ま</b>		
	続き保有する家畜などの遺伝資源	去の職歴、業績等を考	A:計画を上回る成果が	職歴、業績等を考慮し、業務遂		れることから「B」言	平定とした。		
	及び人材、土地・建物などの資産	慮し、業務遂行のため	得られた	行のための適性や能力を反映					
	を最大限活用するとともに、事務	の適性や能力を反映	B:計画どおり順調に実	した人事配置を行うとともに、					
	の進捗状況に応じた適切な対処が	した人事配置にする	施された	人事異動を行う場合の多方面					
	行えるよう進行管理を行い、業務	とともに、職責を十分	C:計画どおり実施され	からの人事企画を精査する機					
	運営の効率化を推進する。その際、	に果たせる人事配置	ず、改善を要する	会として人事構想会議や人事					
	家畜伝染性疾病の発生などの業務	となるよう、人事管理	D:計画どおり実施され	企画会議を開催して人事情報					
	上のリスク管理に配慮する。	者及び人事企画担当	ず、当該業務の廃止を	を把握し、適性や能力を的確に					
	さらに、業務の重複を避けるた	者が業務適性等につ	含めた抜本的な改善を	反映した人事配置を行い、計画					
	め、試験研究機関や都道府県等関	いて多方面から評	求める必要があると認	どおり実施した。					
	係者との情報交換や調整などを通	価・検討し、実施する。	められる						
	じ、役割分担の明確化に努める。								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-2-(1)-イ-(イ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び	び組織体制の合理化 (1)業務運営の効率化 イ 人材の活用 (イ)組織の合理化・業務遂行の効率化
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
度		

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標 達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己語	評価	主務大臣による評価	よる評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)	
(1)業務運営の効率化	(イ) 家畜飼養管理	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目標を	部門と飼料生産管理	り、かつ顕著な成果	組織の合理化、業務の効率化の推	В	これまでの実績から中期計画どおり組織の合理化		
効率的かつ確実に達成するた	部門の統合を図る	が得られた	進を図るため策定した第3期中期		等に向けた取組が実施されると見込まれることから		
め、引き続き保有する家畜な	等、組織の合理化を	A:計画を上回る成果	目標期間中の組織の見直し方針を		「B」評定とした。		
どの遺伝資源及び人材、土	進め、職員の業務遂	が得られた	踏まえ、必要な組織の見直しを行				
地・建物などの資産を最大限	行の効率化を図る。	B:計画どおり順調に	い、計画どおり実施した。		<参考>		
活用するとともに、事務の進		実施された			見直し方針を踏まえ、次の組織見直しを実施した。		
捗状況に応じた適切な対処が		C:計画どおり実施さ			① 平成26年4月		
行えるよう進行管理を行い、		れず、改善を要する			鳥取牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課		
業務運営の効率化を推進す		D:計画どおり実施さ			を設置		
る。その際、家畜伝染性疾病		れず、当該業務の廃			② 平成26年10月		
の発生などの業務上のリスク		止を含めた抜本的な			・奥羽牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課		
管理に配慮する。		改善を求める必要が			を設置		
さらに、業務の重複を避け		あると認められる			・茨城牧場、岡崎牧場、兵庫牧場の業務第一課		
るため、試験研究機関や都道					と業務第二課を統合し、業務課を設置		
府県等関係者との情報交換や					・宮崎牧場の種畜第二課と飼料課を統合し業務		
調整などを通じ、役割分担の					第二課を設置するとともに、種畜第一課を業務		
明確化に努める。					第一課に名称変更		
					③ 平成27年4月		
					・本所の技術部と企画調整部を統合		
					・新冠牧場の種畜課と飼料課を統合し、業務課		
					を設置		

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第1-2-(1)-イ-(ウ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	理化 (1)業務運営の効率化 イ 人材の活用 (ウ)人材の育成							
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		評価・行政事業レビュー							

2.	主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係	る目標、計画、業務実績	責、中期目標期間評価	に係る自己評価及び主務大	臣による評価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価		主務大臣による	評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価		(期間)	<b></b>
(1) 業務運営の効率化	(ウ) 人材の育成を図る	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターは、本中期目標	ため、技術水準、事務処	り、かつ顕著な成果	一般職員の技術水準、事	В	<評定に至った理由>			
を効率的かつ確実に達成す	理能力の向上等のための	が得られた	務処理能力の向上等を図る		<ul><li>・これまでの実績から、一月</li></ul>	般職員について中期		
るため、引き続き保有する	研修を計画的に進める。	A:計画を上回る成果	ため研修・講習を受講させ、		計画に則した人材の育成が身	見込まれることから		
家畜などの遺伝資源及び人	その際、技術専門職員	が得られた	免許・資格を取得させた。		「B」評定とした。			
材、土地・建物などの資産	の資質の向上及び業務の	B:計画どおり順調に	また、技術専門職員の業務					
を最大限活用するととも	高度化を推進するため、	実施された	の高度化や専門技術の取得		<参考>			
に、事務の進捗状況に応じ	家畜受精卵移植等の繁殖	C:計画どおり実施さ	を図るため研修を受講さ		・一般職員の技術水準、事務を	処理能力の向上等を		
た適切な対処が行えるよう	業務、各種分析・検査業	れず、改善を要する	せ、免許・資格を取得させ		図るための研修、資格の取得	については、新人職		
進行管理を行い、業務運営	務等に要する高度な技	D:計画どおり実施さ	るなど、計画どおり実施し		員研修、管理・事務関係研修	、技術向上研修、安		
の効率化を推進する。その	術・資格の取得や研修を	れず、当該業務の廃	た。		全衛生•施設管理関係研修及	びシステム関係研修		
際、家畜伝染性疾病の発生	計画的に進める。	止を含めた抜本的			を受講させ、安全管理関係資格	烙(甲種防火管理者、		
などの業務上のリスク管理		な改善を求める必			第一種衛生管理者など)、作	業機械等運転・操作		
に配慮する。		要があると認めら			資格(フォークリフト運転技	(能)、特殊作業技能		
さらに、業務の重複を避		れる			講習(危険物取扱者、有機溶	系剤作業主任者など)		
けるため、試験研究機関や					及び畜産技術関係資格(家畜	人工授精師など)を		
都道府県等関係者との情報					取得させた。			
交換や調整などを通じ、役					・平成27年度も計画的に研	修・講習を受講させ、		
割分担の明確化に努める。					免許・資格を取得させること	としている。		

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(1)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合	理化 (1)業務運営の効率化	ウ 土地・建物等の有効活用
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2.	主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	上評価		主務大臣に	よる評価	
			業務実績	自己評価		(見込評価)	(期間実績	評価)
(1)業務運営の効率化	ウ 土地・建物等の有	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターは、本中期目標	効活用	り、かつ顕著な成果	保有資産の有効活用を図るため、	В	<評定に至った	2理由>		
を効率的かつ確実に達成す	土地・建物等の保有	が得られた	写真による「固定資産の見える化」		これまでの実	<b>実績から、中期計画どおり</b>		
るため、引き続き保有する	資産を最大限活用す	A:計画を上回る成果	を通じた利用状況等の現況調査に		土地・建物等の	つ有効活用が図るための取		
家畜などの遺伝資源及び人	るため、毎年度、土	が得られた	取り組むこととした。各牧場から減		組が実施されん	ると見込まれることから		
材、土地・建物などの資産	地・建物等の保有資産	B:計画どおり順調に	損兆候判定による報告を求めるな		「B」評定とし	した。		
を最大限活用するととも	の利用度等について	実施された	どにより、資産の利用状況の確認を					
に、事務の進捗状況に応じ	調査し、保有資産が有	C:計画どおり実施さ	実施し、不要なものは除却処分する		<参考>			
た適切な対処が行えるよう	効に活用されるよう	れず、改善を要する	など必要な措置を講じ、計画どおり		・建物、構築物	1、固定資産物品について、		
進行管理を行い、業務運営	必要な措置を講じる。	D:計画どおり実施さ	実施した。		写真による「固	固定資産の見える化」に取		
の効率化を推進する。その		れず、当該業務の廃			り組み、利用状	犬況等の現状を調査し、不		
際、家畜伝染性疾病の発生		止を含めた抜本的な			要なものは除去	即処分するなどして保有資		
などの業務上のリスク管理		改善を求める必要が			産を有効に活用	月した。		
に配慮する。		あると認められる			· 平成 2 6 年度	度において、建物8件、構		
さらに、業務の重複を避					築物130件、	設備39件、物品55件		
けるため、試験研究機関や					を不要と判断し	<b>ノ、処分を行った。</b>		
都道府県等関係者との情報					・保有する資産	筐については、監事による		
交換や調整などを通じ、役					各牧場の定期監	監査の際、固定資産一覧表		
割分担の明確化に努める。					等に基づき適切	別に監査を実施した。		

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(1)-エ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	- 里化 (1)業務運営の効率化	エ 業務の進行管理
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評	価	主務大臣に。	よる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(1)業務運営の効率化	エ 業務の進行管理	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標を	中期計画及び年度	かつ顕著な成果が得ら	毎年度、中期目標、中期計画の達成	В	これまでの実績から中期計画どおり取	
効率的かつ確実に達成するた	計画に沿った業務を	れた	に向けて、毎年度、年度計画に対する		組が実施されると見込まれることから	
め、引き続き保有する家畜な	確実に実施するた	A:計画を上回る成果が	業務の進捗状況を四半期ごとに点		「B」評定とした。	
どの遺伝資源及び人材、土	め、四半期毎に進捗	得られた	検・分析するなど、計画どおり実施し			
地・建物などの資産を最大限	状況を確認し、必要	B:計画どおり順調に実	た。			
活用するとともに、事務の進	な措置を講じる等業	施された				
捗状況に応じた適切な対処が	務の進行管理を行	C:計画どおり実施され				
行えるよう進行管理を行い、	う。	ず、改善を要する				
業務運営の効率化を推進す		D:計画どおり実施され				
る。その際、家畜伝染性疾病		ず、当該業務の廃止を				
の発生などの業務上のリスク		含めた抜本的な改善を				
管理に配慮する。		求める必要があると認				
さらに、業務の重複を避け		められる				
るため、試験研究機関や都道						
府県等関係者との情報交換や						
調整などを通じ、役割分担の						
明確化に努める。						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第1-2-(1)-オ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体	x制の合理化 (1)業務運営の効率化 オ 業務の重複の防止							
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		評価・行政事業レビュー 行政事業レビューシート事業番号:0035							

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評	価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(1) 業務運営の効率化	オ 業務の重複の防止	指標=「微項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標を	業務の効率化・重点	(満点)に対する「各微項目	□業務の重複の防止	В	<評定に至った理由>	
<b>かかつ確実に達成するた</b>	化を図るため、都道府	の点数の合計値」(合計点)の	△家畜改良増殖業務の		下記のとおり、下位の評価項目である微理	Į į
り、引き続き保有する家畜な	県・民間との役割分担	比率	重点化 2/2点(B)		目の合計点がB評定の判定基準内(満点×8	3
ごの遺伝資源及び人材、土	の明確化を図る。	各微項目の評価結果の区分	△飼料作物種苗増殖		/10≦合計点<満点×12/10)であっ	
也・建物などの資産を最大限		は以下のとおりとする。	業務の重点化 2/2点(B)		たため。	
5月するとともに、事務の進		S評価:4点、A評価:3点、	△調査研究業務の			
<b>b</b> 状況に応じた適切な対処が		B評価:2点、C評価:1点、	重点化 2/2点(B)		満 点:6点(微項目3×2点)	
fえるよう進行管理を行い、		D評価: 0点	合計 6/6点		合計点: 6点=2点×3	
美務運営の効率化を推進す		A:満点×12/10≦合計点			6点/6点=1.0(10/10)	
る。その際、家畜伝染性疾病		B:満点×8/10≦合計点				
)発生などの業務上のリスク		<満点×12/10			△家畜改良増殖業務の重点化	
管理に配慮する。		C:満点×5/10≦合計点			2点(B)	
さらに、業務の重複を避け		<満点×8/10			△飼料作物種苗増殖業務の重点化	
るため、試験研究機関や都道		D:合計点、<満点×5/10			2点(B)	
守県等関係者との情報交換や					△調査研究業務の重点化	
<b>調整などを通じ、役割分担の</b>					2点(B)	
月確化に努める。						
					合計点 6点	

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報			
第1-2-(1)-オ-(ア)	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化	(1)業務運営の効率化	オ 業務の重複の防止 (ア)家畜改良増殖業務の重点化
当該項目の重要度、難易		関注	車する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評	価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣は	こよる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(1)業務運営の効率化	(ア) センターが担	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標を	う家畜改良増殖業務	かつ顕著な成果が得ら	センターが担う家畜改良増殖業	В	<評定に至った理由>	
効率的かつ確実に達成するた	については、都道府	れた	務について、農林水産省、都道府県、		これまでの実績から、中期計画どおり	9
め、引き続き保有する家畜な	県・民間との役割分	A:計画を上回る成果が	関係団体及び学識経験者の参画を		家畜改良増殖の重点化が図られると見込	즈
どの遺伝資源及び人材、土	担を明確にしつつ、	得られた	得て全国的な家畜の改良推進に関		まれることから「B」評定とした。	
地・建物などの資産を最大限	これら関係者との連	B:計画どおり順調に実	する会議を開催するなどにより、都			
活用するとともに、事務の進	携を強化する。	施された	道府県・民間との役割分担を明確に			
捗状況に応じた適切な対処が	都道府県・民間で	C:計画どおり実施され	しつつ、これら関係者との連携を強			
行えるよう進行管理を行い、	は取り組み難い新た	ず、改善を要する	化した。また、都道府県・民間では			
業務運営の効率化を推進す	な育種改良技術とセ	D:計画どおり実施され	取り組み難い新たな育種改良技術			
る。その際、家畜伝染性疾病	ンターが保有する多	ず、当該業務の廃止を	とセンターが保有する多様な育種			
の発生などの業務上のリスク	様な育種資源の活用	含めた抜本的な改善を	資源を活用し家畜改良の素材とな			
管理に配慮する。	により、家畜改良の	求める必要があると認	る種畜を生産するとともに、これら			
さらに、業務の重複を避け	素材となる種畜の生	められる	を都道府県や民間に供給すること			
るため、試験研究機関や都道	産・供給に重点化す		に重点化し、計画どおり実施した。			
府県等関係者との情報交換や	る。					
調整などを通じ、役割分担の						
明確化に努める。						

1. 当事務及び事業に関す	ける基本情報					
第1-2-(1)-オー(イ)	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化	(1) 業務運営の効率化	オ 業務の重複の防止	(イ) 飼料作物種苗増殖業務の重点化	
当該項目の重要度、難易		関連	立する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート	事業番号:0028	
度		評価	i・行政事業レビュー			

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評	価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(1)業務運営の効率化	(イ) 飼料作物種苗の	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標を	増殖業務については、	かつ顕著な成果が得ら	飼料作物種苗の増殖業務につい	В	これまでの実績から、飼料作物種苗の増殖に	
効率的かつ確実に達成するた	品種改良を行う新品	れた	て、品種改良を行う新品種育成		ついて中期計画どおり、役割分担を明確にし	
め、引き続き保有する家畜な	種育成機関、二次増殖	A:計画を上回る成果が	機関、二次増殖及び種子の販売		た効率的な業務が	
どの遺伝資源及び人材、土	及び種子の販売を行	得られた	を行う民間種苗会社等と連携協		実施されると見込まれることから「B」評定	
地・建物などの資産を最大限	う民間種苗会社等と	B:計画どおり順調に実	力の下、役割分担を明確にし、		とした。	
舌用するとともに、事務の進	連携協力するととも	施された	効率的な生産を行い、計画どお			
b状況に応じた適切な対処が	に、役割分担を明確に	C:計画どおり実施され	り実施した。			
行えるよう進行管理を行い、	する。	ず、改善を要する				
業務運営の効率化を推進す		D:計画どおり実施され				
る。その際、家畜伝染性疾病		ず、当該業務の廃止を				
の発生などの業務上のリスク		含めた抜本的な改善を				
管理に配慮する。		求める必要があると認				
さらに、業務の重複を避け		められる				
るため、試験研究機関や都道						
<b>府県等関係者との情報交換や</b>						
調整などを通じ、役割分担の						
明確化に努める。						

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報					
第1-2-(1)-オ-(ウ)	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化	(1)業務運営の効率化	オ 業務の重複の防止	(ウ) 調査研究業務の重点化	
当該項目の重要度、難易		翼:	連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシー	ト事業番号:0028	
度		評	価・行政事業レビュー	行政事業レビューシー	ト事業番号:0035	

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標   達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己語	平価	主務大臣に	よる評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実	績評価)
(1)業務運営の効率化	(ウ)調査研究業務につい	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目	ては、より研究要素の強い	り、かつ顕著な成果	中期計画に基づいて設定した課題に	В	<評定に至った理由>		
標を効率的かつ確実に達	業務 (資源循環型の窒素成	が得られた	ついて、調査研究を計画どおり実施す		これまでの実績から、調査研究業務	の	
成するため、引き続き保	分強化たい肥を用いた飼	A:計画を上回る成果	るとともに、外部評価委員の意見を踏		重点化に向けた取組が中期計画どおり	実	
有する家畜などの遺伝資	料作物栽培に関する調査、	が得られた	まえ調査研究の進め方を決定した。ま		施されると見込まれることから「B」	評	
源及び人材、土地・建物	食味に関する新たな理化	B:計画どおり順調に	た、より研究要素の強い業務は、他の		定とした。		
などの資産を最大限活用	学分析項目の開発及び体	実施された	試験研究機関等に委ねる等役割分担を				
するとともに、事務の進	細胞クローン牛の調 査)	C:計画どおり実施さ	明確にし、課題の重複を排除した。				
捗状況に応じた適切な対	は他の試験研究機関等に	れず、改善を要する					
処が行えるよう進行管理	委ねる等役割分担を明確	D:計画どおり実施さ					
を行い、業務運営の効率	にし、課題の重複を排除す	れず、当該業務の廃					
化を推進する。その際、	る。	止を含めた抜本的な					
家畜伝染性疾病の発生な		改善を求める必要が					
どの業務上のリスク管理		あると認められる					
に配慮する。							
さらに、業務の重複を							
避けるため、試験研究機							
関や都道府県等関係者と							
の情報交換や調整などを							
通じ、役割分担の明確化							
に努める。							

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(2)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	里化 (2)組織体制の合理化・	強化
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務プ	大臣による評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価
(2)組織体制の合理化・強化	(2) 組織体制の合	指標=「細項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定 B	評定
業務運営の効率化を図ると	理化・強化	(満点)に対する「各細項目	◇組織体制の合理化・強化	В	<評定に至った理由>	
ともに、家畜飼養管理部門と飼	<以下略>	の点数の合計値」(合計点)の	□組織体制整備		下記のとおり、下位の評価項目	である
斗生産管理部門との統合を進		比率	2/2点(B)		細項目の合計点がB評定の判定	基準内
めるなど、要員の合理化に努め		各細項目の評価点数の区分	□要員の合理化		(満点×8/10≦合計点<満点	× 1 2
る。その際、業務上の責任につ		は以下のとおりとする。	2/2点(B)		/10) であるため。	
いての透明性を確保するとと		S評価: 4点、A評価: 3点、	□技術専門職の人材育成			
もに、業務の進行管理、コンプ		B評価:2点、C評価:1点、	2/2点(B)		満 点:8点(細項目4×2点)	
ライアンスなどについて十分		D評価: 0点	□飼養管理、飼料生産		合計点: 8点=2点×4	
配慮する。		A:満点×12/10≦合計点	作業の外部化		8点/8点=1.0(10/10	)
また、技術専門職員が担当す		B:満点×8/10≦合計点	2/2点(B)			
る業務については、当該職員の		<満点×12/10	合 計 8/8点		□組織体制整備	
資質の向上を図りつつ、家畜受		C:満点×5/10≦合計点<			2点	(B)
精卵移植等の繁殖業務、各種分		満点×8/10			□要員の合理化	
折・検査業務など、高度な技術		D:合計点<満点×5/10			2点	(B)
を要する業務にシフトする。ま					□技術専門職員の人材育成	
た、家畜の飼養管理、飼料生産					2点	(B)
技術のうち単純作業について					□飼養管理、飼料生産作業	
は、引き続き退職者の状況を踏					の外部化 2点	(B)
まえつつ、段階的に外部化を進					合計点 8点	
める。						

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(2)-ア	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合	理化 (2)組織体制の合理化	・強化 ア 組織体制整備
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標 達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣に	よる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2)組織体制の合理化・強化	ア センター各牧場・支	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定
業務運営の効率化を図るとと	場(以下「各牧場」とい	かつ顕著な成績が得ら	組織の合理化、業務の効	В	<評定に至った理由>	<
もに、家畜飼養管理部門と飼料	う。) の家畜飼養管理部門	れた	率化の推進を図るため策定		これまでの実績から中期計画どおり組	1
生産管理部門との統合を進める	と飼料生産管理部門との	A:計画を上回る成果が得	した第3期中期目標期間中		織の見直しが実施される見込まれること	
など、要員の合理化に努める。	統合を進めるとともに、	られた	の組織の見直し方針を踏ま		から「B」評定とした。	
その際、業務上の責任について	本所の部の組織編成を見	B:計画どおり順調に実施	え、必要な組織の見直しを			
の透明性を確保するとともに、	直して、業務の質、量に	された	行い、計画どおり実施した。		<参考>	
業務の進行管理、コンプライア	応じた機動的な組織体制	C:計画どおり実施され			① 平成26年4月	
ンスなどについて十分配慮す	を整備する。その際、統	ず、改善を要する			鳥取牧場の種畜課と飼料課を統合し、	
る。	合に当たっては、業務上	D:計画どおり実施され			業務課を設置	
また、技術専門職員が担当す	の責任についての透明性	ず、当該業務の廃止を含			② 平成26年10月	
る業務については、当該職員の	を確保するとともに、新	めた抜本的な改善を求			・奥羽牧場の種畜課と飼料課を統合し、	<u> </u>
資質の向上を図りつつ、家畜受	たな業務の進行管理、コ	める必要があると認め			業務課を設置	
精卵移植等の繁殖業務、各種分	ンプライアンス等につい	られる			・茨城牧場、岡崎牧場、兵庫牧場の業	
析・検査業務など、高度な技術	て、職員に周知徹底する。				務第一課と業務第二課を統合し、業務	5
を要する業務にシフトする。ま	また、ガバナンスの強				課を設置	
た、家畜の飼養管理、飼料生産	化・充実を図るため、業				・宮崎牧場の種畜第二課と飼料課を紛	ž į
技術のうち単純作業について	務監査室の機能を強化				合し業務第二課を設置するとともに、	
は、引き続き退職者の状況を踏	し、コンプライアンス推				種畜第一課を業務第一課に名称変更	
まえつつ、段階的に外部化を進	進室として改組する。					
める。						

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報				
第1-2-(2)-イ	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化	(2) 組織体制の合理化	と・強化 イ 要員の合理化	
当該項目の重要度、難易		関連	する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:00	2 8
度		評価	i・行政事業レビュー		

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
(2) 組織体制の合理化・強化	イ 業務の見直し	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
業務運営の効率化を図るととも	に応じた柔軟な人	り、かつ顕著な成果	業務の重点化及び効率化	В	<評定に至った理由>		
に、家畜飼養管理部門と飼料生産管	員配置や効率的な	が得られた	に対応し、職員の適正配置		これまでの実績から中期計画	画どおり要員の	
理部門との統合を進めるなど、要員	業務運営により、	A:計画を上回る成果	を進めたほか、要員の合理		合理化が実施されると見込ま	ミれることから	
の合理化に努める。その際、業務上	継続的に要員の合	が得られた	化や計画的な人員削減を行		「B」評定とした。		
の責任についての透明性を確保す	理化を実施する。	B:計画どおり順調に	うなど、計画どおり実施し				
るとともに、業務の進行管理、コン		実施された	た。		<参考>		
プライアンスなどについて十分配		C:計画どおり実施さ			・技術専門職員について、嬰	要員の合理化を	
慮する。		れず、改善を要する			推進することにより、34名削	川減した。	
また、技術専門職員が担当する業		D:計画どおり実施さ			・一般職員について、要員の	の合理化を推進	
務については、当該職員の資質の向		れず、当該業務の廃			することにより、2名削減した	-0	
上を図りつつ、家畜受精卵移植等の		止を含めた抜本的					
繁殖業務、各種分析・検査業務など、		な改善を求める必					
高度な技術を要する業務にシフト		要があると認めら					
する。また、家畜の飼養管理、飼料		れる					
生産技術のうち単純作業について							
は、引き続き退職者の状況を踏まえ							
つつ、段階的に外部化を進める。							

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(2)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営	さの効率化及び組織体制の合理化 (2)組織体制の合理化・強化 ウ 技術専門職の人材育成	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028	
度		評価・行政事業レビュー	

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標期間の業務に係る目	****					
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績	・自己評価	主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 組織体制の合理化・強化	ウ 技術専門職員が担当		<主要な業務実績>		評定   B	評定
業務運営の効率化を図るとと	する業務については、引	S:計画を大きく上	技術専門職員の業	В	<評定に至った理由>	
もに、家畜飼養管理部門と飼料	き続き家畜受精卵移植等	回り、かつ顕著な	務の高度化や専門技		これまでの実績から、技術専門職員について中期計画に	
生産管理部門との統合を進める	の繁殖業務、各種分析・	成果が得られた	術の取得を図るため		則した人材の育成が見込まれることから「B」評定とした。	
など、要員の合理化に努める。	検査業務等に要する高度	A:計画を上回る成	研修を受講させ、免			
その際、業務上の責任について	な技術・資格の取得や研	果が得られた	許・資格を取得させ		<参考>	
の透明性を確保するとともに、	修を計画的に進め、高度	B:計画どおり順調	るなど、計画どおり		・技術専門職員の業務の高度化や専門技術の取得を図る	
業務の進行管理、コンプライア	な技術を要する業務への	に実施された	実施した。		ための研修、資格の取得については、新人職員研修、管理・	
ンスなどについて十分配慮す	シフトを図り、資質の向	C:計画どおり実施			事務関係研修、技術向上研修及び安全衛生・施設管理関係	
る。	上及び業務の高度化を推	されず、改善を要			研修を受講させ、安全管理関係資格(特別管理産業廃棄物	
また、技術専門職員が担当す	進する。	する			管理責任者、安全管理者など)、作業機械等運転・操作資格	
る業務については、当該職員の		D:計画どおり実施			(車両系建設機械運転技能、高所作業車運転技能など)、機	
資質の向上を図りつつ、家畜受		されず、当該業務			械整備士資格(自動車整備士、建設機械特定自主検査など)、	
精卵移植等の繁殖業務、各種分		の廃止を含めた抜			特殊作業技能(危険物取扱者、ガス溶接技能など)及び畜	
析・検査業務など、高度な技術		本的な改善を求め			産技術関係資格(家畜人工授精師、認定牛削蹄師)を取得	
を要する業務にシフトする。ま		る必要があると認			させた。また、平成25年度から高度で専門的な技術者の	
た、家畜の飼養管理、飼料生産		められる			育成のためのテクニカルエキスパート試験を導入し、資質	
技術のうち単純作業について					の向上に努めている。	
は、引き続き退職者の状況を踏					・ 平成27年度も計画的に研修・講習を受講させ、免許・	
まえつつ、段階的に外部化を進					資格を取得させることとしている。これまでの実績から、	
める。					中期計画どおり取組が実施されると見込まれることから	
					「B」評定とした。	

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報
第1-2-(2)-エ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (2)組織体制の合理化・強化 エ 飼養管理、飼料生産作業の外部化
当該項目の重要度、難易	関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
度	評価・行政事業レビュー

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標 達成目標	基準値)	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		主務大臣による記	平価	
			業務実績	自己評価		(見込評価)	(期間実績評例	)
(2)組織体制の合理化・強化	エ 家畜の飼養管理、	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
業務運営の効率化を図るとと	飼料生産等の作業内	り、かつ顕著な成果	家畜飼養管理、飼料	В	<評定に至った理	!曲>		
もに、家畜飼養管理部門と飼料	容を検証し、費用対効	が得られた	生産業務等の作業内容		これまでの実績が	いら中期計画どおり外部化が推	進	
生産管理部門との統合を進める	果や退職者の状況を	A:計画を上回る成果	を精査し、費用対効果		されると見込まれる	ことから「B」評定とした。		
など、要員の合理化に努める。	踏まえつつ、引き続き	が得られた	や定年退職者の状況を					
その際、業務上の責任について	段階的に外部化を進	B:計画どおり順調に	踏まえつつ、外注によ		<参考>			
の透明性を確保するとともに、	める。	実施された	る外部化を推進するな		外注による外部化り	こついては、費用対効果や定年	退	
業務の進行管理、コンプライア		C:計画どおり実施さ	ど、計画どおり実施し		職者の状況を踏まえ	て、これまで新冠牧場、十勝	牧	
ンスなどについて十分配慮す		れず、改善を要する	た。		場及び鳥取牧場にお	らけるトウモロコシの播種など	<u> </u>	
る。		D:計画どおり実施さ			部の飼料生産業務、	十勝牧場における飼料の調製	•	
また、技術専門職員が担当す		れず、当該業務の廃			運搬業務、肥料散布	i業務、奥羽牧場におけるほ場	管	
る業務については、当該職員の		止を含めた抜本的			理業務、宮崎牧場に	おける放牧地の維持管理業務	新	
資質の向上を図りつつ、家畜受		な改善を求める必			冠牧場における起土	:・砕土、石灰散布業務を、十	勝	
精卵移植等の繁殖業務、各種分		要があると認めら			牧場における飼料権	国包業務、ジーンバンク牧草株	管	
析・検査業務など、高度な技術		れる			理業務、岩手牧場に	おける浄化施設処理水等管理	業	
を要する業務にシフトする。ま					務など、10牧場に	おいて、外部化を実施した。		
た、家畜の飼養管理、飼料生産					契約件数は平成23	年度の10件から平成26年	度	
技術のうち単純作業について					は33件と増加した	こ。これまでの実績から中期計	画	
は、引き続き退職者の状況を踏					どおり組織の見直し	が実施されると見込まれるこ	ح ا	
まえつつ、段階的に外部化を進					から「B」評定とし	た。		
める。								

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(3)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	里化 (3)ガバナンスの強化・	充実
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価		主務大臣による	5評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
(3) ガバナンスの	(3)ガバナンスの強	指標=「細項目の項目数×2」(満	<主要な業務実績>		評定 B		評定
強化	化・充実	点)に対する「各細項目の点数の合	◇ガバナンスの強化・充実	В	<評定に至った理由>		
<以下略>	<以下略>	計値」(合計点)の比率	□内部統制の強化		下記のとおり、下位の評価項	頁目である各細	
		各細項目の評価点数の区分は以	2/2点 (B)		項目の合計点がB評定の判定	它基準内(満点	
		下のとおりとする。	□コンプライアンスの徹底		×8/10≦合計点<満点>	<12/10)	
		S評価: 4点、A評価: 3点、B	2/2点 (B)		であるため。		
		評価:2点、C評価:1点、D評価:	□監査の強化				
		0点	2/2点 (B)		満 点:12点(細項目6×	〈 2 点)	
		A:満点×12/10≦合計点	□情報開示体制の確立		合計点:12点=2点×6		
		B:満点×8/10≦合計点<満点	2/2点 (B)		1 2 点 / 1 2 点 = 1. 0 (1	0/10)	
		× 1 2/1 0	□人事配置の適正化				
		C:満点×5/10≦合計点<満点	2/2点 (B)		□内部統制の強化	2点(B)	
		× 8/1 0	□事業の内部審査及び評価		□コンプライアンスの徹底	2点(B)	
		D:合計点<満点×5/10	2/2点 (B)		□監査の強化	2点(B)	
			合計 12/12点		□情報開示体制の確立	2点(B)	
					□人事配置の適正化	2点(B)	
					□事業の内部審査及び評価	2点(B)	
					合 計 点	12点	

4. その他参考情報			

#### 1. 当事務及び事業に関する基本情報

第1-2-(3)-ア 第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3)ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化

当該項目の重要度、難易

評価・行政事業レビュー

関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028

2. 主要な経年データ

- ・								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務之	大臣による評	益価
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価
(3) ガバナンスの強化	アの部統制の強化	指標=「微項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定 B		評定
センターは、本中期目標を	以下の取組を実施するに当たっ	(満点)に対する「各微項目	□内部統制の強化	В	<評定に至った理由>		
効率的かつ確実に達成するた	ては、総務省の独立行政法人におけ	の点数の合計値」(合計点)の	△効果的な統制環境の整備		下記のとおり、下位の評価項目	である微項目	
め、内部統制の強化、コンプ	る内部統制と評価に関する研究会	比率	2/2点(B)		の合計点がB評定の判定基準内(	満点×8/1	
ライアンスの徹底、監査の強	が平成22年3月に公表した報告	各微項目の評価結果の区分	△リスクの評価と迅速な対応		0 ≦合計点<満点×12/10)	であるため。	
化、情報開示体制の確立、法	書(「独立行政法人における内部統	は以下のとおりとする。	2/2点(B)				
人内行動規範の見直し、人事	制と評価について」)及び同省政策	S評価:4点、A評価:3点、	△相互けん制機能が確保され		満 点:10点(微項目5×2	2点)	
配置の適正化などの推進を図	評価・独立行政法人評価委員会から	B評価:2点、C評価:1点、	た統制活動		合計点:10点=2点×5		
るとともに、それら業務の確	独立行政法人の業務実績に関する	D評価:0点	2/2点(B)		10点/10点=1.0(10	/10)	
実な実施のための点検を行	評価の結果等の意見等独立行政法	A:満点×12/10≦合計点	△情報と伝達				
う。	人評価委員会への通知事項を参考	B:満点×8/10≦合計点<	2/2点(B)		△効果的な統制環境の整備	2点(B)	
特に内部統制の強化・徹底	にし、取り組む。また、コンプライ	満点×12/10	△モニタリングによる監視・		△リスクの評価と迅速な対応	2点(B)	
を図るために、効果的な統制	アンス委員会を第三者委員会とす	C:満点×5/10≦合計点<	評価・是正		△相互けん制機能が確保された		
環境、リスク評価と迅速な対	るとともに、業務監査室の機能を強	満点×8/10	2/2点(B)		統制活動	2点(B)	
芯、相互けん制の強化などに	化し、コンプライアンス推進室とし	D:合計点<満点×5/10	合計 10/10点		△情報と伝達	2点(B)	
よる統制活動、的確な情報の	て改組し、センター内のガバナンス				△モニタリングによる監視・評価	Б	
伝達、モニタリングによる監	の強化・充実、コンプライアンスの				・是正	2点(B)	
視・評価・是正などを確実に	徹底を図る。				合 計 点	10点	
実行するための体制や環境の							
整備を行う。							
<以下略>							

1. ヨ事伤及い事未に関りる左个ほ	1.	事務及び事業に関する基	本情	幸
-------------------	----	-------------	----	---

2. 主要な経年データ

2. 主要な軽中/一ク								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)	
(3) ガバナンスの強化	(ア) 効果的な統制環境	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目標を	の整備	かつ顕著な成果が得ら	業務目標、役職員等行動	В	<評定に至った理由>		
効率的かつ確実に達成するた	効果的な内部統制の整	れた	規範等については各職場に		これまでの実績から、中期計画に対	元	
め、内部統制の強化、コンプ	備のため、業務目標及び	A:計画を上回る成果が得	おいて勉強会等を開催し職		されたとおりの取組が実施されるとり	見	
ライアンスの徹底、監査の強	役職員等行動規等を全職	られた	員に周知した。また、コン		込まれることから「B」評定とした。		
化、情報開示体制の確立、法	員へ周知し、全役職員	B:計画どおり順調に実施	プライアンス等に係る職員				
人内行動規範の見直し、人事	の内部統制に対する意識	された	の意識調査を行うなど、計				
配置の適正化などの推進を図	向上を図る。	C:計画どおり実施され	画どおり実施した。				
るとともに、それら業務の確	また、業務目標及び役	ず、改善を要する					
実な実施のための点検を行	職員等行動規範の周知徹	D:計画どおり実施され					
う。	底を図るため、職場単位	ず、当該業務の廃止を含					
特に内部統制の強化・徹底	での勉強会や説明会を実	めた抜本的な改善を求					
を図るために、効果的な統制	施するとともに必要に応	める必要があると認め					
環境、リスク評価と迅速な対	じて意識調査を実施す	られる					
応、相互けん制の強化などに	る。						
よる統制活動、的確な情報の							
伝達、モニタリングによる監							
視・評価・是正などを確実に							
実行するための体制や環境の							
整備を行う。							
<以下略>							

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報			
第1-2-(3)-ア-(イ)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の行	合理化 (3)ガバナンスの強化・	・充実 ア 内部統制の強化 (イ) リスク評価と迅速な対応	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028	
度		評価・行政事業レビュー		

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)	
(3) ガバナンスの強化	(イ) リスクの評価と	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目標を効	迅速な対応	顕著な成果が得られた	平成24年3月にコンプラ	В	<評定に至った理由>		
率的かつ確実に達成するため、	センターの業務に	A:計画を上回る成果が得られ	イアンス・業務監視委員会にお		これまでの実績から、中期計画に示さ		
内部統制の強化、コンプライア	おいて潜在するリス	た	いて、業務の遂行を阻害するリ		れたとおりの取組が実施されると見込ま		
ンスの徹底、監査の強化、情報	クを把握・分析・評価	B:計画どおり順調に実施され	スクについて把握・分析・評価		れることから「B」評定とした。		
開示体制の確立、法人内行動規	し、リスク対応に関す	た	し、リスク管理対応計画を策定				
範の見直し、人事配置の適正化	る計画を策定 し、問	C:計画どおり実施されず、改	し、毎年9月及び3月に開催す				
などの推進を図るとともに、そ	題発生時に迅速な対	善を要する	る同委員会において新たなリ				
れら業務の確実な実施のため	応を行うための体制	D:計画どおり実施されず、当	スクの追加、また見直しを行う				
の点検を行う。	の構築を図る。	該業務の廃止を含めた抜本	など、計画どおり実施した。				
特に内部統制の強化・徹底を		的な改善を求める必要があ					
図るために、効果的な統制環		ると認められる					
境、リスク評価と迅速な対応、							
相互けん制の強化などによる							
統制活動、的確な情報の伝達、							
モニタリングによる監視・評							
価・是正などを確実に実行する							
ための体制や環境の整備を行							
う。							
<以下略>							

4. その他参考情報			

1	当事務及	び事業は	ア関サス	、其本	<b>岸</b> 執
т.	<b>コヨーカル</b>		<b>ー  大  り ′</b> a.	<i>) /</i> +>/+>	I 🗕 🛨 🕽

第1-2-(3)-ア-(ウ) 第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3)ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (ウ)相互けん制機能が確保された統制活動 当該項目の重要度、難易 度 評価・行政事業レビュー

#### 2. 主要な経年データ

_	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)		
(3) ガバナンスの強化	(ウ) 相互けん制機能が	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定		
センターは、本中期目標を	確保された 統制活動	かつ顕著な成果が得ら	平成23年9月に指揮・命令系統	В	<評定に至った理由>			
効率的かつ確実に達成するた	理事長の命令・指示が	れた	を有効に機能させるための方針を		これまでの実績から、中期計画に示			
め、内部統制の強化、コンプ	適切に実行されるよう、	A:計画を上回る成果が得	策定し、年度当初職員に周知すると		されたとおりの取組が実施されると			
ライアンスの徹底、監査の強	指揮・命令系統を有効に	られた	ともに、監事監査等によりその運営		見込まれることから「B」評定とした。			
化、情報開示体制の確立、法	機能させるための方針等	B:計画どおり順調に実施	状況について確認を行った。経理事					
人内行動規範の見直し、人事	を策定し、その適時の見	された	務の相互けん制機能について、チェ					
配置の適正化などの推進を図	直しを行うとともに、適	C:計画どおり実施され	ックリストによる点検を行うなど、					
るとともに、それら業務の確	切な業務遂行のためチェ	ず、改善を要する	計画どおり実施した。					
実な実施のための点検を行	ック体制の構築を図り、	D:計画どおり実施され						
う。	相互けん制機能を強化す	ず、当該業務の廃止を含						
特に内部統制の強化・徹底	る。	めた抜本的な改善を求						
を図るために、効果的な統制		める必要があると認め						
環境、リスク評価と迅速な対		られる						
応、相互けん制の強化などに								
よる統制活動、的確な情報の								
伝達、モニタリングによる監								
視・評価・是正などを確実に								
実行するための体制や環境の								
整備を行う。								

### 1. 当事務及び事業に関する基本情報

| 第1-2-(3)-ア-(エ) | 第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3)ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (エ)情報と伝達

当該項目の重要度、難易 度

当該項目の重要度、難易 (必要に応じて重要度及び難易度について記載)

関連する研究開発評価、政策 評価・行政事業レビュー

関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028

2. 主要な経年データ

評価対象となる指標   達成	成目標	基準値 <b>基準</b> 値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)
THE MAN TO SEE THE MAN TO SEE THE SEE							Ho + D	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)	
(3) ガバナンスの強化	(エ)情報と伝達	S:計画を大きく上回り	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目標を効	組織内において的	かつ顕著な成果が得ら	組織内で的確な情報伝達が行わ	В	<評定に至った理由>	<	
率的かつ確実に達成するため、	確な情報の伝達が行	れた	れるよう、各業務における情報管理		これまでの実績から、中期計画に示		
内部統制の強化、コンプライア	われるよう、各業務に	A:計画を上回る成果が	担当者を人事異動時期には更新し、		されたとおりの取組が実施されると見		
レスの徹底、監査の強化、情報	おける情報管理担当	得られた	職員に周知した。必要な情報は、イ		込まれることから「B」評定とした。		
開示体制の確立、法人内行動規	者を明確にするとと	B:計画どおり順調に実	ントラネットに掲載し、迅速に伝達				
節の見直し、人事配置の適正化	もに、イントラネット	施された	した。また、事故等の情報について				
などの推進を図るとともに、そ	等を活用し迅速に情	C:計画どおり実施され	は、個人情報保護に配慮しつつ周知				
ιら業務の確実な実施のための	報を伝達する体制を	ず、改善を要する	し、再発防止に努めるなど、計画ど				
点検を行う。	整備する。また、業務	D:計画どおり実施され	おり実施した。				
特に内部統制の強化・徹底を	運営上の重大な事故	ず、当該業務の廃止を					
図るために、効果的な統制環境、	や不祥事が発生した	含めた抜本的な改善を					
リスク評価と迅速な対応、相互	場合、個人情報保護に	求める必要があると認					
けん制の強化などによる統制活	配慮しつつ、その事例	められる					
動、的確な情報の伝達、モニタ	を職員に周知するこ						
リングによる監視・評価・是正	とにより再発防止に						
などを確実に実行するための体	努める。						
削や環境の整備を行う。							

### 1. 当事務及び事業に関する基本情報

第1-2-(3)-ア-(オ) 第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (3)ガバナンスの強化・充実 ア 内部統制の強化 (オ)モニタリングによる監視・評価・是正

当該項目の重要度、難易 (必要に応じて重要度及び難易度について記載)

評価・行政事業レビュー

関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028

2. 主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目		<u> </u>	1				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による	る評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実	績評価)
(3) ガバナンスの強化	(オ) モニタリングによる	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目標を効	監視・評価・是正	かつ顕著な成果が得ら	内部監査及び監事監査	В	<評定に至った理由>		
率的かつ確実に達成するため、	適正な業務運営を図るた	れた	等の結果報告に基づき、コ		これまでの実績から、中期計画に示さ		
内部統制の強化、コンプライア	め、内部統制が有効に機能	A:計画を上回る成果が得	ンプライアンス・業務監視		れたとおりの取組が実施されると見込ま		
ンスの徹底、監査の強化、情報	しているかについて、コン	られた	委員会において内部統制		れることから「B」評定とした。		
開示体制の確立、法人内行動規	プライアンス推進室の監視	B:計画どおり順調に実施	の状況について検証し、理				
範の見直し、人事配置の適正化	及びコンプライアンス委員	された	事長・監事に報告するな				
などの推進を図るとともに、そ	会の評価を通じた是正を行	C:計画どおり実施され	ど、計画どおり実施した。				
れら業務の確実な実施のための	うだけでなく、内部監査等	ず、改善を要する					
点検を行う。	を通じた監視・評価を行い、	D:計画どおり実施され					
特に内部統制の強化・徹底を	是正・改善すべき点がある	ず、当該業務の廃止を含					
図るために、効果的な統制環境、	場合は、理事長及び監事等	めた抜本的な改善を求					
リスク評価と迅速な対応、相互	に報告を行い、必要な措置	める必要があると認め					
けん制の強化などによる統制活	を講ずる。	られる					
動、的確な情報の伝達、モニタ							
リングによる監視・評価・是正							
などを確実に実行するための体							
制や環境の整備を行う。							
<以下略>							

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-2-(3)-イ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の	合理化 (3)ガバナンスの強化・充実 イ コンプライアンスの徹底
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
由		評価・行政事業レビュー

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、	由期日標期問証価に係る自		たとる証価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・		主務大臣に。	 よる評価	
1 //4 F //	1 //3#1 1		業務実績	自己評価	(見込評価)		間実績評価)
(3) ガバナンスの強化	イ コンプライアンスの徹底	S:計画を大きく上	<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目標を効率的かつ確実に達成するた	コンプライアンスの徹底	回り、かつ顕著な	コンプライアンス推進	В	<評定に至った理由>		
め、内部統制の強化、コンプライアンスの徹底、監査の強	を図るため、コンプライアン	成績が得られた	計画をコンプライアン		これまでの実績から、中期計	_	
化、情報開示体制の確立、法人内行動規範の見直し、人事	ス委員会での検討を踏まえ、	A:計画を上回る成	ス・業務監視委員会で検		画に示されたとおりの取組が	3	
配置の適正化などの推進を図るとともに、それら業務の確	コンプライアンス推進計画を	果が得られた	討、策定し、職員に周知		実施されると見込まれること		
実な実施のための点検を行う。	策定し、必要に応じて役職員	B:計画どおり順調	した。リスク管理等につ		から「B」評定とした。		
特に内部統制の強化・徹底を図るために、効果的な統制	等行動規範の見直しを行う。	に実施された	いて各職場において勉強				
環境、リスク評価と迅速な対応、相互けん制の強化などに	また、コンプライアンス推進	C:計画どおり実施	会等を開催した。また、				
よる統制活動、的確な情報の伝達、モニタリングによる監	計画及び役職員等行動規範の	されず、改善を要	コンプライアンス等につ				
視・評価・是正などを確実に実行するための体制や環境の	周知徹底を図るため、各牧場	する	いて職場の意識調査を行				
整備を行う。	や職場単位での勉強会を実施	D:計画どおり実施	うなど、計画どおり実施				
<中略>	するとともに必要に応じて意	されず、当該業務の	した。				
コンプライアンス徹底のための取組として、コンプライ	識調査を実施するほか、必要	廃止を含めた抜本					
アンス委員会においてセンター全体のコンプライアンス	な取組を追加的に実施する。	的な改善を求める					
に関する方針や計画を総合的に検討し、必要な提言を行	なお、コンプライアンス委	必要があると認め					
う。また、コンプライアンス委員会は、役職員へのコンプ	員会において、職員等からの	られる					
ライアンス意識の浸透を図るとともに、全職員を対象とし	コンプライアンスに関するリ						
たコンプライアンス相談窓口などから入手したリスク情	スク情報を一元管理し、適切						
報を一元管理し、適切な対応を行う。さらに、「独立行政	な対応を行う。						
法人家畜改良センター役職員等行動規範」の周知徹底を図							
るため、定期的に全役職員を対象とし、牧場や業務課単位							
での勉強会の開催や意識調査などの点検を行うとともに、							
このような取組を必要に応じ追加的に実施する。							
<以下略>							

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報				
第1-2-(3)-ウ	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	埋化 (3)ガバナンスの強化・	充実 ウ 監査の強化	
当該項目の重要度、難易			関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028	
度			評価・行政事業レビュー		

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		主務大臣によ	こる評価	
			業務実績	自己評価	(月	見込評価)	(期間)	実績評価)
(3) ガバナンスの強化	ウ 監査の強化	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
センターは、本中期目標を効率的かつ確	監査の実施に当たっ	り、かつ顕著な成果	監事監査及び会計監査人	В	<評定に至った	2理由>		
実に達成するため、内部統制の強化、コン	ては、会計監査人監査、	が得られた	監査の監査情報の共有並び		これまでの乳	<b>と績から、中期計画に</b>		
プライアンスの徹底、監査の強化、情報開	監事監査及び内部監査	A:計画を上回る成果	に監査結果及び是正措置状		示されたとおり	の取組が実施される		
示体制の確立、法人内行動規範の見直し、	を担当する部門が連携	が得られた	況の相互評価を実施し、資		と見込まれるこ	ことから「B」評定と		
人事配置の適正化などの推進を図るととも	し、監査情報を共有す	B:計画どおり順調に	産等の活用状況等に留意し		した。			
に、それら業務の確実な実施のための点検	るとともに、監査結果	実施された	て監査を行うなど、計画ど					
を行う。	等に基づく是正措置の	C:計画どおり実施さ	おり実施した。					
特に内部統制の強化・徹底を図るために、	実施状況を相互に評価	れず、改善を要する						
効果的な統制環境、リスク評価と迅速な対	する。また、これらの	D:計画どおり実施さ						
応、相互けん制の強化などによる統制活動、	取組を通じ、資産・施	れず、当該業務の廃止						
的確な情報の伝達、モニタリングによる監	設の有効活用を促進す	を含めた抜本的な改						
視・評価・是正などを確実に実行するため	るとともに、コスト縮	善を求める必要があ						
の体制や環境の整備を行う。	減を念頭に、無駄をな	ると認められる						
<中略>	くす努力をさらに徹底							
さらに、事業の内部審査や評価について、	する。							
センター内部限りで自己完結させず、第三								
者委員会を設置するなどにより、対外的な								
透明性も確保しつつ、事業の実効性が上が								
るよう所要の見直しを行う。								

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-2-(3)-エ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	合理化 (3)ガバナンスの強化・充実 エ 情報開示体制の確立
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	2評価	主務大臣による	5評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(3) ガバナンスの強化	エ 情報開示体制の確	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標	立	かつ顕著な成果が得ら	法令等により公開義務のある	В	<評定に至った理由>	
を効率的かつ確実に達成す	法令等により公開を	れた	もののほか、各種委員会の審査		これまでの実績から、中期計画に示され	
るため、内部統制の強化、	義務付けられているも	A:計画を上回る成果が	結果等については、センターホ		たとおりの取組が実施されると見込まれる	
コンプライアンスの徹底、	ののほか、内部監査情	得られた	ームページに掲載し開示するな		ことから「B」評定とした。	
監査の強化、情報開示体制	報や各種委員会等の審	B:計画どおり順調に実	ど、計画どおり実施した。			
の確立、法人内行動規範の	議結果等必要な情報に	施された				
見直し、人事配置の適正化	ついては開示し、業務	C:計画どおり実施され				
などの推進を図るととも	の透明性を確保する。	ず、改善を要する				
に、それら業務の確実な実		D:計画どおり実施され				
施のための点検を行う。		ず、当該業務の廃止を				
特に内部統制の強化・徹		含めた抜本的な改善を				
底を図るために、効果的な		求める必要があると認				
統制環境、リスク評価と迅		められる				
速な対応、相互けん制の強						
化などによる統制活動、的						
確な情報の伝達、モニタリ						
ングによる監視・評価・是						
正などを確実に実行するた						
めの体制や環境の整備を行						
う。						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-2-(3)-オ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織	体制の合理化 (3)ガバナンスの強化・充実 オ 人事配置の適正化
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
由		

2.	主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)	
(3) ガバナンスの強化	オ 人事配置の適正化		<主要な業務実績>		評定 B	評定	
センターは、本中期目標を効	職員の適材適所を推進する	S:計画を大きく上回	職員の適材適所を推進するた	В	<評定に至った理由>		
率的かつ確実に達成するため、	た め、職員の人事配置に当た	り、かつ顕著な成果	め、人事配置に当たっては、職歴、		これまでの実績から、中期計画		
内部統制の強化、コンプライア	っては、過去の職歴、業績等の	が得られた	業績等を考慮し、業務遂行のため		に示されたとおりの取組が実施さ		
ンスの徹底、監査の強化、情報	情報を考慮し、業務遂行のため	A:計画を上回る成果	の適性や能力を反映した人事配置		れると見込まれることから「B」		
開示体制の確立、法人内行動規	の適性や能力を反映した人事	が得られた	を行うとともに、人事異動を行う		評定とした。		
範の見直し、人事配置の適正化	配置にするとともに、特に課長	B:計画どおり順調に	場合の多方面からの人事企画を精				
などの推進を図るとともに、そ	級以上の人事配置に当たって	実施された	査する機会として人事構想会議や				
れら業務の確実な実施のため	は、適正配置のための多角的な	C:計画どおり実施さ	人事企画会議を開催して人事情報				
の点検を行う。	検証が必要であることか ら、	れず、改善を要する	を把握し、適性や能力を的確に反				
特に内部統制の強化・徹底を	コンプライアンス推進室が人	D:計画どおり実施さ	映した人事配置を行い、計画どお				
図るために、効果的な統制環	事情報を分析し、ガバナンスの	れず、当該業務の廃	り実施した。				
境、リスク評価と迅速な対応、	観点からの適性について理事	止を含めた抜本的な	また、人事配置を検討するに当				
相互けん制の強化などによる	長に報告する等により、職責を	改善を求める必要が	たり、課長補佐級以上の人事につ				
統制活動、的確な情報の伝達、	十分に果たせる人事配置とな	あると認められる	いては、得られた人事情報をコン				
モニタリングによる監視・評	るよう、人事管理者及び人事企		プライアンス推進室がガバナンス				
価・是正などを確実に実行する	画担当者が業務適性等につい		の観点から分析したうえで、理事				
ための体制や環境の整備を行	て多方面から評価・検討し、実		長に意見を具申するなど、計画ど				
う。	施する。		おり実施した。				
<以下略>							

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-2-(3)-カ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合	·理化 (3)ガバナンスの強化・充実 カ 事業の内部審査及び評価
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣	こよる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(3) ガバナンスの強化	カ 事業の内部審査	S:計画を大きく上	<主要な業務実績>		評定 B	評定
センターは、本中期目標を効率的かつ確	及び評価	回り、かつ顕著な	業務の評価や事業運営への反映	В	<評定に至った理由>	
実に達成するため、内部統制の強化、コン	事業の審査や評価	成果が得られた	を行うため、毎年度、第三者を含		これまでの実績から、中期計画に	
プライアンスの徹底、監査の強化、情報開	を行い、事業運営に	A:計画を上回る成	めた内部業務検討会を本所及び各		示されたとおりの取組が実施される	
示体制の確立、法人内行動規範の見直し、	反映するために第三	果が得られた	牧場・支場において各1回開催し、		と見込まれることから「B」評定と	
人事配置の適正化などの推進を図るとと	者を含めた業務検討	B:計画どおり順調	共通テーマの検討及び固有テーマ		した。	
もに、それら業務の確実な実施のための点	会を本所各部及び各	に実施された	の議論を行った。			
検を行う。	牧場を対象に最低年	C:計画どおり実施				
特に内部統制の強化・徹底を図るため	1回開催する。	されず、改善を要				
に、効果的な統制環境、リスク評価と迅速		する				
な対応、相互けん制の強化などによる統制		D:計画どおり実施				
活動、的確な情報の伝達、モニタリングに		されず、当該業務				
よる監視・評価・是正などを確実に実行す		の廃止を含めた抜				
るための体制や環境の整備を行う。		本的な改善を求め				
<中略>		る必要があると認				
さらに、事業の内部審査や評価につい		められる				
て、センター内部限りで自己完結させず、						
第三者委員会を設置するなどにより、対外						
的な透明性も確保しつつ、事業の実効性が						
上がるよう所要の見直しを行う。						

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-2-(4)	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化	(4) リスク管理の強化					
当該項目の重要度、難易			直する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028				
度		評価	<b>近・行政事業レビュー</b>					

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	2評価	主務大臣によ	る評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(4) リスク管理の	(4)リスク管理	指標=「細項目の項目数×	<主要な業務実績>		評定 B	評定
強化	の強化	2」(満点) に対する「各	◇リスク管理の強化	В	<評定に至った理由>	
口蹄疫や鳥インフ	<以下略>	細項目の点数の合計値」	□防疫対策の徹底		下記のとおり、 評価対象とした下位の評価な	頁
ルエンザなどの国内		(合計点) の比率	2/2点 (B)		目である細項目の合計点が、B評定の判定基準	進
での発生も踏まえ、こ		各細項目の評価点数の	□保有遺伝資源のリスク分散		内 (満点×8/10≦合計点<満点×/10) であるが	=
れらの家畜伝染性疾		区分は以下のとおりとす	2/2点 (B)		め。	
病の侵入などにより		る。	□種畜等の受託管理		満 点:6点(細項目3×2点)	
センターによる家畜		S評価:4点、A評価:	2/2点 (B)		合計点: 2点×2+1点=5点	
改良の成果が損なわ		3点、B評価:2点、C評	合計 6/6点		5点/6点=0.83=8.3/10	
れることのないよう、		価:1点、D評価:0点				
リスク管理体制の強		A:満点×12/10≦合計			□防疫対策の徹底 1点(C)	
化を図る。		点			□保有遺伝資源のリスク分散 2点(B)	
また、種畜の管理や		B:満点×8/10≦合計点			□種畜等の受託管理 2点(B)	
育種資源の保存につ		<満点×12/10			合計点 5点	
いて、都道府県からそ		C:満点×5/10≦合計点				
の計画的な実施につ		<満点×8/10				
いて協力依頼があり、		D:合計点<満点×5/10				
全国的な視点からの						
家畜改良に資する場						
合には、積極的に協力						
する。						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-2-(4)-ア	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合	理化 (4) リスク管理の強化	ア 防疫対策の徹底					
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028					
度		評価・行政事業レビュー						

2. 主要な経年データ							
評価対象となる指標 達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	己評価	主務大臣による評	西
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(4) リスク管理の	ア 防疫対策を徹底	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 C	評定
強化	するため、家畜伝染	かつ顕著な成果が得ら	防疫対策を徹底するため、毎	В	<評定に至った理由>	<評定に至った理由>
口蹄疫や鳥インフ	性疾病に関する定期	れた	年度の衛生検査計画に沿って家		PED が発生した以上、「外部から家畜伝染性疾病	35
ルエンザなどの国内	的な検査を実施する	A:計画を上回る成果が	畜伝染性疾病に関する定期的か		侵入しないよう徹底的な衛生管理が行われた。」とり	<b>ま</b>
での発生も踏まえ、	とともに、防疫エリ	得られた	つ継続的な検査を実施した。防		言い難いことから「C」評定とした。	
これらの家畜伝染性	アを明確にし、外部	B:計画どおり順調に実	疫エリアについては、「牧場区			
疾病の侵入などによ	から家畜伝染性疾病	施された	域」「飼養管理区域」「畜舎区域」		<今後の課題>	
りセンターによる家	の要因が侵入しない	C:計画どおり実施され	を明確にし、外部から家畜伝染		PEDの発生を教訓にして、防疫体制のより一層の	D
畜改良の成果が損な	よう、徹底的な衛生	ず、改善を要する	性疾病の要因が侵入しないよう		強化が必要である。	
われることのないよ	管理を行う。	D:計画どおり実施され	衛生管理を行った。平成26年			
う、リスク管理体制		ず、当該業務の廃止を含	度にセンター本所において豚流		<その他事項>	
の強化を図る。		めた抜本的な改善を求	行性下痢(PED)が発生した		・センターで「PED」が発生したことに関し、衛生が	<b>하</b>
また、種畜の管理		める必要があると認め	が、速やかな初動防疫により限		策に係る評価に対して「C」とすることは否定しない	· Y
や育種資源の保存に		られる	定的な発生に留めた。(再掲)		が、「遺伝資源の活用」と「防疫対策の徹底」では、	
ついて、都道府県か					評価項目の主たる目標が異なることを考慮し、メリク	
らその計画的な実施					リを付けた評価をすべき。また、年度評価のような	
について協力依頼が					足も必要である。	
あり、全国的な視点					・PED に限らず伝染病を他の牧場や豚舎に拡散さる	<u>+</u>
からの家畜改良に資					ず発生豚舎に局限したことは、獣医学上評価すべき、	<u>-</u>
する場合には、積極					とである。(有識者会議委員意見)	
的に協力する。						

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(4)-イ	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (4) リスク管理の強化 イ 保有遺伝資源のリスク分散	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028	
度		評価・行政事業レビュー	

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価		主務大臣による記	平価
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
(4) リスク管理	イ 家畜伝染性疾病	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定
の強化	の侵入等により貴重	かつ顕著な成果が得ら	家畜伝染性疾病の侵入等に	В	<評定に至った理由>		
口蹄疫や鳥インフ	な遺伝資源を失うこ	れた	より貴重な遺伝資源を失うこ		これまでの実績から、中期	計画どおり、保有遺	
ルエンザなどの国内	とがないよう、必要	A:計画を上回る成果が得	とがないよう、各畜種ごとにリ		伝資源のリスク分散が実施され	れると見込まれるこ	
での発生も踏まえ、	に応じて複数の牧場	られた	スク分散を図るため、計画的に		とから「B」評定とした。		
これらの家畜伝染性	を活用し、リスク分	B:計画どおり順調に実施	生体等を複数の牧場を活用し				
疾病の侵入などによ	散を図る。	された	て分散させて管理し、計画どお		<参考>		
りセンターによる家		C:計画どおり実施され	り実施した。		・乳用牛について、2牧場にお	おいて、凍結受精卵、	
畜改良の成果が損な		ず、改善を要する			凍結精液及び改良用雌牛群を気	分散管理した。	
われることのないよ		D:計画どおり実施され			・肉用牛について、3牧場に	おいて、多様性の確	
う、リスク管理体制		ず、当該業務の廃止を含			保に必要な系統に属する凍結	受精卵、凍結精液及	
の強化を図る。		めた抜本的な改善を求			び改良用雌牛群を分散管理した	20	
また、種畜の管理		める必要があると認め			・ 豚について、2 牧場におい	て、センターが作出	
や育種資源の保存に		られる			した系統豚を分散管理した。		
ついて、都道府県か					・ 鶏について、2 牧場におい	て、在来鶏等を分散	
らその計画的な実施					管理した。		
について協力依頼が							
あり、全国的な視点							
からの家畜改良に資							
する場合には、積極							
的に協力する。							

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-2-(4)-ウ	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (4) リスク管理の強化 ウ 種畜等の受託管理	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028	
度		評価・行政事業レビュー	

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		主務大臣による	評価
			業務実績	自己評価	(見ì	込評価)	(期間実績評価)
(4) リスク管理の強化	ウ 都道府県等から、	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定
口蹄疫や鳥インフルエ	種畜の管理や育種資	かつ顕著な成果が得ら	平成23年度に、都道	В	<評定に至った理由>		
ンザなどの国内での発生	源の保存について、そ	れた	府県等から種畜の管理や		都道府県等からの種	畜の管理や育種資源の保	:
も踏まえ、これらの家畜伝	の計画的な実施につ	A:計画を上回る成果が	育種資源の保存に関する		存についての協力依頼	はなかったが、依頼があっ	
染性疾病の侵入などによ	いて協力依頼があり、	得られた	依頼を受けた際の協力に		た場合には、中期計画と	ごおり受託管理を行うこと	
りセンターによる家畜改	当該計画が全国的な	B:計画どおり順調に実	必要な条件として、受け		ができると見込まれる	ことから「B」評定とした。	
良の成果が損なわれるこ	視点からの家畜改良	施された	入れる種畜の条件や受入				
とのないよう、リスク管理	に資する場合には、積	C:計画どおり実施され	場所を整理し、受入体制				
体制の強化を図る。	極的に協力する。ま	ず、改善を要する	を整えた。				
また、種畜の管理や育種	た、このために必要な	D:計画どおり実施され	なお、今中期目標期間				
資源の保存について、都道	条件等を平成23年	ず、当該業務の廃止を	中は、都道府県等からの				
府県からその計画的な実	度中に整理する。	含めた抜本的な改善を	種畜の管理や育種資源の				
施について協力依頼があ		求める必要があると認	保存についての協力依頼				
り、全国的な視点からの家		められる	はなかったが、依頼があ				
畜改良に資する場合には、			った場合には、平成23				
積極的に協力する。			年度に整理した条件等に				
			基づき、積極的に協力す				
			ることとしている。				

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-2-(5)	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (5)情報セキュリティ対策の強化								
当該項目の重要度、難易	関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028								
度	評価・行政事業レビュー								

4	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)		
(5)情報セキュ	(5)情報セキ		<主要な業務実績>		評定	В	評定	
リティ対策の強	ュリティ対策の	指標=「細項目の項目数×2」(満	◇情報セキュリティ対策の	В	<評定に至った理由>			
化	強化	点)に対する「各細項目の点数の	強化		下記のとおり、下位の評価項目	である細項目の合		
情報業務の信	<以下略>	合計値」(合計点)の比率	□情報システムの適正な管理、		計点がB評定の判定基準内(満	i点×8/10≦合		
頼性確保及び個		各細項目の評価点数の区分は以	情報セキュリティの確保		計点<満点×12/10)			
人情報保護のた		下のとおりとする。	2/2点 (B)					
め、情報システム		S評価:4点、A評価:3点、B	□規制の周知及び対策の教育		満 点:6点(細項目3×2点	)		
の適正な管理及		評価:2点、C評価:1点、D評	2/2点 (B)		合計点: 6点=2点×3			
び情報セキュリ		価:0点	□事故・不祥事の再発防止					
ティの確保を図		A:満点×12/10≦合計点	2/2点 (B)		□情報システムの適正管理、情	報		
る。		B:満点×8/10≦合計点<満点	合計 6/6点		セキュリティの確保	2点(B)		
		× 1 2/1 0			□規則の周知及び対策の教育			
		C:満点×5/10≦合計点<満点				2点(B)		
		×8/1 0			□事故・不祥事の再発防止			
		D:合計点<満点×5/10				2点(B)		
					合 計 点	6 点		

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-2-(5)-ア	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (5)情報セキュリティ対策の強化 ア 情報システムの適正管理、情報セキュリティの確保	
当該項目の重要度、難易	関連する研究開発評価、政策   行政事業レビューシート事業番号:0028	
度	評価・行政事業レビュー	

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業	務に係る目標、計画	1	期間評価に係る自己評価及び主	務大臣による評				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	2評価	主務大臣	臣による評	価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
(5)情報セキュリ	ア 情報セキュリテ	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B		評定	
ティ対策の強化	ィ対策の強化に当た	り、かつ顕著な成果が	情報システムの適正な管理及	В	<評定に至った理由>			
情報業務の信頼性	っては、「第2次情報	得られた	び情報セキュリティの確保を図		これまでの実績から、中期計画に示され	たとおり		
確保及び個人情報保	セキュリティ基本計	A:計画を上回る成果	るため、センターが保有する各		の取組が実施されると見込まれることから	う「B」評		
護のため、情報シス	画」等の政府の方針	が得られた	情報システムについて、実施手		定とした。			
テムの適正な管理及	を参考として、情報	B:計画どおり順調に	順書を作成し、職員へ周知する					
び情報セキュリティ	システムの適正な管	実施された	とともに、実施手順書に沿った					
の確保を図る。	理及び情報セキュリ	C:計画どおり実施さ	管理・運用を行っているか点検					
	ティの確保を図るた	れず、改善を要する	を行うなど、計画どおり実施し					
	め、情報システムの	D:計画どおり実施さ	た。					
	実施手順書を作成す	れず、当該業務の廃止						
	る。	を含めた抜本的な改						
		善を求める必要があ						
		ると認められる						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	「る基本情報		
第1-2-(5)-イ	第1 業務運営の効率化	2 業務運営の効率化及び組織体制の合理化 (5)情報セキュリティ対策の強化 イ 規則の周知及び対策の教育	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028	
度		評価・行政事業レビュー	

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

1			期間評価に係る自己評価及び		評価 I	→ <b>3</b> ⁄2   . □ . ) <b>~</b> L <b>~</b> = <b>T</b> .	/m*	
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	日己評価		主務大臣による評		
			業務実績	業務実績 自己評価		(見込評価)		責評価)
(5)情報セキュリ	イ また、情報セキ		<主要な業務実績>		評定	В	評定	
ティ対策の強化	ュリティ規則類を職	S:計画を大きく上回り、	情報セキュリティ対策の	В	<評定に至った理由>			
情報業務の信頼性	員に周知するととも	かつ顕著な成果が得ら	強化を図るため、自己点検		これまでの実績から、中期計画に	こ示されたとおりの		
確保及び個人情報保	に、セキュリティ対	れた	を実施したほか、新規採用		取組が実施されると見込まれるこ	とから「B」評定と		
護のため、情報シス	策の教育を実施す	A:計画を上回る成果が	職員研修、内部監査、職場		した。			
テムの適正な管理及	る。	得られた	説明会等において情報セキ					
び情報セキュリティ		B:計画どおり順調に実	ュリティに関する規則の周					
の確保を図る。		施された	知・教育を実施した。また、					
		C:計画どおり実施され	外部講師による講習会の実					
		ず、改善を要する	施、担当職員を外部の研修					
		D:計画どおり実施され	会へ参加させるなど、計画					
		ず、当該業務の廃止を含	どおり実施した。					
		めた抜本的な改善を求						
		める必要があると認め						
A		られる						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第1-2-(5)-ウ	第1 業務運営の効率化 2 業務運営の効率化及び組織体制の合理	単化 (5)情報セキュリティ対	策の強化 ウ 事故・不祥事の再発防止						
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		評価・行政事業レビュー							

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

		1	]評価に係る自己評価及び主義   ************************************			- シャーエル・ト	≠ 氢亚 / Ⅲ*	
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・			主務大臣による	1	
			業務実績	自己評価	(見込評値	<b></b>	(期間	実績評価)
(5)情報セキュリ	ウ 業務運営上の重	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
ティ対策の強化	大な事故や不祥事が	かつ顕著な成果が得られ	事故等の情報については、	В	<評定に至った理由>			
情報業務の信頼性	発生した場合、個人	た	個人情報保護に配慮しつつ職		これまでの実績から、「	中期計画に示された		
確保及び個人情報保	情報保護に配慮しつ	A:計画を上回る成果が得	員に周知し、再発防止に努め		とおりの取組が実施される	ると見込まれること		
護のため、情報シス	つ、その事例を職員	られた	るなど、計画どおり実施した。		から「B」評定とした。			
テムの適正な管理及	に周知することによ	B:計画どおり順調に実施						
び情報セキュリティ	り再発防止に努め	された						
の確保を図る。	る。	C:計画どおり実施されず、						
		改善を要する						
		D:計画どおり実施されず、						
		当該業務の廃止を含めた						
		抜本的な改善を求める必						
		要があると認められる						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-3	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大		
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業	務実績・自己評	価		主務大臣による	京評価	
			業務実績	責	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)	
3 経費の削減及	第1-3 経費の削減	指標=「小項目の項目数×2」	<主要な業務実績>			評定	В	評定	
び自己収入の改善	及び自己収入の改善	(満点) に対する「各小項目	○経費の削減及び自己	収入の拡大	В	<評定に至った理由>			
<以下略>	<以下略>	の点数の合計値」(合計点)の	◇一般管理費·人件費	等の		下記のとおり、下位	の評価項目である小項		
		比率	削減・見直し	2/2点(B)		目の合計点が B 評定	の判定基準内(満点×		
		各小項目の評価点数の区	◇契約の点検・見直し			8/10≦合計点<満点×	12/10) であるため。		
		分は以下のとおりとする。		2/2点(B)		満 点:8点(小項目4	4×2点)		
		S評価: 4点、A評価: 3点、	◇自己収入の拡大			合計点: 8点=2点×	4		
		B評価:2点、C評価:1点、		2/2点(B)		8点/8点=1.0(1	10/10)		
		D評価:0点	◇知的財産の管理						
		A:満点×12/10≦合計点		2/2点(B)		□一般管理費・人件費	等の削減		
		B:満点×8/10≦合計点	合 計	8/8点		・見直し	2点(B)		
		<満点×12/10				□契約の点検・見直し	,		
		C:満点×5/10≦合計点					2点(B)		
		<満点×8/10				□自己収入の拡大			
		D:合計点<満点×5/10					2点(B)		
						□知的財産の管理			
							2点(B)		
						合 計			

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-3-(1)	第1 業務運営の効率化	3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し
当該項目の重要度、難易			関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
度			評価・行政事業レビュー

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評	平価	主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
運営費交付金を充当して行う	ア 一般管理費・	指標=「細項目の項目	<主要な業務実績>		評定 B		評定
事業については、業務の見直し	業務経費	数×2」(満点) に対す	◇一般管理費・人件費等の削減・見直	В	<評定に至った理由>		
及び効率化を進め、一般管理費	<以下略>	る「各細項目の点数の	し □一般管理費・業務経費		下記のとおり。下位の評価項	頁目である細項	
(人件費を除く。) については、		合計値」(合計点)の比	2/2点(B)		目の合計点がB評定の判定基	準内(満点×	
毎年度平均で少なくとも対前	イ 財務分析	率	□財務分析		8/10≦合計点<満点×12/10)	であるため。	
年度比3%の抑制、業務経費に	<以下略>	各細項目の評価点数	2/2点(B)		満 点:8点(細項目4×2点)	)	
ついては、毎年度平均で少なく		の区分は以下のとおり	□官民競争入札等の導入		合計点: 8点=2点×4		
とも対前年度比1%の抑制を	ウ 官民競争入札	とする。	2/2点(B)		8点/8点=1.0(10/1	0)	
することを目標に、削減する。	等の導入	S評価:4点、A評	□人件費				
給与水準については、国家公	<以下略>	価:3点、B評価:2	2/2点(B)		□一般管理費・業務経費	2点(B)	
務員の給与水準を十分考慮し、		点、C評価:1点、D	合計 8/8点		□財務分析	2点(B)	
手当を含め役職員給与の在り	工 人件費	評価:0点			□官民競争入札等の導入	2点(B)	
方について厳しく検証した上	<以下略>	A:満点×12/10≦			□人件費	2点(B)	
で、目標水準・目標期限を設定		合計点			合 計 点	8点	
し、その適正化に取り組むとと		B:満点×8/10≦合					
もに、検証結果や取組状況を公		計点<満点×12/10					
表するものとする。		C:満点×5/10≦合					
		計点<満点×8/10					
		D:合計点<満点×5/					
		1 0					

4. その他参考情報			

### 1. 当事務及び事業に関する基本情報 第1・3・(1)・ア 第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大 (1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し ア 一般管理費・業務経費 当該項目の重要度、難易 度 関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028

4	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度※ 2	平成 27 年度	(参考情報)
	一般管理費(予算額)	毎年度対前年費		5 7 5, 2 5 2	5 5 5, 7 6 2	5 3 8,5 5 0	5 3 0,4 9 8		単位:千円、下段は抑制率(対前
	<b>※</b> 1	3 %抑制		<b>▲</b> 4. 6 %	<b>▲</b> 3. 4%	<b>▲</b> 3. 1%	<b>▲</b> 3.3%		年度)
	業務経費(予算額	毎年度対前年費		1,523,414	1,502,147	1,477,735	1,475,460		単位:千円 下段は抑制率(対前
		1%抑制		<b>▲</b> 6.8%	<b>▲</b> 1.4%	<b>▲</b> 1.6%	<b>▲</b> 2.0%		年度

※1:人件費除く、※2:消費税増額分を除く

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大	臣による評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(1)一般管理費・人件費	ア 運営費交付金で行	指標=一般管理費(予算	<主要な業務実績>		評定B	評定
などの削減・見直し	う業務のうち一般管理	額)、業務経費(予算額)	毎年度、運営費交付金で行う業	В	<評定に至った理由>	
運営費交付金を充当し	費(人件費を除く。)に	S:計画の120%以上で	務のうち一般管理費(人件費を除		中期計画を上回る予算額の抑制	制
て行う事業については、業	ついては、毎年度平均	あり、かつ、特に優れた	く。) については毎年度平均で少な		を達成しているが、予算折衝の過程	程
務の見直し及び効率化を	で少なくとも対前年度	成果が認められる。	くとも対前年度比3.0%抑制す		で他律的に抑制が図られたたと	め
進め、一般管理費(人件費	比3%を抑制、業務経	A:計画の120%以上	るとともに、運営費交付金で行う		「B」評定とした.	
を除く。)については、毎	費については、毎年度	B:計画の100%以上、	業務経費についても毎年度平均で			
年度平均で少なくとも対	平均で少なくとも対前	120%未満	対前年度比1.0%抑制するなど、			
前年度比3%の抑制、業務	年度比1%を抑制す	C:計画の80%以上、	計画どおり実施した。			
経費については、毎年度平	る。	100%未満				
均で少なくとも対前年度		D:計画の80%未満、又				
比1%の抑制をすること		は業務運営の改善等必				
を目標に、削減する。		要な措置が必要と認め				
<以下略>		られる。る				

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-3-(1)-イ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(1) 一般管理費・人件費等の削減	は・見直し イ 財務分析					
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028					
度		評価・行政事業レビュー						

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		主務大臣によ	よる評価	
			業務実績	自己評価	(見込評位	価)	(期間実績評	価)
運営費交付金を充	イ 毎年度、財務の分	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
当して行う事業につ	析を行い、その結果を	かつ顕著な成績が得ら	財務分析を行い業務に係る経費	В	<評定に至った理由>		<評定に至った理由>	
いては、業務の見直	経費の縮減に活用す	れた	の縮減に活用するとともに、一般		これまでの実績から「	中期計画どおりの		
し及び効率化を進	る。特に、一般管理費	A:計画を上回る成果が	管理費の自己評価を行い、業務効		取組が実施されると見る	込まれることから		
め、一般管理費(人	については、自己評価	得られた	率化実施計画に反映させるなど、		「B」評定とした。			
件費を除く。) につい	を厳格に行った上で、	B:計画どおり順調に実	計画どおり実施した。					
ては、毎年度平均で	適切な見直しを行う。	施された						
少なくとも対前年度		C:計画どおり実施され						
比3%の抑制、業務		ず、改善を要する						
経費については、毎		D:計画どおり実施され						
年度平均で少なくと		ず、当該業務の廃止を						
も対前年度比1%の		含めた抜本的な改善を						
抑制をすることを目		求める必要があると認						
標に、削減する。		められる						
<以下略>								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-3-(1)-ウ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(1) 一般管理費・人件費等の削減・見直し ウ 官民競争入札等の導入						
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		評価・行政事業レビュー						

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業	務に係る目標、計画	i、業務実績、中期目標期	間評価に係る自己評価及び主務	大臣による評価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価		主務大臣による	5評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価	i)	(期間)	<b>ミ績評価)</b>
運営費交付金を充	ウ 業務の質の維持	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
当して行う事業につ	向上及び経費の削減	かつ顕著な成績が得ら	中央畜産研修施設の管理・運	В	<評定に至った理由>			
いては、業務の見直	の一層の推進を図る	れた	営業務について、業務の質の維		これまでの実績から中期	計画どおり官民競		
し及び効率化を進	ため、官民競争入札	A:計画を上回る成果が得	持向上及び経費の節減の一層の		争入札等の導入に向けた取	双組が実施されると		
め、一般管理費(人	等の積極的な導入を	られた	推進を図るため「独立行政法人		見込まれることから「B」	評定とした。		
件費を除く。) につい	検討・推進する。	B:計画どおり順調に実施	整理合理化計画」(平成19年1					
ては、毎年度平均で		された	2月24日閣議決定)及び「公					
少なくとも対前年度		C:計画どおり実施され	共サービス改革基本方針」(平成					
比3%の抑制、業務		ず、改善を要する	23年7月15日閣議決定)に					
経費については、毎		D:計画どおり実施され	基づき民間競争入札を行うとと					
年度平均で少なくと		ず、当該業務の廃止を含	もに、入札を経て決定された民					
も対前年度比1%の		めた抜本的な改善を求	間事業者に対象業務を委託し					
抑制をすることを目		める必要があると認め	た。また、その実施状況につい					
標に、削減する。		られる	て所定の方法で調査・確認し、					
<以下略>			計画どおり実施した。					

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報				
第1-3-(1)-エ	第1 業務運営の効率化	3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(1) 一般管理費・人件費等の削減	咸・見直し エ 人件費	
当該項目の重要度、難易			関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028	
度			評価・行政事業レビュー		

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

3. 中期目標期間の業務に係る目	3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績	・自己評価		主務大臣は	こよる評価			
			業務実績	自己評価	(見)	込評価)	(期間実績評価)			
給与水準については、国家公	エ 給与水準については、	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定			
務員の給与水準を十分考慮し、	国家公務員の給与水準を十	かつ顕著な成果が得ら	役職員の給与水準に	В	<評定に至った理	∄由>				
手当を含め役職員給与の在り方	分考慮し、手当を含め役職	れた	ついては、国家公務員		これまでの実績	から中期計画に示				
について厳しく検証した上で、	員給与の在り方について厳	A:計画を上回る成果が得	とおおむね同等のもの		された取組が継続	売されるとともに、				
目標水準・目標期限を設定し、	しく検証した上で、引き続	られた	となるよう計画的に取		国家公務員と同等	等レベルの給与水準				
その適正化に取り組むととも	き、国家公務員に準拠した	B:計画どおり順調に実施	り組み、毎年度の給与		が維持されるとり	見込まれることから				
に、検証結果や取組状況を公表	給与規定に基づき支給する	された	水準について公表を行		「B」評定とした	÷ -0				
するものとする。	こととし、検証結果や取組	C:計画どおり実施され	った。							
<以下略>	状況を公表する。	ず、改善を要する								
	<以下略>	D:計画どおり実施され								
		ず、当該業務の廃止を含								
		めた抜本的な改善を求								
		める必要があると認め								
		られる								

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第1-3-(2)	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(2) 契約の点検・見直し							
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		評価・行政事業レビュー							

2	. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣に	よる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 契約の点検・	(2)契約の点検・見	指標=「細項目の項目数×2」(満	<主要な業務実績>		評定 B	評定
見直し	直し	点)に対する「各細項目の点数の合	◇契約の点検・見直し	В	<評定に至った理由>	
<以下略>	<以下略>	計値」(合計点)の比率	□経費の節減		下記のとおり。下位の評価項目である	,
		各細項目の評価点数の区分は以	2/2点 (B)		細項目の合計点がB評定の判定基準内	]
		下のとおりとする。	□調査研究業務		(満点×8/10≦合計点<満点×12/10)て	3
		S評価: 4点、A評価: 3点、B	2/2点 (B)		あるため。	
		評価:2点、C評価:1点、D評価:	□法人契約		満 点:8点(細項目4×2点)	
		0点	2/2点 (B)		合計点: 8点=2点×4	
		A:満点×12/10≦合計点	□増殖用種子の配布		8点/8点=1.0(10/10)	
		B:満点×8/10≦合計点<満点	2/2点 (B)			
		× 1 2/1 0	合計 8/8点		□経費の節減 2点(B)	
		C:満点×5/10≦合計点<満点			□調査研究業務 2点(B)	
		× 8/1 0			□法人契約 2点(B)	
		D:合計点<満点×5/10			□増殖用種子の配布 2点(B)	
					合計点 8点	

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第1-3-(2)-ア	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(2) 契約の点検・見直し ア 経	費の節減					
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028					
度		評価・行政事業レビュー						

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	1己評価		よる評価		
			業務実績	自己評価	(見込	評価)	(期間実績	評価)
(2) 契約の点検・見直し	ア 契約については、随	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
契約については、「独立行	意契約限度額にとらわれ	かつ顕著な成果が得られ	随意契約限度額未満であ	В	<評定に至った理由	>		
政法人の契約状況の点検・	ず、一般競争入札を積極	た	っても、一般競争入札を積		これまでの取組か	ら、中期計画に示さ		
見直しについて」(平成21	的に取り入れ、一般競争	A:計画を上回る成果が得	極的に取り入れた。また、		れた経費削減効果の	検証や競争性のない		
年11月17日閣議決定)	入札等であっても、契約	られた	年2回開催する契約監視委		随意契約の見直し等	が実施されていると		
に基づく取組を着実に実施	の条件、契約手続き等の	B:計画どおり順調に実施	員会において、経費削減効		見込まれることから	「B」評定とした。		
することにより、契約の適	見直し改善を図り、年2	された	果の検証を行うとともに、					
正化を推進し、業務運営の	回経費削減効果の検証を	C:計画どおり実施されず、	競争性のない随意契約の見					
効率化を図るものとする。	行う。	改善を要する	直し、一般競争入札等につ					
<以下略>	また、監事及び外部有	D:計画どおり実施されず、	いて真に競争性が確保され					
	識者によって構成する契	当該業務の廃止を含めた	ているかについて点検及び					
	約監視委員会において、	抜本的な改善を求める必	見直しを行い、その結果を					
	競争性のない随意契約の	要があると認められる	ホームページに公表し、計					
	見直しをさらに徹底して		画どおり実施した。					
	行うとともに、一般競争							
	入札等についても真に競							
	争性が確保されている							
	か、点検及び見直しを行							
	い、その結果を公表する。							

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第1-3-(2)-イ	第1 業務運営の効率化	3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(2) 契約の点検・見直し イ 調査研究業務						
当該項目の重要度、難易			関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028						
度			評価・行政事業レビュー						

2	2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	已評価	主務大臣	による評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 契約の点検・見直し	イ 調査研究業務に係る	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
契約については、「独立	調達の透明性を高め、効果	り、かつ顕著な成果	調査研究業務に係る物品調達	В	<評定に至った理由>	
行政法人の契約状況の点	的な契約の在り方を追求	が得られた	にあたっては、他の独立行政法		これまでの取組から、中期計画に示	(さ)
検・見直しについて」(平	するため、他の独立行政法	A:計画を上回る成果	人等の事例等を参考にし、仕様		れた仕様要件に見直しやリース方式の	)活
成21年11月17日閣	人の優良な事例等を参考	が得られた	要件の見直しやリース方式の活		用が図られつつあると見込まれること	: カ ・
議決定) に基づく取組を着	にし、仕様要件の見直しや	B:計画どおり順調に	用を図るなど、効果的な契約を		ら「B」評定とした。	
実に実施することにより、	リース方式の活用等を図	実施された	計画どおり実施した。			
契約の適正化を推進し、業	る。	C:計画どおり実施さ				
務運営の効率化を図るも		れず、改善を要する				
のとする。		D:計画どおり実施さ				
この場合において、調査		れず、当該業務の廃				
研究業務に係る調達につ		止を含めた抜本的な				
いては、他の独立行政法人		改善を求める必要が				
の事例なども参考に、透明		あると認められる				
性が高く効果的な契約の						
在り方を追求するものと						
する。						
<以下略>						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	うる基本情報 あんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう	
第1-3-(2)-ウ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(2) 契約の点検・見直し ウ 法人契約
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣は	こよる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 契約の点検・見直し	ウ 密接な関係があ	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
契約については、「独立行政法	ると考えられる法人	り、かつ顕著な成績	密接な関係があると考え	В	<評定に至った理由>	
の契約状況の点検・見直しに	との契約については、	が得られた	られる法人との契約につい		これまでの取組により、法人契約にお	3
ついて」(平成21年11月17	当該法人との取引、当	A:計画を上回る成果	ては該当がなかったため、		ける透明性が向上したと見込まれること	_
閣議決定)に基づく取組を着	該法人への再就職の	が得られた	再就職の状況等の情報につ		から「B」評定とした。	
実に実施することにより、契約	状況等の状況につい	B:計画どおり順調に	いて、「該当なし」とホーム			
つ適正化を推進し、業務運営の	て情報を公開するこ	実施された	ページに掲載することによ			
効率化を図るものとする。	とにより、透明性の向	C:計画どおり実施さ	り透明性の向上を図り、計			
この場合において、調査研究	上を図る。	れず、改善を要する	画どおり実施した。			
美務に係る調達については、他		D:計画どおり実施さ				
O独立行政法人の事例なども参		れず、当該業務の廃				
<b>考に、透明性が高く効果的な契</b>		止を含めた抜本的な				
りの在り方を追求するものとす		改善を求める必要が				
ó.		あると認められる				
また、密接な関係にあると考						
えられる法人との契約に当たっ						
ては、一層の透明性の確保を追						
だし、情報提供の在り方を検討						
するものとする。						
<以下略>						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-3-(2)-エ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(2) 契約の点検・見直し エ 増殖用種子の配布
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号::0028
度		評価・行政事業レビュー

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣は	こよる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(2) 契約の点検・見直し	エ 飼料作物に係る増	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
契約については、「独立行政法	殖用の種子の配布につ	り、かつ顕著な成果	増殖用種子の配布方法に	В	<評定に至った理由>	
人の契約状況の点検・見直しに	いては、平成23年度	が得られた	ついて、申請による配布か		中期計画どおり平成23年度中に競争	<b>予</b>
ついて」(平成21年11月17	中に競争性のある契約	A:計画を上回る成果	ら、一般競争入札を導入し		性のある契約を導入されたことからB記	平
日閣議決定)に基づく取組を着	を導入する。この場合、	が得られた	実施した。その際、配布先		定とした。	
実に実施することにより、契約	配布先を決めるに当た	B:計画どおり順調に	選定の判定基準を作成し、			
の適正化を推進し、業務運営の	っては、配布希望者が	実施された	外部委員の審査により十分			
効率化を図るものとする。	種苗増殖を行い、農家	C:計画どおり実施さ	精査して行うなど、計画ど			
<中略>	への種子の供給を行う	れず、改善を要する	おり実施した。			
なお、飼料作物に係る種苗の	計画や能力を有するか	D:計画どおり実施さ				
配布業務については、センター	等を判定する基準を作	れず、当該業務の廃				
が行う増殖用の種子の配布を特	成し、十分に精査した	止を含めた抜本的				
定の団体が受けている状況にあ	上で行う。	な改善を求める必				
ることから、競争性のある手続		要があると認めら				
を経て行うものとする。また、		れる				
配布先を決める際には、配布希						
望者が、種苗増殖を行い農家へ						
の種子の供給を行う計画や能力						
を有するかなどを十分に精査し						
た上で、行うものとする。						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報				
第1-3-(3)	第1 業務運営の効率化	3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(3) 自己収入の拡大		
当該項目の重要度、難易			関連する研究開発評価、政策	行政事業レビューシート事業番号:0028	
度			評価・行政事業レビュー		

2	. 主要な経年データ									(単位:百万円)
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	(参考情報)	
	諸収入			1,259	1,182	1,354	1,496		決算額	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価			主務大臣による	評価
			業務実績	自己評価	(見込詞	平価)	(期間実績評価)
(3) 自己収入の拡大	ア 自己収入の拡大を図	指標=「細項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定	В	評定
で畜の改良増殖に係る家畜人	るため、家畜の改良増殖	(満点)に対する「各細項目	◇自己収入の拡大	В	<評定に至った理由>	>	
[授精用精液、家畜受精卵、種	に係る家畜人工授精用精	の点数の合計値」(合計点)の	口自己収入の拡大		下記のとおり。下位	の評価項目である細	
鳥及び飼料作物種子の譲渡又	液、家畜受精卵、種鶏等	比率	2/2点(B)		項目の合計点が B 評	定の判定基準内(満	
は配布価格について、生産コス	の配布及び飼料作物の種	各細項目の評価点数の区分	□監査の実施		点×8/10≦合計点<満	ត点×12/10)である	
、を考慮し、畜産経営などに及	子配布価格について、生	は以下のとおりとする。	2/2 (B)		ため。		
ぎす影響を踏まえ、民間市場価	産コストを考慮し、畜産	S評価: 4点、A評価: 3点、	合計 4/4点		満 点:4点(細項目:	2×2点)	
各などと比較した価格の検	経営等に及ぼす影響を踏	B評価:2点、C評価:1点、			合計点: 4点=2点×	< 2	
討・設定を行うとともに、家畜	まえ、民間市場価格等と	D評価:0点			4点/4点=1.0(	10/10)	
の貸付け及び飼料作物の原種	比較を行う等により適切	A:満点×12/10≦合計点					
子配布への競争入札の導入な	な価格の設定をする。	B:満点×8/10≦合計点			口自己収入の拡大	2点(B)	
ビ、配布方法の見直しや透明性	また、家畜の貸付け及	<満点×12/10			□監査の実施	2点(B)	
の向上を不断に行うことによ	び飼料作物の原種子配布	C:満点×5/10≦合計点			合	計点 4点	
り、自己収入の拡大を図る。ま	について、競争入札や公	<満点×8/10					
た、内部監査などの強化を通	募等の競争性のある契約	D:合計点<満点×5/10					
じ、資産・施設の有効活用を促	の導入等の配布方法の見	"					
進するとともに、コスト縮減を	直しを行う。						
念頭に、無駄をなくす努力を更	<以下略>						
に徹底する。							
<以下略>							

4. その他参考情報			

#### 

4	2. 主要な経年データ									(単位:百万円)
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	(参考情報)	
	諸収入			1,259	1,182	1,354	1,496		決算額	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	・自己評価	主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価
(3) 自己収入の拡大	ア 自己収入の拡大を図る	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
家畜の改良増殖に係る家畜人	ため、家畜の改良増殖に係	り、かつ顕著な成果	種鶏等及び飼料作	В	<評定に至った理由>	
授精用精液、家畜受精卵、種鶏	る家畜人工授精用精液、家	が得られた	物原種子等の配布価		これまでの実績から、自己収入の拡大に向けた取組	が中
び飼料作物種子の譲渡又は配布	畜受精卵、種鶏等の配布及	A:計画を上回る成果	格については、生産		期計画どおり実施されると見込まれることから、「B」	評定
<b> 格について、生産コストを考慮</b>	び飼料作物の種子配布価格	が得られた	コストを考慮し、民		とした。	
、畜産経営などに及ぼす影響を	について、生産コストを考	B:計画どおり順調に	間市場価格等を参考			
話え、民間市場価格などと比較	慮し、畜産経営等に及ぼす	実施された	に適正な価格を設定		<参考>	
た価格の検討・設定を行うとと	影響を踏まえ、民間市場価	C:計画どおり実施さ	した。種子配布につ		・家畜の改良増殖に係る家畜人工授精用精液、家畜受料	<b>与</b> 卵、
に、家畜の貸付け及び飼料作物	格等と比較を行う等により	れず、改善を要する	いては、一般競争の		種鶏等の配布及び飼料作物の種子配布価格について、	適切
の原種子配布への競争入札の導入	適切な価格の設定をする。	D:計画どおり実施さ	方法で契約を行っ		な価格を検討し、種鶏等の配布価格については、民間	取引
ど、配布方法の見直しや透明性	また、家畜の貸付け及び	れず、当該業務の廃	た。また、精液採取		価格等を調査し参考としつつ適正な価格を設定し、め	ん羊
)向上を不断に行うことにより、	飼料作物の原種子配布につ	止を含めた抜本的	用種雄牛の貸付につ		の配布価格については、市場平均単価及び輸入羊肉価	格推
日己収入の拡大を図る。また、内	いて、競争入札や公募等の	な改善を求める必	いては、各種畜産関		移から生体単価を求め、適正な価格を設定し、飼料作	物原
器査などの強化を通じ、資産・	競争性のある契約の導入等	要があると認めら	係会議、イベント等		種子等の配布価格については、生産原価と民間市場価	格を
<ul><li>設の有効活用を促進するととも</li></ul>	の配布方法の見直しを行	れる	において周知活動を		比較検討し、適正な価格を設定した。	
こ、コスト縮減を念頭に、無駄を	う。		行うなど、計画どお		・増殖用種子の配布方法について、申請による配布方	法か
くす努力を更に徹底する。	精液採取用種雄牛の貸付		り実施した。		ら一般競争に見直しをすることとし、外部委員による	審査
お、精液採取用種雄牛の貸付け	けの入札について、競争性				も行い十分に精査をした上で、一般競争入札を行った。	
入札については、周知活動を強	及び透明性を高めるため、				・ 精液採取用種雄牛の貸付については、各種畜産関係	会議
とするなどにより、応札者の参入	ホームページ、畜産関係専				の場での周知、畜産専門誌掲載による周知「畜産フー	ドフ
)拡大を図り、競争性を更に高め	門誌等による周知活動を強				ェア」等においてポスター掲示、パンフレットの配布	等の
るものとする。	化する。				周知活動を行った。	

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報	
第1-3-(3)-イ	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(3) 自己収入の拡大 イ 監査の実施
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣に	よる評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(3) 自己収入の拡大	イ 監査の実施に当	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B	評定
家畜の改良増殖に係る家畜人工授精用	たっては、会計監査	かつ顕著な成果が得ら	監事監査及び会計監査	В	<評定に至った理由>	
情液、家畜受精卵、種鶏及び飼料作物種	人監査、監事監査及	れた	人監査の監査情報の共有		これまでの実績から、中期計画に示され	h
子の譲渡又は配布価格について、生産コ	び内部監査を担当す	A:計画を上回る成果が	並びに監査結果及び是正		た監査が実施されると見込まれることか	6
ストを考慮し、畜産経営などに及ぼす影	る部門が連携し、監	得られた	措置状況の相互評価を実		「B」評定とした	
響を踏まえ、民間市場価格などと比較し	査情報を共有すると	B:計画どおり順調に実	施し、資産等の活用状況等			
た価格の検討・設定を行うとともに、家	ともに、監査結果等	施された	に留意して監査を行うな			
畜の貸付け及び飼料作物の原種子配布	に基づく是正措置の	C:計画どおり実施され	ど、計画どおり実施した。			
への競争入札の導入など、配布方法の見	実施状況を相互に評	ず、改善を要する				
直しや透明性の向上を不断に行うこと	価する。また、これ	D:計画どおり実施され				
により、自己収入の拡大を図る。また、	ら取組を通じ、資	ず、当該業務の廃止を				
内部監査などの強化を通じ、資産・施設	産・施設の有効活用	含めた抜本的な改善を				
の有効活用を促進するとともに、コスト	を促進するととも	求める必要があると認				
縮減を念頭に、無駄をなくす努力を更に	に、コスト縮減を念	められる				
散底する。	頭に、無駄をなくす					
なお、精液採取用種雄牛の貸付けの入札	努力をさらに徹底す					
については、周知活動を強化するなどに	る。					
より、応札者の参入の拡大を図り、競争						
性を更に高めるものとする。						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第1-3-(4)	第1 業務運営の効率化 3 経費の縮減及び自己収入の拡大	(4) 知的財産の管理	
当該項目の重要度、難易		関連する研究開発評価、政策 行	政事業レビューシート事業番号:0028
度		評価・行政事業レビュー	

2	2. 主要な経年データ								
	評価対象となる指標	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度	(参考情報)

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評	価	主務大臣	による評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(4) 知的財産の管	(4) 知的財産の管理	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
理	特許等の知的財産につ	り、かつ顕著な成果が	特許等の知的財産について、その取得状	В	<評定に至った理由>	
センターが保有す	いて、その取得状況、活	得られた	況、活用状況等を発明審査委員会におい		これまでの実績から中期計画どお	ŋ ,
る特許権について	用状況等を発明審査委員	A:計画を上回る成果	て、毎年2回点検し、有効活用した。また、		知的財産の管理に関する取組が実施さ	れ
は、特許権を保有す	会において毎年2回点検	が得られた	特許権については、知的財産に係る基本方		ると見込まれることから「B」評定と	L
る目的を明確にした	し、有効活用する。その	B:計画どおり順調に	針を策定し、所定の規程の改正を行うなど		た。	
上で、当該目的を踏	ため、特許権については、	実施された	により、保有する目的等を明確にしたうえ			
まえつつ、登録・保	保有する目的を明確にし	C:計画どおり実施さ	で、登録及び保有コストの削減を図るとと			
有コストの削減及び	たうえで、登録及び保有	れず、改善を要する	もに、特許収入の拡大に努めた。			
特許収入の拡大を図	コストの削減を図るとと	D:計画どおり実施さ				
る。	もに、特許収入の拡大を	れず、当該業務の廃止				
	図る。	を含めた抜本的な改				
		善を求める必要があ				
		ると認められる				

4. その他参考情報		

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2	第2 業務の質の向上		
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第 11 条、家畜改良増殖法第 3 条の 4 ,同
	家畜改良増殖目標・鶏の改良増殖目標		法 35 条の 2 第 1 項・第 3 項、種苗法第 6 3 条第 1 項、遺伝子組換え生物等
	酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針		の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律第32条第1項・
			第3項、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法第
			20条、牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法施
			行令第5条
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035
			行政事業レビューシート事業番号:0279

2	. 主要な経年デ	ータ												
	①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	

注:業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

<ul><li>. 中期目標期</li><li>一中期目標</li></ul>	間の業務に係る中期計画	5目標、計画、業務実績、中期 主な評価指標等	目標期間評価に係る自己評価及び		評価	主務大臣による評	<u></u>		
中朔日悰 	中州山凹	土な計画担保等			自己評価	(見込評価)			[評価)
第3 国民に	第2 国民に	指標=「中項目の項目数×2」	◎国民に対して提供するサービスそ	の他の業務の質		評定 B		評定	
対して提供	対して提供す	(満点)に対する「各中項目の	の向上に関する目標を達成するために	ことるべき措置	В	<評定に至った理由>			
するサービ	るサービスそ	点数の合計値」(合計点)の比率	○家畜改良及び飼養管理の改善等	2/2点(B)		下記のとおり,下位の評価項目である中項目の合	計点がB評定		
スその他の	の他の業務の	各中項目の評価点数の区分は	○飼料作物の増殖に必要な種苗の生産	産・供給		の判定基準内(満点×8/10≦合計点<満点×12/10)	であるため。		
業務の質の	質の向上に関	以下のとおりとする。		2/2点(B)		満 点:10点(中項目5×2点)			
向上に関す	する目標を達	S: 4点、A: 3点、B: 2	○飼料作物の種苗の検査	○飼料作物の種苗の検査 2/2点(B) 合計点:9点=2点×4+1点					
る目標を達	成するために	点、C:1点、D:0点	○調査研究	2/2点(B)		16点/10点=0.9(9/10)			
成するため	とるべき措置	A:満点×12/10≦合計点	○講習及び指導	2/2点(B)		○家畜改良及び飼養管理の改善等	2点(B)		
にとるべき	<以下略>	B:満点×8/10≦合計点<	○家畜改良増殖法に基づく検査等	2/2点(B)		○飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・供給	2点(B)		
措置		満点×12/10	○牛トレサ法に基づく事務等	2/2点(B)		○飼料作物の種苗の検査	2点(B)		
<以下略>		C:満点×5/10≦合計点<	○センターの人材・資源を活用したタ	外部支援		○調査研究	2点(B)		
		満点×8/10		2/2点(B)		○家畜改良増殖法等に基づく検査等	2点(B)		
		D:合計点、<満点×5/10	合 計 16	/16点		○牛トレサ法に基づく事務等	2点(B)		
						○センターの人材・資源を活用した外部支援	2点(B)		
						合 計 点	16点		
.その他参考情	<b>青報</b>								

1. 当事務及び事業に関	1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第2-1	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善									
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号							
	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4							
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035							

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注							
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
				\		\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

注:業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務	<b>S実績・自己評価</b>	ī	主務大臣によ		
			業務実績		自己評価	(見込評価)		(期間実績評価)
1 家畜改良及	第2-1 家畜改	指標=「小項目の項目数×2」(満	○家畜改良及び飼養管理の	改善等		評定 B		評定
び飼養管理の改	良及び飼養管理	点) に対する「各小項目の点数の	◇乳用牛	2/2点(B)	В	<評定に至った理由>		
善など	の改善等	合計値」(合計点) の比率	◇肉用牛	2/2点(B)		下記のとおり、評価対象とした下位の評価:	項目である小項	
<以下略>	<以下略>	各小項目の評価点数の区分は以	◇豚	2/2点(B)		目の合計点がB評定の判定基準内(満点×8)	/10≦合計点	
		下のとおりとする。	◇鶏	2/2点(B)		<12/10) であったため。		
		S:4点、A:3点、B:2点、	◇馬	2/2点(B)		満 点:18点(小項目9×2点)		
		C:1点、D:0点	◇めん羊・山羊	2/2点(B)		合計点:17点=2点×8+1点		
		A:満点×12/10≦合計点	◇家畜の飼養管理の改善	2/2点(B)		17点/18点=0.94 (9.4/10)		
		B:満点×8/10≦合計点<満点	◇家畜伝染性疾病に対する	)		◇乳用牛	2点(B)	
		× 1 2/1 0	リスク管理の強化	2/2点(B)		◇肉用牛	2点(B)	
		C:満点×5/10≦合計点<満点	◇家畜の遺伝資源の保存	2/2点(B)		◇鶏	2点(B)	
		× 8/1 0	合 計 1	8/18点		◇馬	2点(B)	
		D:合計点、<満点×5/10				◇めん羊・山羊	2点(B)	
						◇家畜伝染性疾病に対するリスク管理の強化	1点(C)	
						◇家畜の遺伝資源の保存	2点(B)	
						合 計 点	17点	

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第2-1-(1)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)乳	用牛							
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号						
	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4						
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035						

2.	2. 主要な経年データ														
	② 要なアウトプット (アウトカム) 情報								②主要なインプット情報(財	才務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
				\						(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

注:業務ごとに算出していないため、法人全体の数値を掲載

3.	3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価										
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評価					
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績評	2価)		
	(1)乳用牛	(1)乳用牛	◇乳用牛	◇乳用牛		評定 B		評定			
	<以下略>	<以下略>	指標=「細項目の項目数×2」(満	□全国的な改良の推進	В	<評定に至った理由>					
			点) に対する「各細項目の点数の	2/2点(B)		下記のとおり、 下位の評価項	頁目である細項目				
			合計値」(合計点) の比率	□遺伝的能力評価の実施		の合計点がB評定の判定基準内(満点×8/10≦					
			各細項目の評価点数の区分は以	2/2点(B)	合計点<満点×12/10) であるため。						
			下のとおりとする。	□候補種雄牛等の生産・供給	満 点:6点(細項目 3×2点)						
			S:4点、A:3点、B:2点、	2/2点(B)		合計点: 2点×3=6点					
			C:1点、D:0点	□その他		6点/6点=1.0=10/1	1 0				
			A:満点×12/10≦合計点	2/2点(B)		□全国的な改良の推進	2点(B)				
			B:満点×8/10≦合計点<満点	合 計 8/8点		□遺伝的能力評価の実施	2点(B)				
			× 1 2/1 0			□候補種雄牛等の生産・供給	2点(B)				
			C:満点×5/10≦合計点<満点			□その他	2点(B)				
			× 8/1 0			合 計 点	8点				
			D:合計点、<満点×5/10								

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関	する基本情報		
第2-1-(1)-ア	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ア 全国的な改良の推議	<u></u>
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛生	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	主要な経年デ	ニータ															
	①主要なアウ	D主要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度		
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261			
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191			
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680			
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619			
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420			
										従事人員数	991	981	972	966			
						\				(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)			

3.	・中期目標期間の業	務に係る目標、計画	<ul><li>「、業務実績、中期目標期間評価は</li></ul>	に係る自己評価及び主務大臣	による評価		
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣は	こよる評価
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	ア 全国的な改良の	ア 全国的な改良の	指標=「微項目の項目数×2」(満	□全国的な改良の推進		評定 B	評定
	推進	推進	点)に対する「各微項目の点数の合	△全国的な乳用牛の	В	<評定に至った理由>	
	<以下略>	<以下略>	計値」(合計点) の比率	改良推進 2/2点(B)		下記のとおり、評価対象とした下位の評価	
			各微項目の評価点数の区分は以	△後代検定の推進		項目である微項目の合計点がB評定の判定基	
			下のとおりとする。	2/2点(B)		準内(満点×8/10≦合計点<12/10)	
			S:4点、A:3点、B:2点、	合 計 4/4点		であったため。	
			C:1点、D:0点			満 点:4点(微項目2×2点)	
			A:満点×12/10≦合計点			合計点: 4点=2点×2	
			B:満点×8/10≦合計点<満点			4点/4点=1.0 (10/10)	
			× 1 2/1 0			△全国的な乳用牛の改良推進 2点(B)	
			C:満点×5/10≦合計点<満点			△後代検定の推進 2点(B)	
			× 8/1 0			合計点 4点	
			D:合計点、<満点×5/10				

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-ア-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ア 全国的な改良の推	進(ア)全国的な乳用牛の改良推進
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

主要な経年を	データ													
② 要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
\									予算額(千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\			(うち常勤職員数)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の	業務に係る目標、計画、業	務実績、中期目標期間評価	西に係る自己評価及び主務大臣によ	る評価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己記	 平価		主務大臣による記	平価	
			業務実績	自己評価		(見込評価)	(期間	実績評価)
(ア)全国的な乳	(ア) 全国的な乳用牛の改	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
用牛の改良推進を	良推進を図るため、センタ	かつ顕著な成果が得ら	全国的な乳用牛の改良推進を図る	В	<評定に至った	理由>		
図るため、農林水	ーが農林水産省、都道府県、	れた	ため、農林水産省、都道府県、関係団		中期計画どお	り、関係者を参集した全国会		
産省、都道府県、	関係団体、生産者及び学識	A:計画を上回る成果が得	体、生産者及び学識経験者の参画を得		議の開催、乳用	牛改良に関する各種会議への		
関係団体、生産者	経験者を参集して会議を開	られた	て、「乳用牛評価技術検討会」等を開		積極的な参加と	技術的助言、連携協力を行う		
及び学識経験者と	催し、我が国における家畜	B:計画どおり順調に実施	催し、我が国における乳用牛の改良の		など乳用牛改良	において指導的な役割を果た		
の意見・情報交換	改良の方向性に沿ったセン	された	方向性に沿ったセンターの業務のあ		していると見込	まれることから「B」評定と		
において、積極的	ターの業務のあり方につい	C:計画どおり実施され	り方について意見・情報交換を行い、		した。			
に指導的役割を果	て意見・情報交換を行い、	ず、改善を要する	遺伝的能力評価技術の改善に取り組					
たすとともに、都	業務に反映する。また、農	D:計画どおり実施され	むなど業務に反映した。また、関係団					
道府県、関係団体	林水産省、都道府県、関係	ず、当該業務の廃止を含	体等が開催する乳用牛の改良に関す					
などとの役割分担	団体等が開催する家畜改良	めた抜本的な改善を求	る各種会議に積極的に参画し、乳用牛					
の明確化を図る。	に関する各種会議に積極的	める必要があると認め	改良をめぐる情勢を説明するなどの					
	に参画し、技術的助言、連	られる	技術的助言や乳用牛改良事業に係る					
	携協力を行う等指導的な役		連携協力を行う等により指導的役割					
	割を果たす。		を果たし、計画どおり実施した。					

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-ア-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳	1用牛 ア 全国的な改良の推進	(イ)後代検定の推進
関連する政策・施策	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

主要な経年ラ	データ												
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注						
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
						\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の	業務に係る目標、計	十画、業務実績、中期目標期	間評価に係る自己評価及び主務だ	大臣による評価	<u> </u>			
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価		主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価		(見込評価)	(期間実績評価	<u>i</u> )
(イ)遺伝的能力	(イ) 全国同一基	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
の高い検定済種雄	準による遺伝的能	つ顕著な成果が得られた	全国同一基準による遺伝的能力	В	<評定に至った理由>			
牛の精液を供給す	力評価に基づき、	A:計画を上回る成果が得ら	評価に基づき、後代検定の実施を		中期計画に則して全国	国同一基準による遺伝的能力評価に基		
るため、全国同一	後代検定の実施を	れた	推進するため、「全国乳用牛改良技		づいた後代検定の推進に	こ取り組んでいることから「B」評定		
基準による遺伝的	推進するための会	B:計画どおり順調に実施さ	術検討会」及び「全国乳用牛改良		とした。			
能力評価に基づい	議を開催し、技術	れた	推進会議」を開催し、「高い遺伝的					
た後代検定を推進	的助言、連携協力	C:計画どおり実施されず、	能力が期待できる候補種雄牛を確		<参考>			
する。	を行う等後代検定	改善を要する	保するためのガイドライン」を策		• 農林水産省、都道府	県、関係団体、生産者及び学識経験者		
	に関する推進母体	D:計画どおり実施されず、	定することなどにより技術的助		の参画を得て、「全国乳	用牛改良推進会議」を開催し、「高い		
	としての役割を果	当該業務の廃止を含めた抜	言、連携協力を行う等後代検定に		遺伝的能力が期待できる	る候補種雄牛の確保するためのガイド		
	たす。	本的な改善を求める必要が	関する推進母体としての役割を果		ライン」を策定するとと	ともに、後代検定事業に係る調整交配		
		あると認められる	たし、計画どおり実施した。		をはじめとする事業実施	<b>色計画の作成にあたって技術的指導等</b>		
					を行い、後代検定事業の	)円滑な推進を図った。		
					・後代検定成績の評価料	青度の向上を図るため、平成27年2		
					月に泌乳形質等に係る過	遺伝的能力評価方法を「変量回帰検定		
					日モデル」から「産次を	と考慮した変量回帰検定日モデル」に		
					変更した。			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳	11用牛 イ 遺伝的能力評価の実施	拖
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

①主要なアウ	D主要なアウトプット (アウトカム) 情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注						
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261		
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191		
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680		
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619		
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420		
									従事人員数	991	981	972	966		
	\		\	\		\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)		

3. 中期目標期間(	の業務に係る目	票、計画、業務実績、中期目標期間	評価に係る自己評価及	び主務大臣によ	る評価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業	務実績・自己評	価	主務大臣によ	よる評価		
			業務実統	漬	自己評価	(見込評価)	(期間実	績評価)	
イ 遺伝的能力	イ 遺伝的能力	指標=「微項目の項目数×2」(満点)	□遺伝的能力評価の実施	施		評定 B		評定	
評価の実施	評価の実施	に対する「各微項目の点数の合計値」	△遺伝的能力の評価		В	<評定に至った理由>			
<以下略>	<以下略>	(合計点) の比率	・公表	2/2点(B)		下記のとおり、評価対象とした下位の評価項	頁目である微項		
		各微項目の評価点数の区分は以下の	△総合指数	2/2点(B)		目の合計点がB評定の判定基準内(満点×8/	1 0 ≦合計点		
		とおりとする。	△評価手法の改善	2/2点(B)		<12/10) であったため。			
		S:4点、A:3点、B:2点、C:	△ジャージー種の遺伝的	的		満 点:10点(微項目5×2点)			
		1点、D:0点	能力の評価・公表	2/2点(B)		合計点:10点=2点×5			
		A:満点×12/10≦合計点	△ブラウンスイス種の			10点/10点=1.0 (10/10)			
		B:満点×8/10≦合計点<満点	遺伝的能力評価	2/2点(B)		△遺伝的能力の評価・公表	2点(B)		
		× 1 2/1 0	合 計	10/10点		△総合指数	2点(B)		
		C:満点×5/10≦合計点<満点				△評価手法の改善	2点(B)		
		× 8/1 0				△ジャージー種の遺伝的能力の評価・公表	2点(B)		
		D:合計点、<満点×5/10				△ブラウンスイス種の遺伝的能力評価	2点(B)		
						合 計 点	10点		

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-イ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実	E施 (ア)遺伝的能力の評価・公表
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年ラ	主要な経年データ													
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
									(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の	業務に係る目標、計画	i、業務実績、中期目標	票期間評価に係る自己評価	西及び主務大臣	による評価			
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価		(見込評価)	(期間実	<b>ミ績評価)</b>
(ア) ホルスタイン	(ア) ホルスタイン	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
種について、生涯生	E 種について、種雄牛	り、かつ顕著な成果	ホルスタイン種につい	В	<評定に至った理由>			
産性の向上を図る額	見 及び雌牛の遺伝的能	が得られた	て、種雄牛の遺伝的能力		我が国における乳用牛の	の主要品種であるホルスタイン種につ		
点から、泌乳持続性	上 力評価を毎年2回以	A:計画を上回る成果	評価を毎年2回、雌牛の		いて、中期計画どおり、種	重雄牛及び雌牛の遺伝的能力評価を定		
の評価形質を組みる	上定期的に実施し公	が得られた	遺伝的能力評価を毎年4		期的に公表しげいることが	pら「B」評定とした。		
れて、総合指数を新	f 表する。また、種雄	B:計画どおり順調に	回、定期的に実施し公表					
たに作成するととも	サの国際能力評価機	実施された	したほか、インターブル		<参考>			
に、遺伝子解析技術	<b>  関(インターブル)</b>	C:計画どおり実施さ	から得られた海外の遺伝		・種雄牛の遺伝的能力評価	mを実施し、毎年8月と2月に公表し		
(SNP)を活用し	から得られる年3回	れず、改善を要する	的能力評価に関する情報		た。			
た解析技術を導入す	の海外の遺伝的能力	D:計画どおり実施さ	を毎年3回定期的に提供		・ 雌牛の遺伝的能力評価	を実施し、毎年5月、8月、11月及		
るなど、効率的かつ	評価に関する情報を	れず、当該業務の廃	し、計画どおり実施した。		び2月に公表した。			
精度の高い遺伝的能	定期的に提供する。	止を含めた抜本的な			・ インターブルから得られ	れた海外の遺伝的能力評価に関する情		
力評価を行い、全国	3	改善を求める必要が			報を毎年4月、8月及び1	12月に提供・公表した。		
的に改良を進める。		あると認められる。						

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-イ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実	が (イ) 総合指数 (イ) において (イ) にはいて
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年テ	ータ													
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
	①主要なアウ		①主要なアウトプット (アウトカム) 情報	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報     指標等     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       予算額 (千円) 決算額 (千円) 経常利益 (千円) 行政サービ、ス実施コスト (千円) 従事人員数	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報       指標等     達成目標     基準値     X 2 年度     X 3 年度     X 4 年度     X 5 年度       予算額 (千円)     8,682,884       決算額 (千円)     9,127,037       経常費用 (千円)     8,923,393       経常利益 (千円)     8,826,155       行政サーじ 次実施コスト (千円)     8,712,060       従事人員数     991	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報       指標等     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       一方算額(千円)     8,682,884     8,967,108       決算額(千円)     9,127,037     8,572,227       経常費用(千円)     8,923,393     8,388,109       経常利益(千円)     8,826,155     8,412,573       行政サービス実施コスト(千円)     8,712,060     8,206,327       従事人員数     991     981	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報 指標等     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       予算額 (千円)     8,682,884     8,967,108     8,532,098       決算額 (千円)     9,127,037     8,572,227     8,651,460       経常費用 (千円)     8,923,393     8,388,109     8,227,741       経常利益 (千円)     8,826,155     8,412,573     8,168,306       行政サービス実施コスト (千円)     8,712,060     8,206,327     7,612,425       従事人員数     991     981     972	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報       指標等     達成目標     基準値     X 2 年度     X 3 年度     X 4 年度     X 5 年度       予算額 (千円)     8,682,884     8,967,108     8,532,098     8,493,261       決算額 (千円)     9,127,037     8,572,227     8,651,460     9,160,191       経常費用 (千円)     8,923,393     8,388,109     8,227,741     8,675,680       経常利益 (千円)     8,826,155     8,412,573     8,168,306     8,670,619       行政サービス実施コスト (千円)     8,712,060     8,206,327     7,612,425     7,546,420       従事人員数     991     981     972     966						

3.	中期目標期間の業務	房に係る目標、計画	、業務実績、中期目標期間	]評価に係る自己評価及び主務大臣	による評価				
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己記	平価		主務大臣に	よる評価	
				業務実績	自己評価	(見込評価)		(期間実績	評価)
	(ア) ホルスタイン種	(イ) ホルスタイ	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
	について、生涯生産性	ン種の総合指数に	かつ顕著な成果が得られ	ホルスタイン種の総合指数に関す	В	<評定に至った理由	>		
	の向上を図る観点か	ついて、学識経験	た	る検討会を学識経験者等改良関係者		我が国における乳	L用牛の主要品種であ		
	ら、泌乳持続性の評価	者等改良関係者の	A:計画を上回る成果が得	の参画を得て開催し、泌乳持続性及び		るホルスタイン種の	総合指数について中		
	形質を組み入れて、総	意見を聞きなが	られた	空胎日数を組み入れ試作した総合指		期計画に則した改善	と しょう はんでいるこ		
	合指数を新たに作成	ら、泌乳持続性の	B:計画どおり順調に実施	数について検討及び意見交換を行っ		とから「B」評定と	した。		
	するとともに、遺伝子	評価形質を組み入	された	た。その結果を踏まえ、新たに作成し					
	解析技術 (SNP) を	れたものを作成す	C:計画どおり実施されず、	た総合指数式による評価を実施し、平					
	活用した解析技術を	る。また、その他	改善を要する	成27年8月に当該評価結果の公表					
	導入するなど、効率的	の形質について総	D:計画どおり実施されず、	を行うとともに、その改善のための分					
	かつ精度の高い遺伝	合指数への反映を	当該業務の廃止を含めた	析を行うこととしており、計画どおり					
	的能力評価を行い、全	検討する。	抜本的な改善を求める必	実施した。					
	国的に改良を進める。		要があると認められる						

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-イ-(ウ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 イ 遺伝的能力評価の	実施 (ウ) 評価手法の改善
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年テ	データ												
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報						②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	する情報、法人	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
	\		\			\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	評価	主務大臣に	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -
		業務実績		自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(ア) ホルスタイン	(ウ) ホルスタイ	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>		評定 B	評定
種について、生涯生産	ン種について、遺	つ顕著な成果が得られた	ホルスタイン種について、学識経	В	<評定に至った理由>	
性の向上を図る観点か	伝的能力の評価	A:計画を上回る成果が得ら	験者等の参画を得て、遺伝的能力の		我が国における乳用牛の主要品種であ	
ら、泌乳持続性の評価	技術に関する検	れた	評価技術に関する検討会を開催し、		るホルスタイン種の遺伝的能力評価につ	
形質を組み入れて、総	討会を毎年開催	B:計画どおり順調に実施さ	ゲノミック評価を平成25年11		いて、中期計画に則して評価手法の改善に	
合指数を新たに作成す	し、SNP (一塩	れた	月から公表、繁殖性の遺伝的能力評		取り組んでいることから「B」評定とした。	
るとともに、遺伝子解	基多型) 情報を活	C:計画どおり実施されず、	価を平成26年2月から公表、産次			
析技術(SNP)を活	用する等精度の	改善を要する	を考慮した変量回帰検定日モデル			
用した解析技術を導入	高い遺伝的能力	D:計画どおり実施されず、	を導入した遺伝的能力評価を平成			
するなど、効率的かつ	評価手法の開発	当該業務の廃止を含めた抜	27年2月から公表するなど、精度			
精度の高い遺伝的能力	に取り組む。	本的な改善を求める必要が	の高い遺伝的能力評価手法や新た			
評価を行い、全国的に		あると認められる	な形質の評価手法の開発に取り組			
改良を進める。			み、計画を大きく上回って実施し			
			た。			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-イ-(エ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 イ 遺伝的能力評価の実	E施 (エ)ジャージー種の遺伝的能力の評価・公表
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年ラ	データ												
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報						②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
								(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3	. 中期目標期間の業	務に係る目標、計画	「、業務実績、中期目標期間評価に	に係る自己評価及び主務に	大臣による評価						
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績	• 自己評価	主務大臣による評価					
				業務実績	自己評価	(見込	込評価)	(期間実績評価)			
	(イ) ジャージー	(エ) ジャージー種	S:計画を大きく上回り、かつ顕著	<主要な業務実績>		評定 B		評定			
	種について、引き続	について、牛群検定	な成果が得られた	ジャージー種に係る牛	В	<評定に至った理由	>				
	き遺伝的能力評価を	データの収集可能な	A:計画を上回る成果が得られた	群検定データの収集可能		中期計画どおり、					
	実施し、改良を進め	施し、改良を進め 雌牛全頭について、 B:計画どおり順調に実施された		な雌牛全頭について、毎的能力を評価と評価結果の公表を実施し							
	る。	毎年2回定期的に遺	C:計画どおり実施されず、改善を	年2回定期的に遺伝的能		たことから「B」評	定とした。				
		伝的能力を評価し、	要する	力を評価し評価結果を公							
		公表する。	D:計画どおり実施されず、当該業	表し、計画どおり実施し		<参考>					
		務の廃止を含めた抜本的な改		た。		牛群検定データの収	又集可能な雌牛全頭に				
		を求める必要があると認めら				ついて、毎年9月、	3月に遺伝的能力の評				
			る			価を実施し評価結果	:を公表した。				

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-イ-(オ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 イ 遺伝的能力評価の	実施 (オ)ブラウンスイス種の遺伝的能力の評価・公表
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

予算額(千円)   8,682,884   8,967,108   8,532,098   8,493,261     決算額(千円)   9,127,037   8,572,227   8,651,460   9,160,191	2. 主要な経年を	データ												
予算額 (千円)     8,682,884     8,967,108     8,532,098     8,493,261       決算額 (千円)     9,127,037     8,572,227     8,651,460     9,160,191	①主要なアウ	ウトプット(ア	ウトカム)情報						②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	関する情報、法人	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
							行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420			
従事人員数 991 981 972 966									従事人員数	991	981	972	966	
(うち常勤職員) (807) (790) (785) (765)							(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)			

3	. 中期目標期間の業	務に係る目標、計画	i、業務実績、中期目標期間評価	西に係る自己評価及び主務大臣	による評価				
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	已評価		主務大臣に	よる評価	
				業務実績	自己評価	(見辺	込評価)	(期間実績評	运価)
	(ウ) ブラウンス	(オ) ブラウンスイ	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
	イス種について、遺	ス種について、牛群	著な成果が得られた	ブラウンスイス種について、	В	<評定に至った理由	>		
	伝的能力評価の実施	検定データの収集状	A:計画を上回る成果が得られた	牛群検定データの収集状況を踏		ブラウンスイス種	重の遺伝的能力評価に		
	に向けた試行に取り	況を踏まえ、遺伝的	B:計画どおり順調に実施された	まえ、遺伝的能力の評価技術に		関し、中期計画に則じ	した取組が継続的に実		
	組む。	能力の評価技術に関	C:計画どおり実施されず、改善	関する検討会を毎年開催し、検		施されていることか	ら「B」評定とした。		
		する検討会を毎年少	を要する	討結果に基づき評価モデルを作					
		なくとも1回開催	D:計画どおり実施されず、当該	成し平成27年から雌牛の遺伝					
		し、平成27年度ま	業務の廃止を含めた抜本的な	的能力評価の試行を行い、計画					
		でに雌牛の遺伝的能	改善を求める必要があると認	どおり実施した。					
		力評価に向けた試行	められる						
		を行う。							

1. 当事務及び事業に関す	- る基本情報		
第2-1-(1)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生	E産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年テ	データ												
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報						②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法人	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
								(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標	票期間の	業務に係る目標、	計画、業務実績、中期目標期	間評価に係る自己評	価及び主務大国	三による評価					
中期目	目標	中期計画	主な評価指標等	法人の美	<b>業務実績・自己</b>	評価		主務大同	至による評	価	
				業務実	績	自己評価	(見	見込評価)		(期	間実績評価)
ウ候補	育種雄牛	ウ 候補種雄牛等	指標=「微項目の項目数×2」(満	<主要な業務実績>			評定	В		評定	
などの生産	産・供給	の生産・供給	点) に対する「各微項目の点数の	□候補種雄牛等の生産	産・供給	В	<評定に至った理由>				
			合計値」(合計点)の比率	△優良な候補種雄牛等	等の生産・		下記のとおり、評価対	対象とした下位の評価	西項目であ		
			各微項目の評価結果の区分は	供給	2/2点(B)		る微項目の合計点がB	評定の判定基準内 (	満点×8/		
			以下のとおりとする。	△SNP情報の活用	2/2点(B)		10≦合計点<12/	10) であったため	0		
			S評価:4点、A評価:3点、B	△泌乳持続性に優れる	る改良用		満 点:8点(微項	目 4×2点)			
	評価: 2点、C評価: 1点、D評			雌牛の作出	2/2点(B)		合計点: 9点=2点>	×3+3点			
	価: 0点			△泌乳能力に優れる費	<b></b>		9点/8点=1.13	(11.3/10)			
			A:満点×12/10≦合計点	の生産			△優良な候補種雄牛等の	の生産・供給	2点(B)		
			B:満点×8/10≦合計点<		2/2点(B)		△SNP情報の活用		2点(B)		
	満点×12/10		満点×12/10	合 計	8/8点		△泌乳持続性に優れる記	改良用雌牛の作出	2点(B)		
	C:満点×5/10≦合計点<						△泌乳能力に優れる改力	良用雌牛の生産	3点(A)		
	満点×8/10							合 計 点	9点		
			D:合計点<満点×5/10								

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-ウ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳	L用牛 ウ 候補種雄牛等の生産	・供給 (ア)優良な候補種雄牛等の生産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

H27 年度
H27 年度

3. 中期目標期間の美	業務に係る目標、計画、	業務実績、中期目標期	間評価に係る自己評価及び主	5評価		
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価) (	期間実績評価)
(ア)「家畜改良増	(ア) 家畜改良増殖目	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定 B 評定	
殖目標」の育種価	標の育種価目標を基	かつ顕著な成果が得ら	ホルスタイン種について、	В	<評定に至った理由>	
目標を基に、我が	に、多様な育種素材の	れた	家畜改良増殖目標による乳量		中期計画に則した候補種雄牛等生産に取り組んでいることか	
国の飼養環境(気	導入を行い、我が国の	A:計画を上回る成果が	及び乳成分量に関する育種価		ら「B」評定とした。	
候、風土、飼料・	飼養環境(気候、風土、	得られた	目標を基に、多様な育種素材			
飼養形態など) に	飼料・飼養形態等) に	B:計画どおり順調に実	の導入を行い牛群を整備し、		<b>&lt;参考&gt;</b>	
適した優良な種畜	適した優良な種畜生産	施された	我が国の飼養環境に適した優		・ホルスタイン種について、家畜改良増殖目標による乳量及び	
生産に取り組むと	に取り組むとともに、	C:計画どおり実施され	良な種畜の生産に取り組ん		乳成分量に関する育種価目標を基に多様な育種素材として精液	
ともに、泌乳持続	民間では取り組み難い	ず、改善を要する	だ。また、その際、民間では		4,633本及び受精卵1,190個を導入し、優良な牛群を	
性や体型など生涯	未経産採卵技術とドナ	D:計画どおり実施され	取り組み難い未経産採卵技術		整備した。	
生産性の向上を図	ーの集合検定を組み合	ず、当該業務の廃止を	とドナーの集合検定を組み合		・未経産採卵技術及びドナーの集合検定を活用し、泌乳及び体	
る。	わせた高度な繁殖技術	含めた抜本的な改善を	わせた高度な繁殖技術等を活		型等の能力に優れ、生涯生産性が高い雄子牛を生産し、その中	
	等を活用し、泌乳持続	求める必要があると認	用し、泌乳持続性や体型等に		から特に能力の優れた123頭を候補種雄牛として供給した。	
	性や体型等に優れ、生	められる	優れ、生涯生産性が高い候補		・初産次の泌乳持続性に係る遺伝的能力評価成績が平均(標準	
	涯生産性が高い種畜を		種雄牛の生産・供給を行い、		化指数が100)以上であったドナーについて3産次までの集	
	生産・供給する。		計画どおり実施した。		合検定を活用し、泌乳持続性が高い雄子牛を生産し、その中か	
					ら特に能力の優れた3頭を候補種雄牛として供給した。	

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-ウ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生	E産・供給 (イ)SNP 情報の活用
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年デ	・ータ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報						②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\				(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の業	務に係る目標、計画	画、業務実績、中期目標期間	引評価に係る自己評価及び	び主務大臣によ					
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価	主務大臣による評価				
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)			
(イ) 遺伝的及び	(イ) 候補種雄牛	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>		評定 B	評定			
能力的な多様性の確	及び改良用雌牛の	つ顕著な成果が得られた	ホルスタイン種につい	В	<評定に至った理由>				
保に配慮しつつ、S	生産・供給に当た	A:計画を上回る成果が得ら	て、SNP情報を活用し		中期計画どおり、候補種雄牛及び改良用雌牛の生産・				
NP遺伝子解析技術	っては、SNP情	れた	た遺伝的能力評価値をも		供給SNP情報を活用した遺伝的能力評価値をもとに、				
を活用した候補種雄	報を活用した遺伝	B:計画どおり順調に実施さ	とに、雄子牛84頭及び		精度の高い選定を行っていることから「B」評定とした。				
牛などの生産・供給	的能力評価値をも	れた	改良用雌牛71頭の生産						
に努める。	とに、精度の高い	C:計画どおり実施されず、	を行った。また、SNP		<b>&lt;参考&gt;</b>				
	選定を行う。	改善を要する	情報を活用した遺伝的能		・ホルスタイン種について、SNP情報を活用した遺伝				
		D:計画どおり実施されず、	力評価値が特に優れた1		的能力評価値が明らかな雌牛のうち、特に能力の優れた				
		当該業務の廃止を含めた抜	12頭を後代検定の候補		ものから、雄子牛84頭及び改良用雌牛71頭の生産を				
		本的な改善を求める必要が	種雄牛として供給し、計		行った。				
		あると認められる	画どおり実施した。		・後代検定の候補種雄牛として、SNP情報を活用した				
					遺伝的能力評価値が特に優れた112頭を供給した。				

1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第2-1-(1)-ウ-(ウ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳	1.用牛 ウ 候補種雄牛等の生産	・供給 (ウ)泌乳持続性に優れる改良用雌牛の作出						
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号						
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4						
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035						

2.	2. 主要な経年データ														
	①主要なアウトプット(アウトカム)情報									②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法人	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
										(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の業務に係	系る目標、計画、業務	等実績、中期目標期間評価	西に係る自己評価及び主務大日	こによる評価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	己評価		主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価		(見込評価)	(期間実	績評価)
(ウ)高い泌乳持続性を有	(ウ) 高い泌乳持続性	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
する優良な候補種雄牛な	を有する優良な候補	かつ顕著な成果が得ら	ホルスタイン種について、高	В	<評定に至った理由>			
どを生産・供給するため、	種雄牛等を生産・供給	れた	い泌乳持続性を有する優良な		中期計画を踏まえ、値	憂良な改良用雌牛の作出に取り組んでいる		
巡乳持続性の遺伝評価値	するため、受精卵移植	A:計画を上回る成果が	候補種雄牛等を生産・供給する		ことから「B」評定とし	した。		
が平均以上で、家畜改良増	技術と3産次までの	得られた	ため、受精卵移植技術を活用す		<参考>			
殖目標の育種価目標数値	ドナーの泌乳持続性	B:計画どおり順調に実	るとともに、ドナーの3産次ま		・受精卵移植技術を活用			
(乳量113kg/年、乳	を明らかにするドナ	施された	での集合検定を行うことによ		等を生産した。			
脂肪2.6kg/年、無脂	ーの集合検定システ	C:計画どおり実施され	り、次世代の候補種雄牛生産の		・ 初産次の遺伝的能力	評価成績において、泌乳持続性評価が平均		
乳固形分9.2 k g/年、	ムを活用することに	ず、改善を要する	基礎とするため、泌乳持続性の		(標準化指数が100)	以上であったドナー233頭について、		
乳蛋白質 2. 9 k g/年)	より、泌乳持続性にお	D:計画どおり実施され	遺伝的能力評価成績が全国平		2 産次集合検定を行った	Co		
以上の遺伝的能力を有す	いて評価成績が平均	ず、当該業務の廃止を	均以上の改良用雌牛を1,04		・2 産次の集合検定を終	を了した泌乳持続性ドナー58頭について、		
る改良用雌牛を生産する。	以上の優良な改良用	含めた抜本的な改善を	3頭作出し、計画どおり実施し		3産次集合検定を行った	€.		
	雌牛を作出する。	求める必要があると認	た。		<ul><li>これらドナーの集合を</li></ul>	倹定システムなどを活用することにより、		
		められる			泌乳持続性の遺伝的能	力評価成績が全国平均以上の改良用雌牛		
					1,043頭を作出し、	これらの改良用雌牛から次世代のドナー		
					を選定した。			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(1)-ウ-(エ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 ウ 候補種雄牛等の生	E産・供給 (エ) 泌乳能力に優れる改良用雌牛の生産
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年データ	ヌ
-------------	---

(1	①主要なアウトプット(アウトカム)情報									
打	<b></b>	達成目標	基準値	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度		
追	量伝的改良量									
	乳量(kg/年)	113kg		354.1kg	230.8kg	221.1kg	186.6kg			
	乳脂肪量 (同上)	2.6kg		11.4kg	9.1kg	9.3kg	7.5kg			
	無脂乳固形分 (同上)	9.2kg		26.3kg	19.0kg	17.7kg	15.7kg			
	乳タンパク量(同上)	5.9kg		9.7kg	7.2kg	$6.6 \mathrm{kg}$	5.9kg			

②主要なインプット情報	②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注									
	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度					
予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261						
決算額(千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191						
経常費用(千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680						
経常利益(千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619						
行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420						
従事人員数	991	981	972	966						
(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)						

						ことに毎日していないため、「四八王中の数値を掲載	
3	・中期目標期間の業	務に係る目標、計画	画、業務実績、中期目標期間評価に係る	る自己評価及び主務大臣による	評価		
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	已評価	主務大臣による割	益価
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
	(ウ) 高い泌乳持続	(エ) 未経産ドナ	指標=2007年生まれと比較して、20	<主要な業務実績>		評定 A	評定
	性を有する優良な候	ーの集合検定シス	08生まれの改良用雌牛の年当たり改良	ホルスタイン種について、未経	В	<評定に至った理由>	
	補種雄牛などを生	テムを活用するこ	量が基準を上回っている形質の割合	産ドナーの集合検定システムを		センターにおいては、元々優れた資質の雌	
	産・供給するため、	とにより、家畜改	S:目標値に対する達成割合が 120%以上	活用することにより、家畜改良増		牛を飼養していることを参酌したとしても	
	泌乳持続性の遺伝評	良増殖目標の育種	であり、かつ特に優れた成果が認められ	殖目標の育種価目標数値(乳量1		専門家の検討の下で策定された家畜改良増	
	価値が平均以上で、	価目標数値(乳量	た場合	13kg/年、乳脂肪2.6kg		殖目標において提示された遺伝的改良量を	
	家畜改良増殖目標の	113kg/年、	A:目標値に対する達成割合が 120%以上	/年、無脂乳固形分9.2 k g/		大きく上回る能力を示す雌牛が生産された	
	育種価目標数値(乳	乳脂肪2.6kg	B:目標値に対する達成割合 100%	年、乳蛋白質2.9 kg/年)以		ことから「A」評定とした。	
	量113kg/年、	/年、無脂乳固形	以上 120%未満	上の遺伝的能力を有する改良用			
	乳脂肪2.6kg/	分9.2 k g/年、	C:目標値に対する達成割合 80 %	雌牛を1,236頭生産した。		<その他事項>	
	年、無脂乳固形分	乳蛋白質 2.9 k	以上 100%未満			目標値に対す達成度合いが 120%以上と思	
	9.2 k g/年、乳	g/年)以上の遺	D:目標値に対する達成割合が 80%			われる「泌乳能力に優れる改良用雌牛の作	
	蛋白質2.9kg/	伝的能力を有する	未満、又は業務運営の改善その他必要な			出」などを「B」と自己評価しているが、メ	
	年)以上の遺伝的能	改良用雌牛を生産	措置を命ずる必要があると認められる			リハリを付けて評価すべき。(有識者会議委	
	力を有する改良用雌	する。				員意見)	
	牛を生産する。						

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報									
第2-1-(1)-工	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)	乳用牛 エ その他								
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号							
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4							
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028							
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035							

2	・主要な経年デ	データ												
	①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の	業務に係る目標、計画	<ul><li>「、業務実績、中期目標期間評価になる。</li></ul>	係る自己評価及び主務大臣に	よる評価		
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣に	よる評価
			業務実績自己評		(見込評価)	(期間実績評価)
(エ) 酪農家の雌	エ その他	指標=「微項目の項目数×2」(満点)	<主要な業務実績>		評定 B	評定
牛を利用して生産	(ア) センターが自ら	に対する「各微項目の点数の合計値」	□その他	В	<評定に至った理由>	
した候補種雄牛の	候補種雄牛を後代検	(合計点) の比率	△後代検定への参加終了		下記のとおり、評価対象とした下位の評価項	<u> </u>
待機業務は、順次	定に参加させること	各微項目の評価結果の区分は以下	2/2点(B)		目である微項目の合計点がB評定の判定基準	<b>崖</b>
縮小し終了する。	については、平成25	のとおりとする。	△候補種雄牛の待機業務終了		内(満点×8/10≦合計点<12/10)で	3
また、候補種雄牛	年度末までに終了す	S評価: 4点、A評価: 3点、B評価:	2/2点(B)		あったため。	
の後代検定への参	る。	2点、C評価:1点、D評価:0点	合 計 4/4点		満 点:4点(微項目2×2点)	
加については、平	(イ) 酪農家の雌牛を	A:満点×12/10≦合計点			合計点: 4点=2点×2	
成25年度末まで	利用して生産及び導	B:満点×8/10≦合計点<満点			4点/4点=1.0 (10/10)	
に終了する。	入した候補種雄牛の	× 1 2/1 0			△後代検定への参加終了 2点(B)	
	待機業務は、平成27	C:満点×5/10≦合計点<満点			△候補種雄牛の待機業務終了 2点(B)	
	年度末までに終了す	× 8/1 0			合計点 4点	
	る。	D:合計点<満点×5/10				

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第2-1-(1)-エ-(ア) 第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1)乳用牛 エ その他 (ア)後代検定への参加終了									
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号						
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4						
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035						

データ													
①主要なアウトプット (アウトカム) 情報							②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	する情報、法	人全体)注		
達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
								(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
		ウトプット (アウトカム)	ウトプット (アウトカム) 情報	ウトプット (アウトカム) 情報	ウトプット (アウトカム) 情報	ウトプット(アウトカム)情報	ウトプット(アウトカム)情報	ウトプット (アウトカム) 情報	ウトプット (アウトカム) 情報     達成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度       一 予算額 (千円) 決算額 (千円) 経常費用 (千円) 経常利益 (千円) 行政サービス実施コスト (千円) 従事人員数	ウトプット (アウトカム) 情報     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       予算額 (千円)     8,682,884       決算額 (千円)     9,127,037       経常費用 (千円)     8,923,393       経常利益 (千円)     8,826,155       行政サービス実施コスト (千円)     8,712,060       従事人員数     991	ウトプット (アウトカム) 情報     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       一     一     一     一     一     日本度     H23年度     H24年度       予算額(千円)     8,682,884     8,967,108     決算額(千円)     9,127,037     8,572,227       経常費用(千円)     8,923,393     8,388,109       経常利益(千円)     8,826,155     8,412,573       行政サービス実施コスト(千円)     8,712,060     8,206,327       従事人員数     991     981	ウトプット (アウトカム) 情報     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       一 達成目標     基準値     X1年度     X3年度     X4年度     X5年度       一 予算額(千円)     8,682,884     8,967,108     8,532,098       決算額(千円)     9,127,037     8,572,227     8,651,460       経常費用(千円)     8,923,393     8,388,109     8,227,741       経常利益(千円)     8,826,155     8,412,573     8,168,306       行政サービス実施コスト(千円)     8,712,060     8,206,327     7,612,425       従事人員数     991     981     972	ウトプット (アウトカム) 情報     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       一     一     第682,884     8,967,108     8,532,098     8,493,261       一     次算額(千円)     8,682,884     8,967,108     8,532,098     8,493,261       次算額(千円)     9,127,037     8,572,227     8,651,460     9,160,191       経常費用(千円)     8,826,155     8,412,573     8,168,306     8,670,619       行政サービス実施コスト(千円)     8,712,060     8,206,327     7,612,425     7,546,420       従事人員数     991     981     972     966

3. 中期目標期間の美	中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評価					
			業務実績	自己評価	(見込評	価)	(期間実績評	平価)		
(エ) 酪農家の雌	(ア) センターが	S:計画を大きく上回り、かつ	<主要な業務実績>		評定	В	評定			
牛を利用して生産	自ら候補種雄牛を	顕著な成果が得られた	センター自らが候補種雄牛	В	<評定に至った理由>					
した候補種雄牛の	後代検定に参加さ	A:計画を上回る成果が得られ	を後代検定に参加させること		平成23年度末の段階で、	、センター自身が候補				
待機業務は、順次	せることについて	た	を中止し、民間事業者に移行		種雄牛を後代検定に参加る	させることを終了して				
縮小し終了する。	は、平成25年度	B:計画どおり順調に実施され	することについて民間事業者		いることから「B」評定と	こした。				
また、候補種雄牛	末までに終了す	た	等と協議し、平成23年度か							
の後代検定への参	る。	C:計画どおり実施されず、改	ら候補種雄牛での貸付を行い							
加については、平		善を要する	自らが候補種雄牛を後代検定							
成25年度末まで		D:計画どおり実施されず、当	に参加させることを終了する							
に終了する。		該業務の廃止を含めた抜本	ことにより、計画を大きく前							
		的な改善を求める必要があ	倒しして実施した。							
		ると認められる								

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第2-1-(1)-エ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (1) 乳	上用牛 エ その他 (イ)候補	<b>挿種雄牛の待機業務終了</b>						
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号						
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4						
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035						

2. 主要な経年ラ	ニータ												
①主要なアウトプット (アウトカム) 情報						②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービ、ス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
						,		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

	中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価 中期目標 中期計画 主な評価指標等 法人の業務実績・自己評価 主務大臣による評価									
中 别 日 倧	中别計画	土な評価指標寺			M. F					
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)				
(エ) 酪農家の雌	(イ) 酪農家の雌牛	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>		評定 B	評定				
牛を利用して生産し	を利用して生産及び	著な成果が得られた	酪農家の雌牛を利用	В	<評定に至った理由>	<評定に至った理由>				
た候補種雄牛の待機	導入した候補種雄牛	A:計画を上回る成果が得られた	して生産及び導入した		中期計画どおり、業務の終了に向けた取組が	着				
業務は、順次縮小し	の待機業務は、平成	B:計画どおり順調に実施された	候補種雄牛の待機業務		実に実施されていることから「B」評定とした					
終了する。また、候	27年度末までに終	C:計画どおり実施されず、改善	は、平成27年度末ま							
補種雄牛の後代検定	了する。	を要する	でに終了することとし		<参考>					
への参加について		D:計画どおり実施されず、当該	ており、計画どおり実		・酪農家の雌牛を利用し生産した雄子牛の導入	は				
は、平成25年度末		業務の廃止を含めた抜本的な	施した。		平成22年度をもって中止しており、これに由	来				
までに終了する。		改善を求める必要があると認			する候補種雄牛による後代検定への参加は平成	2				
		められる			3年度前期をもって終了した。					
					・後代検定成績が判明するまでの待機業務を行	<u>う</u>				
					候補種雄牛として、平成23年度当初には75	頭				
					を飼養していたが、毎年度、判明した後代検定	成				
					績に基づいて選抜・淘汰し、平成26年度末に	は				
					6頭に縮小した。					

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第2-1-(2)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉用牛								
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号						
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4						
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035						

2.	. 主要な経年データ														
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	報						②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
					\		\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の	業務に係る目標	、計画、業務実績、中期目標期間評	価に係る自己評価及び主務大	臣による評価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価			主務大臣によ	よる評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価	<b></b> (五)	(期間実績	責評価)
(2) 肉用牛	(2) 肉用牛		<主要な業務実績>		評定B		評定	
<以下略>	<以下略>	指標=「細項目の項目数×2」(満点)	◇肉用牛	В	<評定に至った理由>			
		に対する「各細項目の点数の合計値」	□全国的な改良の推進		下記のとおり、下位の評	呼価項目である細項		
		(合計点) の比率	2/2点(B)		目の合計点がB評定の半	判定基準内(満点		
		各細項目の評価点数の区分は以下の	□遺伝的能力評価の実施		×8/10≦合計点<満点×12/	/10) であるため。		
		とおりとする。	2/2点(B)		満 点:6点(細項目3>	× 2 点)		
		S評価: 4点、A評価: 3点、B評価:	□候補種雄牛等の生産		合計点: 2点×3=6点	į.		
		2点、C評価:1点、D評価:0点	・供給 2/2点(B)		6点/6点=1.0=1	0/10		
		A:満点×12/10≦合計点	合 計 6/6点					
		B:満点×8/10≦合計点<満点×			□全国的な改良の推進	2点(B)		
		1 2/1 0			□遺伝的能力評価の実施	2点(B)		
		C:満点×5/10≦合計点<満点×			□候補種雄牛等の生産・供	共給 2点(B)		
		8/1 0			合 計	点 6点		
		D:合計点<満点×5/10						

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報								
第2-1-(2)-ア	2-1-(2)-ア 第2業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)肉用牛 ア 全国的な改良の推進								
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号						
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4						
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028						
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035						

2	. 主要な経年テ	ータ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)・	情報					②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法人	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\	\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3	中期目標期間	引の業務に係る	目標、計画、業務実績、中期目標期間評価	に係る自己評価及び主務大臣	による評価				
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	<b>己評価</b>		主務大臣に	よる評価	
				業務実績	自己評価	(見i	込評価)	(期間実績語	平価)
	ア 全国的な	ア 全国的な	指標=「微項目の項目数×2」(満点) に対する	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
	改良の推進	改良の推進	「各微項目の点数の合計値」(合計点)の比率	□全国的な改良の推進	В	<評定に至った理由>	>		
	<以下略>	<以下略>	各微項目の評価結果の区分は以下のとおりと	△全国的な肉用牛の改良推進		下記のとおり、評価	所対象とした下位の評価項		
			する。	2/2点(B)		目である微項目の合詞	計点がB評定の判定基準		
			S評価: 4点、A評価: 3点、B評価: 2点、	△広域後代検定の推進		内 (満点×8/10≦	合計点<12/10)で		
			C評価:1点、D評価:0点	2/2点(B)		あったため。			
			A:満点×12/10≦合計点	合 計 4/4点		満 点:4点(微項	頁目 2×2 点)		
			B:満点×8/10≦合計点<満点×12/10			合計点: 4点=2点	ī×2		
			C:満点×5/10≦合計点<満点×8/10			4点/4点=1.0	(10/10)		
			D:合計点<満点×5/10			△全国的な肉用牛の改	文良推進 2点(B)		
						△広域後代検定の推進	<b>2</b> 点(B)		
						<u></u>	計 点 4点		

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ア-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉	肉用牛 ア 全国的な改良の推進	(ア)全国的な肉用牛の改良推進
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年デ	データ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)・	情報					②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法人	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価	<b>H</b>		主務大臣に	よる評価	
			業務実績	自己評価	(見ì	込評価)	(期間実績	評価)
(ア) 全国的な	(ア) 全国的な肉用牛の	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
肉用牛の改良推	改良推進を図るため、セ	り、かつ顕著な成果	全国的な肉用牛の改良推進を図るため、	В	<評定に至った理由	1>		
進を図るため、	ンターが農林水産省、都	が得られた	農林水産省、都道府県、関係団体、生産者		中期計画どおり、	関係者を参集した全国		
農林水産省、都	道府県、関係団体、生産	A:計画を上回る成果	及び学識経験者の参画を得て、「肉用牛評		会議の開催、肉用牛	改良に関する各種会議		
道府県、関係団	者及び学識経験者を参集	が得られた	価技術検討会」等を開催し、我が国におけ		への積極的な参加と	:技術的助言、連携協力		
体、生産者及び	して会議を開催し、我が	B:計画どおり順調に	る肉用牛の改良の方向性に沿ったセンタ		を行うなど肉用牛引	女良において指導的な		
学識経験者との	国における家畜改良の方	実施された	ーの業務のあり方について意見・情報交換		役割を果たしている	ると見込まれることか		
意見・情報交換	向性に沿ったセンターの	C:計画どおり実施さ	を行い、早熟性、飼料利用性及び繁殖性に		ら「B」評定とした	<b>-</b> 0		
において、積極	業務のあり方について意	れず、改善を要する	係る新たな遺伝的能力評価手法の導入に					
的に指導的役割	見・情報交換を行い、業	D:計画どおり実施さ	向けた検討などの業務に反映した。また、					
を果たすととも	務に反映する。また、農	れず、当該業務の廃	都道府県等が開催する肉用牛の改良に関					
に、都道府県、	林水産省、都道府県、関	止を含めた抜本的な	する各種会議に積極的に参画し、肉用牛改					
関係団体などと	係団体等が開催する家畜	改善を求める必要が	良をめぐる情勢を説明するなどの技術的					
の役割分担の明	改良に関する各種会議に	あると認められる	助言や肉用牛改良事業に係る連携協力を					
確化を図る。	積極的に参画し、技術的		行う等により指導的な役割を果たし、計画					
	助言、連携協力を行う等		どおり実施した。					
	指導的な役割を果たす。							

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ア-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 ア 全国的な改良の推	進(イ)広域後代検定の推進
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年テ	ニータ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	<b>青</b> 報					②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法人	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
					\	\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	閉間評価に係る自己評価及び主務大   法人の業務実績・自己			 こよる評価
1 791 11/1/1	1 /911111111111111111111111111111111111	工,华山 圃15/1/4	業務実績	<u>'' '''''</u> 自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(イ)遺伝的能力	(イ) 毎年、全国	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>		評定 B	評定
の高い検定済種	同一基準による遺	つ顕著な成果が得られた	毎年、全国同一基準による遺伝的能	В	<評定に至った理由>	
雄牛の広域的な	伝的能力評価を行	A:計画を上回る成果が得ら	力評価を行い、この評価結果を全都道		中期計画どおり、毎年、全国同一基準に	-
利用を図るため、	い、この評価結果	れた	府県に提供するとともに、センターが		よる遺伝的能力評価を行っていることから	
全国同一基準に	に基づいて選抜さ	B:計画どおり順調に実施さ	都道府県に対して行った精液利用希		「B」評定とした。	
よる評価を行う	れた能力の高い検	れた	望調査結果等に基づき農林水産省が			
後代検定を推進	定済種雄牛につい	C:計画どおり実施されず、	選定した能力の高い共同利用種雄牛			
する。	てその精液の広域	改善を要する	について、その精液を32県に配布す			
	的な利用を推進す	D:計画どおり実施されず、	ることなどにより広域的な利用を推			
	る。	当該業務の廃止を含めた抜	進し、計画どおり実施した。			
		本的な改善を求める必要が				
		あると認められる				

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-イ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 図	肉用牛 イ 遺伝的能力評価の実	拖
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

. 主要な経年テ	データ												
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報	<b>设</b>					②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	する情報、法人	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
						\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3.	中期目標期間の	の業務に係る目標	票、計画、業務実績、中期目標	期間評価に係る自己評	平価及び主務大臣	<b>ごによる評価</b>				
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業	養寒績・自己評	価		主務大臣に	よる評価	
				業務実績	責	自己評価	(見込	込評価)	(期間	]実績評価)
	イ 遺伝的能力	イ 遺伝的能力	指標=「微項目の項目数×2」	<主要な業務実績>			評定	В	評定	
	評価の実施	評価の実施	(満点) に対する「各微項目の	□遺伝的能力評価の実施	<b></b>	В	<評定に至った理由>	>		
	<以下略>	<以下略>	点数の合計値」(合計点)の比率	△肉用牛枝肉情報全国データ			下記のとおり、評価	西対象とした下位の評価		
			各微項目の評価結果の区分は	ベースによる情報提供	共 2/2点(B)		項目である微項目の含			
			以下のとおりとする。				準内 (満点×8/10			
			S評価:4点、A評価:3点、	△遺伝的能力の評価・ク	公表		であったため。			
			B評価:2点、C評価:1点、		2/2点(B)		満 点:6点(微項	頁目 2×2 点)		
			D評価: 0点	△評価手法の改善	2/2点(B)		合計点: 6点=2点	≅×2		
			A:満点×12/10≦合計点	合 計	6/6点		6点/6点=1.0	(10/10)		
			B:満点×8/10≦合計点<				△肉用牛枝肉情報全国	国データ		
			満点×12/10				ベースによる情報携	是供 2点(B)		
			C:満点×5/10≦合計点<				△遺伝的能力の評価・	公表 2点(B)		
			満点×8/10				△評価手法の改善			
			D:合計点<満点×5/10					計点 6点		

4. その他参考情報			

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-イ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 イ 遺伝的能力評価の	実施 (ア) 肉用牛枝肉情報全国データベースによる情報提供
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	. 主要な経年テ	ニータ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	報			②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
				\	\	\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価	主務大臣による評	価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(ア) 産肉能力に基	(ア) 産肉能力に基	S:計画を大きく上回り、かつ顕	<主要な業務実績>		評定 B	評定
づく改良を推進する	づく改良を推進する	著な成果が得られた	産肉能力に基づく改良を	В	<評定に至った理由>	
ため、枝肉情報を集	ため、黒毛和種、褐	A:計画を上回る成果が得られた	推進するため、黒毛和種、		中期計画に則して、枝肉情報の収集・分析、改良の基	: :
計し、改良の基礎情	毛和種及び日本短角	B:計画どおり順調に実施された	褐毛和種及び日本短角種に		礎情報としての提供が実施されていることから「B」評	
報として提供する。	種に係る肉用牛枝肉	C:計画どおり実施されず、改善	係る肉用牛枝肉情報全国デ		定とした。	
	情報全国データベー	を要する	ータベースに収集された枝		<参考>	
	スに収集された枝肉	D:計画どおり実施されず、当該	肉情報を集計し種雄牛、肥		・毎年、枝肉情報を黒毛和種約293千頭、褐毛和種約3	3
	情報を集計・分析し、	業務の廃止を含めた抜本的な改	育県、肥育農家毎の枝肉成		千頭、日本短角種約1千頭分を収集し、平成26年度末	
	改良の基礎情報とし	善を求める必要があると認めら	績について分析を行い、改		までに総計で各々約 2,414 千頭、19 千頭、5 千頭を肉用	
	て関係機関に毎年提	れる	良の基礎情報として関係機		牛枝肉情報全国データベースに蓄積した。	
	供する。		関に毎年提供し、計画どお		・黒毛和種、褐毛和種及び日本短角種については、全国	
			り実施した。		団体、都道府県等からの申請に基づき、枝肉情報を提供	:
					するとともに、黒毛和種については四半期毎に種雄牛別	
					情報等を集計し、肥育農家に提供したほか、申請のあっ	
ı					た肥育農家に対し個別の集計情報を提供した。	

1. 当事務及び事業に関す	1. 当事務及び事業に関する基本情報												
第2-1-(2)-イ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 図	肉用牛 イ 遺伝的能力評価の実施	施 (イ)遺伝的能力の評価・公表										
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号										
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4										
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028										
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035										

2	. 主要な経年ラ	. 主要な経年データ													
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	<b>弄</b> 幸				②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注			
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
						\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標	期間の業	務に係る目標、計画	i、業務実績、中期目標期間	評価に係る自己評価及び主務	大臣による評価		
中期	目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	・自己評価	主務大臣によ	る評価
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(イ) 全国	の改良動	(イ) 全国の改良動	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>		   評定 B	評定
向を把握す	るため、	向を把握するため、	つ顕著な成果が得られた	全国の改良動向を把握する	В	<評定に至った理由>	
遺伝的能力	を定期的	肉用牛枝肉情報全国	A:計画を上回る成果が得ら	ため、肉用牛枝肉情報全国デ		中期計画どおり、遺伝的能力を定期的に評	
に評価し、	公表する。	データベースに蓄積	れた	ータベースに蓄積された情報		価し、毎年公表していることから「B」評定	
		された情報等から、	B:計画どおり順調に実施さ	等から、黒毛和種、褐毛和種		とした。	
		黒毛和種、褐毛和種	れた	及び日本短角種の遺伝的能力			
		及び日本短角種の遺	C:計画どおり実施されず、	について定期的に評価を行い		<参考>	
		伝的能力を定期的に	改善を要する	毎年公表し、計画どおり実施		・各年度毎に肉用牛枝肉情報全国データベー	
		評価し、毎年公表す	D:計画どおり実施されず、	した。		スに蓄積された情報を用いて、黒毛和種、複	
		る。	当該業務の廃止を含めた抜			毛和種(高知系及び熊本系)及び日本短角種	
			本的な改善を求める必要が			の枝肉重量及びBMS等について遺伝的能	
			あると認められる			力の評価を行い、得られた全国の改良動向を	
						毎年3月に公表した	

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-イ-(ウ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉	肉用牛 イ 遺伝的能力評価の実	施 (ウ) 評価手法の改善
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	主要な経年デ	データ												
	①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム) 情	報					②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\	\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の業	養務に係る目標、計画	ī、業務実績、中期目標期間	評価に係る自己評価及び主務大日	<b>Eによる評価</b>		
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己	已評価	主務大臣によ	る評価
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(ウ) 肉質以外の	(ウ) 遺伝的能力評	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>		評定 B	評定
早熟性、飼料利用性	価手法について、肉	つ顕著な成果が得られた	遺伝的能力評価手法について、	В	<評定に至った理由>	
及び繁殖性に係る形	質以外の早熟性、飼	A:計画を上回る成果が得ら	肉質以外の早熟性、飼料利用性及		中期計画に則して新たな評価方法の導入に	向けた
質を評価に加味する	料利用性及び繁殖性	れた	び繁殖性に係る形質データの収集		取組を実施していることから「B」評定とした	た。
など、新たな評価手	に係る形質データの	B:計画どおり順調に実施さ	状況を踏まえ、遺伝的能力の評価			
法の導入に向けた取	収集状況を踏まえ、	れた	技術に関する検討会を毎年開催		<参考>	
組を行う。	遺伝的能力の評価技	C:計画どおり実施されず、	し、繁殖性については評価モデル		·(独)農業·食品産業技術総合研究機構畜産	草地研
	術に関する検討会を	改善を要する	を作成し、早熟性及び飼料利用性		究所などの学識経験者等の参画を得て、遺伝的	的
	毎年開催し、新たな	D:計画どおり実施されず、	については試行に向けた検討を行		能力の評価技術に関する検討会を毎年開催し	、早熟
	評価手法の導入に向	当該業務の廃止を含めた抜	い、計画どおり実施した。		性、飼料利用性及び繁殖性に係る新たな評価	手法
	けた取組を行う。	本的な改善を求める必要が			の導入に向けた検討を行った。	
		あると認められる			・これらの検討結果を踏まえ、繁殖性につい	ては遺
					伝的能力評価に向けた評価モデルを作成する	ことと
					し、さらに早熟性及び飼料利用性については	、遺伝
					的能力評価の試行に向け検討を行うこととした	た。

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ウ	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産	産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

・主要な経年テ	データ													
①主要なアウトプット (アウトカム) 情報									②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注					
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
						\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	
	①主要なアウ		①主要なアウトプット(アウトカム)情	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報	①主要なアウトプット(アウトカム)情報	①主要なアウトプット(アウトカム)情報	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報     2主要なインプット情報       指標等     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       予算額 (千円) 決算額 (千円) 経常利益 (千円) 行政サービ 水実施コスト (千円) 従事人員数 (うち常勤職員)	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報       指標等     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       一     一     一     一     一     一     一     一     一     上23年度       子算額(千円)     8,682,884     決算額(千円)     9,127,037     経常費用(千円)     8,923,393     経常利益(千円)     8,826,155     行政サービス実施コスト(千円)     8,712,060     従事人員数     991       (うち常勤職員)     (807)     (807)     (307)	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報     ②主要なインプット情報 (財務情報及び人員に関 生成目標 基準値 X1年度 X2年度 X3年度 X4年度 X5年度     ※ 2年度 X3年度 X4年度 X5年度     ※ 4年度 X5年度     ※ 5算額 (千円) 8,682,884 8,967,108 9,127,037 8,572,227 経常費用 (千円) 8,923,393 8,388,109 経常利益 (千円) 8,826,155 8,412,573 行政サービ ス実施コスト (千円) 8,712,060 8,206,327 従事人員数 991 981 (55ち常勤職員) (807) (790)	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報     ②主要なアウトプット (アウトカム) 情報       指標等     達成目標     基準値     X 1 年度     X 2 年度     X 3 年度     X 4 年度     X 5 年度       一次算額(千円)     8,682,884     8,967,108     8,532,098       決算額(千円)     9,127,037     8,572,227     8,651,460       経常費用(千円)     8,923,393     8,388,109     8,227,741       経常利益(千円)     8,826,155     8,412,573     8,168,306       行政サービス実施コスト(千円)     8,712,060     8,206,327     7,612,425       従事人員数     991     981     972	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報     ②主要なインプット情報 (財務情報及び人員に関する情報、法人全体) 注       指標等     達成目標     基準値     X1年度     X2年度     X3年度     X4年度     X5年度       一     一     一     一     一     日本度     日本度

. 中期目標期間	の業務に係る目標	、計画、業務実績、中期目標	票期間評価に係る自己評価及び主務大臣に	よる評価		
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己評価	Ī	主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
ウ 候補種雄牛	ウ 候補種雄牛等	指標=「微項目の項目数×2」	<主要な業務実績>		評定 B	評定
などの生産・	の生産・供給	(満点) に対する「各微項目	□候補種雄牛等の生産・供給	В	<評定に至った理由>	
供給	<以下略>	の点数の合計値」(合計点)の	△黒毛和種の多様性確保及び		下記のとおり、評価対象とした下位の評価項目である微項目の	り
<以下略>		比率	候補種雄牛等の生産・供給		合計点がB評定の判定基準内(満点×8/10≦合計点<12/	
		各微項目の評価結果の区分	2/2点(B)		10) であったため。	
		は以下のとおりとする。	△増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛		満 点:10点(微項目 5×2点)	
		S評価:4点、A評価:3点、	の生産 2/2点(B)		合計点:10点=2点×5	
		B評価:2点、C評価:1点、	△黒毛和種における飼料利用性、早熟性等		10点/10点=1.0 (1/10)	
		D評価: 0点	に関する検定手法の開発 2/2点(B)		△黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産	
		A:満点×12/10≦合計点	△褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産		• 供給 2点(B)	)
		B:満点×8/10≦合計点<	・供給 2/2点(B)		△増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産 2点(B)	)
		満点×12/10	△日本短角種の多様性確保及び育種改良		△黒毛和種における飼料利用性、早熟性等に関する	
		C:満点×5/10≦合計点<	素材の生産・供給 2/2点(B)		検定手法の開発雄系品種の肉質改良 2点(B)	)
		満点×8/10	合 計 10/10点		△掲毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給 2点(B)	)
		D:合計点<満点×5/10			△日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の生産	
					・供給 2点(B	)
					合 計 点 10点	

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ウ-(ア)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉	月月牛 ウ 候補種雄牛等の生産	・供給 (ア) 黒毛和種の多様性確保及び候補種雄牛等の生産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	. 主要な経年ラ	データ												
	①主要なアウ	トプット(アウ	カトカム)情	報					②主要なインプット情	報(財務情報	及び人員に関	引する情報、法	人全体)注	
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
									予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
									決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
									経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
									経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
									行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
									従事人員数	991	981	972	966	
			\						(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

. 中期目標期間の業	務に係る目標、計画、業	<b>美務実績、中期目標期間</b>	評価に係る自己評価及び主務大臣	による評価		
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自己記	平価	主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
(ア) 黒毛和種につ	(ア)黒毛和種について、	S:計画を大きく上回	<主要な業務実績>		評定 B	評定
いては、	多様な育種素材の導入を	り、かつ顕著な成果	黒毛和種について、多様な育種素	В	<評定に至った理由>	
① 多様な育種素材	行い、基礎となる4系統	が得られた	材の導入を行い、基礎となる4系統		中期計画どおり、遺伝的多様性の確保や増体性等に配慮し	
及び都道府県や民間	群や5つの希少系統を積	A:計画を上回る成果	群や5つの希少系統を積極的に活		た優良な候補種雄牛等を生産・供給していることから「B」	
では取り組み難い高	極的に活用することによ	が得られた	用することにより遺伝的に特徴あ		評定とした。	
度な技術を活用し、	り遺伝的に特徴ある牛群	B:計画どおり順調に	る牛群を維持するとともに、民間等			
遺伝的に特徴ある牛	を維持するとともに、民	実施された	では取り組み難い生体卵胞卵子吸		<参考>	
群を維持するととも	間等では取り組み難い生	C:計画どおり実施さ	引技術、体外受精技術等の高度な技		・育種素材の収集については、黒毛和種の基礎となる4系統	
に、我が国の遺伝的	体卵胞卵子吸引技術、体	れず、改善を要する	術を活用して平成26年度末まで		群や5つの希少系統に係る遺伝子保有確	
多様性の確保や増体	外受精技術等の高度な技	D:計画どおり実施さ	に1,341頭の雌牛群を整備した。		率、血統等を考慮し、県、関係団体、農協等から精液 6,868	
性などに配慮した優	術を活用し、遺伝的多様	れず、当該業務の廃	また、遺伝的多様性の確保や増体性		本、受精卵 423 個及び雌牛 53 頭を選定・導入した。	
良な候補種雄牛など	性の確保や増体性等に配	止を含めた抜本的な	等に配慮した優良な候補種雄牛等		・ 生体卵胞卵子吸引技術、体外受精技術等の高度な技術を活	
を生産する。	慮した優良な候補種雄牛	改善を求める必要が	を生産し、後代検定候補種雄牛とし		用しつつ雄子牛を生産し、遺伝的多様性の確保や高い増体性	
<以下略>	等を生産・供給する。	あると認められる	て70頭を供給し、計画どおり実施		等が期待される 186 頭について、直接検定を実施した。	
	<以下略>		した。		・直接検定を実施した雄子牛のうち70頭を、後代検定候補種	
					雄牛として民間人工授精事業体に供給した。	

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ウ-(イ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 図	肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産	・供給 (イ) 増体性に優れる黒毛和種候補種雄牛の生産
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

Ω	主要な経年データ
2.	土安は胜牛ノーグ

① 要なアウ	トプット()	アウトカ・	ム)情報					②主要なインプット情	報
指標等	達成目標	基準値	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	合計		Н
直接検定								予算額 (千円)	
実施頭数			7	5	1 2	1 6	4 0	決算額 (千円)	
(頭)								経常費用 (千円)	
1日あたり								経常利益 (千円)	
増体量	1.1以上		1.19	1.15	1.18	1.13	1.16	行政サービス実施コスト (千円)	
(kg/日)								従事人員数	
								(うち常勤職員)	

 ②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	する情報、法人	人全体) 注	
	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
従事人員数	991	981	972	966	
(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3. 中期目標期間の美	<b>養務に係る目標、計</b>	画、業務実績、中期目標期間評価に	に係る自己評価及び主務大臣	による評価				
中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	己評価		主務大臣に	よる評価	
			業務実績	自己評価	(見i	込評価)	(其	明間実績評価)
(ア) 黒毛和種に	(イ) 増体性に優	指標=1日当たりの増体量	<主要な業務実績>		評定	В	評定	
ついては、	れた黒毛和種候補	S:目標値に対する達成割合が 110%	増体性に優れた黒毛和種候	В	<評定に至った理由	1>		
① 多様な育種素材	種雄牛の生産に当	以上であり、かつ特に優れた成果が	補種雄牛を生産するため、毎		中期計画に示した	と目標値を達成してい		
及び都道府県や民間	たっては、適度に	認められた場合	年度、遺伝子保有確率等を活		ることから「B」評	定とした。		
では取り組み難い高	脂肪交雑を維持し	A:目標値に対する達成割合が	用して選抜した雄子牛につい					
度な技術を活用し、	つつ、毎年遺伝的	110 %以上	て直接検定を実施した。本中					
遺伝的に特徴ある牛	能力評価等を活用	B:目標値に対する達成割合が 90%	期期間中に直接検定を実施し					
群を維持するととも	することにより、	以上 110%未満	た40頭の1日当たり増体量					
に、我が国の遺伝的	直接検定成績にお	C:目標値に対する達成割合が 70%	の平均値は1. 16kgであ					
多様性の確保や増体	いて1日当たり増	以上 90%未満	り、目標の1.1kg以上を					
性などに配慮した優	体量が概ね1.1	D:目標値に対する達成割合が 70%	達成した。					
良な候補種雄牛など	k g 以上の候補種	未満、又は業務運営の改善その他必						
を生産する。	雄牛を生産する。	要な措置を命ずる必要があると認め						
<以下略>		られる						

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ウ-(ウ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2) 肉	用牛 ウ 候補種雄牛等の生産・	供給(ウ)黒毛和種における飼料利用性、早熟性等に関する検定手法の開発
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2. 主要な経年ラ	データ												
①主要なアウ	トプット(ア	ウトカム)情報						②主要なインプット情報	報(財務情報	及び人員に関	する情報、法	人全体)注	
指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
								予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
								決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
								経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
								経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
								行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
								従事人員数	991	981	972	966	
						\		(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・自	自己評価	主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価
(ア) 黒毛和種について	(ウ) 飼料利用	S:計画を大きく上回り、か	<主要な業務実績>		評定 B	評定
は、	性、早熟性等に関	つ顕著な成果が得られた	黒毛和種の飼料利用性、	В	<評定に至った理由>	
① 多様な育種素材及び	して、これらに係	A:計画を上回る成果が得ら	早熟性等について、これら		中期計画どおり、飼料利用性、早熟性等に係る検定手法	
都道府県や民間では取り	る形質データの	れた	に係る形質データを収集		の開発に取り組んでいることから「B」評定とした。	
組み難い高度な技術を活	収集を継続的に	B:計画どおり順調に実施さ	するための調査を行うと			
用し、遺伝的に特徴ある	行い、検討会を毎	れた	もに、学識経験者などから		<参考>	
牛群を維持するととも	年開催し、検定手	C:計画どおり実施されず、	構成される検討会を毎年		・平成24年10月から調査牛を生産するための交配を開	
に、我が国の遺伝的多様	法の開発に取り	改善を要する	開催し、検定手法について		始するとともに、平成26年7月から調査を開始し、飼料	
性の確保や増体性などに	組む。	D:計画どおり実施されず、	検討を行い、調査方法等を		利用性、早熟性等に係る形質データを収集した。	
配慮した優良な候補種雄		当該業務の廃止を含めた抜	決定するとともに、調査牛		・黒毛和種の飼料利用性及び早熟性の検定手法開発に供す	
牛などを生産する。		本的な改善を求める必要が	を生産して調査を開始し、		る候補種雄牛を選定し、調整交配を実施するともに、調査	
<以下略>		あると認められる	計画どおり実施した。		牛を生産し、調査を開始した	

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ウ-(エ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生産	産・供給 (エ) 褐毛和種の多様性確保及び種畜の生産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2	. 主要な経年データ														
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト (千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
					\	\	\			(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績・	自己評価		評価			
			業務実績	自己評価		(見込評価)		(期間実績	評価)
(イ) 褐毛和種に	(エ) 褐毛和種につい	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>		評定	В	評定		
ついては、我が国	て、関係都道府県等よ	かつ顕著な成果が得ら	褐毛和種について、関	В	<評定に至った理	由>			
の肉用牛の多様	り育種素材を収集す	れた	係都道府県等より多様な		中期計画に沿っ	た種畜の生産供給等が実施されてい	いることか		
性を確保するた	ることにより、多様な	A:計画を上回る成果が	育種素材を収集し、遺伝		ら「B」評定とし	<i>†</i> z。			
め、遺伝的に特徴	育種素材の導入を行	得られた	的に特徴のある牛群を維						
のある牛群を維	い、遺伝的に特徴のあ	B:計画どおり順調に実	持するとともに、卵巣か		<参考>				
持し、種畜を生	る牛群を維持し、卵巣	施された	ら採取した卵子を利用し		・育種素材の収集	については、血統等を考慮し、県、農	<b>豊協等から</b>		
産・供給する。	から採取した卵子を	C:計画どおり実施され	た体外受精技術等の民間		平成26年度まで	に精液513本、受精卵22個及び卵	『巣21頭		
	利用した体外受精技	ず、改善を要する	等では取り組み難い高度		分を選定・導入し	、牛群を維持した。			
	術等の民間等では取	D:計画どおり実施され	な技術を活用して種畜を		・遺伝的多様性の研	確保が期待される11頭について、平	元成26年		
	り組み難い高度な技	ず、当該業務の廃止を	生産し、後代検定候補種		度までに直接検定	を実施した。			
	術を活用しつつ、種畜	含めた抜本的な改善を	雄牛として4頭を供給		・直接検定を実施	した雄子牛のうち4頭を、後代検定修	<b>吴補種雄牛</b>		
	を生産・供給する。	求める必要があると認	し、計画どおり実施した。		として供給した。				
		められる			・ 体外受精等の高	高度な技術を活用して生産した後代検	食定候補種		
					雄牛の能力を把握	するため、県、関係団体等と協力し、	現場後代		
					検定を実施した。				

1. 当事務及び事業に関す	る基本情報		
第2-1-(2)-ウ-(オ)	第2 業務の質の向上 1 家畜改良及び飼養管理の改善 (2)	肉用牛 ウ 候補種雄牛等の生	産・供給 (オ) 日本短角種の多様性確保及び育種改良素材の生産・供給
業務に関連する政策・施	食料・農業・農村基本計画、家畜改良増殖目標、酪農及び肉用牛	当該事業実施に係る根拠	独立行政法人家畜改良センター法第11条第1項第1号、第2号
策	生産の近代化を図るための基本方針		家畜改良増殖法第3条の4
当該項目の重要度、難易		関連する政策評価・行政事業	行政事業レビューシート事業番号:0028
度		レビュー	行政事業レビューシート事業番号:0035

2.	. 主要な経年データ														
	①主要なアウトプット (アウトカム) 情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報、法人全体)注						
	指標等	達成目標	基準値	X1年度	X2年度	X3年度	X4年度	X5年度			H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
										予算額 (千円)	8,682,884	8,967,108	8,532,098	8,493,261	
										決算額 (千円)	9,127,037	8,572,227	8,651,460	9,160,191	
										経常費用 (千円)	8,923,393	8,388,109	8,227,741	8,675,680	
										経常利益 (千円)	8,826,155	8,412,573	8,168,306	8,670,619	
										行政サービス実施コスト(千円)	8,712,060	8,206,327	7,612,425	7,546,420	
										従事人員数	991	981	972	966	
						\				(うち常勤職員)	(807)	(790)	(785)	(765)	

3	3. 中期目標期間の業務に係る目標、計画、業務実績、中期目標期間評価に係る自己評価及び主務大臣による評価											
	中期目標	中期計画	主な評価指標等	法人の業務実績	• 自己評価	主務大臣による評価						
				業務実績	自己評価	(見込評価)	(見込評価)		評価)			
	(ウ) 日本短角種に	(オ) 日本短角種に	S:計画を大きく上回り、	<主要な業務実績>	<自己評価>	評定	В	評定				
	ついては、我が国の	ついては、我が国の	かつ顕著な成果が得られ	日本短角種について	В	<評定に至った理由>						
	肉用牛の多様性を確	肉用牛の多様性を確	た	は、我が国の肉用牛の		中期計画どおり、育種改良素材	すを生産提供しているこ					
	保するため、遺伝的	保するため、関係都	A:計画を上回る成果が得	多様性を確保するた		とから「B」評定とした。						
	に特徴のある牛群を	道府県等より育種素	られた	め、関係都道府県等よ								
	維持し、センターの	材を収集することに	B:計画どおり順調に実施	り育種素材を収集す		<参考>						
	保有する家畜を、育	より、遺伝的に特徴	された	ることにより、遺伝的		・育種素材の収集について、日本	知角種の主要飼養県等					
	種改良素材として必	のある牛群を維持	C:計画どおり実施されず、	に特徴のある牛群を		と意見・情報交換を行ったほか、	血統等を考慮し、県か					
	要に応じて提供す	し、育種改良素材を	改善を要する	維持するとともに、育		ら精液50本を選定・導入した。						
	る。	生産・供給する。	D:計画どおり実施されず、	種改良素材を生産し		・日本短角種の主要飼養県とは血	1統的に異なる牛群を維					
			当該業務の廃止を含めた	雌牛37頭を供給し、		持するため、計画交配を行い子牛	=213頭を生産した。					
			抜本的な改善を求める必	計画どおり実施した。		・育種改良素材として雌牛37頭	頁、精液1,724本及					
			要があると認められる			び受精卵14個を供給した						